

**令和 8 (2026)年度**

**シラバス**

**- 2 年次 -**

科目No.	BBS02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療統計学		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	科学的思考の基礎		必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスポモーション						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	EBM(根拠にもとづいた医療)を行うため、また卒業研究等を行う前提知識として、統計学の基礎と医療分野での活用法について学習する。このことにより、本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な統計手法の意味や意図を理解できる</li> <li>2. 医療分野における統計を根拠とした議論に対し、その妥当性を検討することができる</li> <li>3. 医療分野における統計学的知識の重要性と限界について説明できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	基本的に座学だが、2回の演習を行う。高校数学のデータ分析・確率・統計分野を復習しておくことと理解に役立つ。教科書は特に指定しないが、各自で参考文献を参照し予復習すること。特に、仮説検定・推定の基本的な考え方については繰り返し復習しておくこと。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、stream上に授業動画をアップロードする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション・研究手法（講義の目的等について）				復習: EBMの重要性についてまとめること		
2. 統計の基礎1（要約統計量、平均、分散、標準偏差）				復習: 統計量の計算に慣れておくこと		
3. 統計の基礎2（サンプリング、標本、中心極限定理）				復習: 中心極限定理についてまとめること		
4. 仮説検定1（z検定、t検定）				復習: z検定・t検定の計算に慣れておくこと		
5. 仮説検定2（カイ2乗検定）				復習: カイ2乗検定の計算に慣れておくこと		
6. 仮説検定3（演習）				予習: 検定の考え方に慣れておくこと		
7. 推定（区間推定）				復習: 区間推定の計算に慣れておくこと		
8. 定期試験及びフィードバック				復習: 試験で誤答した部分をまとめること		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30 %	□レポート %	□定期試験 70 %	□その他 %	
	基準等	講義内で小テストを2回行い、理解度を評価する。		定期試験において講義内容全般について理解度を問う。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
参考図書	五十嵐中 他	「医療統計」わかりません!!		東京図書	2010	
	白砂堤津耶	例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版		日本評論社	2015	
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第1共同研究室		オフィスアワー	※検討中		

科目No.	BPL05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	教育学 I		担当教員 E-Mail	中裕 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人間と生活	選択必修	2 単位	後 期 (30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	高等学校で1年間（保健体育）、専門学校で13年間（トレーニング理論等）の勤務経験のある教員がその経験を生かして、学校現場にて実施されている教育を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	臨床現場においてセラピストは、後輩、他職種、患者と家族、実習生など、様々な対象者に教育を行う場面に遭遇する。本講義では、教育学の教養について教育原論や教育心理学を中心に概説し、教育学の基本的な内容を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 教育における意義や目的と捉え方、具体的な教育の内容や教授方法を説明できる 2. 教育評価の考え方、活用方法を説明できる 3. 心身の発達と学習過程、学習目標と動機づけなどを説明できる					
対面授業の 進め方	講義形式にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft Teams を利用して時間割と同時刻にて実施する。Microsoft Power Point や配布プリントに沿って解説を行う。その場合、毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. オリエンテーション：教育とは			復習：教育の種類や効果をまとめる			
2. 教育現場①：教師と教員、生徒と学生、学校と社会、他			復習：教育関係者の役割をまとめる			
3. 教育現場②：教育施設、教育設備、教育課程、教育評価			復習：教育課程・教科指導をまとめる			
4. 教育現場③：教育技術、教育評価、教員の資質・能力、他			復習：教育技術・評価方法をまとめる			
5. 教育の歴史・教育観：対話法、実物教授、自然主義教育			復習：教育の歴史をまとめる			
6. 小テスト、前半のまとめ			復習：前半のポイントをまとめる			
7. 基本的教授法・学習方法①：提示、実践、発見、強化			復習：教授法の実際についてまとめる			
8. 基本的教授法・学習方法②：アクティブラーニング（BS法・KJ法）			復習：教授法の実際についてまとめる			
9. 基本的教授法・学習方法③：アクティブラーニング、発問・質問			復習：教授法の実際についてまとめる			
10. 発達理論①：心理社会的発達理論、他			復習：心理社会的発達理論をまとめる			
11. 発達理論②：認知発達段階説、他			復習：認知発達段階説をまとめる			
12. 教育心理学①：注意機能、記憶と忘却、学習の機構			復習：記憶の類型をまとめる			
13. 教育心理学②：学習曲線、学力の3要素、動機づけ、他			復習：動機づけの概念をまとめる			
14. 教育心理学③：臨床心理における効果、研究結果			復習：心理効果をまとめる			
定期試験						
15. 総括、及びフィードバック（定期試験の講評・解説）			定期試験で不正解の内容を復習する			

成績 評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %
	基準等	指定した講義内容について講義内で小テストを1回実施し、理解度を評価する。		期末試験にて講義全体の理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	なし	なし		なし	なし
参考図書	藤田哲也 編著	絶対役立つ教育心理学 第2版		ミネルヴァ書房	2021
履修要件等	なし				
オープンな 教育リソース					
研究室	研究科棟 4階 144 研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30	

科目№	BPL05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	教育学 I		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	人間と生活	選択必修	2単位	後期 (30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	本講義では、データサイエンスに活用する応用的な統計学を学ぶ。医療統計学で習得した基礎統計の理解をさらに深め、パラメータの推定や分散分析、回帰分析、ベイズ統計、多変量解析などを体系的に扱う。これにより、統計分析の幅広い知識と応用的手法を身につける。あわせて、統計検定®、準1級レベルの内容を網羅し、実践的な統計活用能力の習得を目指す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎・応用的統計手法の理論的背景と前提条件を理解できる</li> <li>2. 帰無仮説に応じて適切な統計手法を選択ができる。</li> <li>3. 統計解析の結果を正しく解釈し、その意味と限界を説明できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。演習授業は、自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いてPBL形式で行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。演習の達成度をグループで発表する機会を設け、アクティブ・ラーニングを活性化させる。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Teams上に授業動画をアップロードする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. オリエンテーション・仮説検定と信頼区間			仮説検定や信頼区間を整理し、復習する。			
2. t分布・ $\chi^2$ 分布・F分布と推測統計の理論			様々な分布の形状の違いを確認し、対応する統計手法の違いを復習する。			
3. パラメータの推定とノンパラメトリック推測法			パラメトリックとノンパラメトリックの違いを復習し、適用場面の違いをまとめる。			
4. 単回帰分析 (1-3回の小テスト)			回帰係数の意味を数式も含め復習する。			
5. 重回帰分析			実データを用いて回帰モデルを構築し、前提条件の確認と結果を解釈する。			
6. 回帰モデル演習			データを活用し、モデルの構築に取り組む			
7. ロジスティック回帰・ポアソン回帰 (4-6回の小テスト)			先行研究を参照し、オッズ比の意味と解釈方法を整理する。			
8. 一般化線形モデル演習			脳卒中発症者データを用いて、ロジスティック回帰を実行し、オッズ比を算出し。解釈をレポートとして作成する。			
9. 分散分析と多重比較			多重比較および交互作用の意味を整理し、実例も用いて解釈できるように復習する。			
10 分散分析と多重比較の演習 (7-9回の小テスト)			実データを用いて、1要因および2要因分散分析を実施し、結果の解釈を行う。			
11. 多変量解析① 相関行列と偏相関、主成分分析			相関と偏相関の違い、主成分分析の目的を説明できるように復習する。			
12. 多変量解析② 因子分析、クラスター分析、共分散構造分析			因子分析と主成分分析の理論的違いと適用目的の違いを整理し、復習する。			

13. 多変量解析演習 (10-12回の小テスト)		実データを用いて相関分析、主成分分析を実施し、その解釈のレポートを作成する。			
14. 講義の総復習と期末レポート作成		期末レポート (最終課題) の仕上げと提出			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	□小テスト 40%	□課題・レポート 60%	□定期試験 %	□その他 %
	基準等	小テストを4回実施し、各10% (計40%) として評価する。	講義内課題レポート2回 (各15%) および期末レポート (30%) により、評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	久保川 達也	データ解析のための数理統計入門		共立出版	2023
参考図書	北川源 四郎 他	応用基礎としてのデータサイエンス		講談社	2023
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No.	BUS05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	医療英語		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会の理解	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
ヘルスプロモーション						
教員の実務経験と授業内容の関連	米国ミシガン大学医学部で2年以上勤務経験のある教員が、医療英語について講義する					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>英語は医学の分野においても世界の共通語であり、最新の知見や研究成果は英語で発信されることが一般的である。また、医療現場においても医学用語は英語で表現されることは少なくない。このため、医学英語に精通しておくことは医療人として重要である。本講座では、臨床現場における実践的な英語力を養う。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語で患者さんと基本的な医療面接ができる。</li> <li>2. 臨床現場で用いられる基本的な医学英語を理解できる。</li> <li>3. 基本的な英語による医学情報を理解できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	医療現場を想定した場面でのアクティブラーニング型授業を行う。テキストをベースに患者役と医療者役に分かれて英語でロールプレイを行う。このため、リスニングおよびテキストの音読練習による十分な予習が授業参加への前提条件となる。授業には英和辞書(電子辞書も可)を持参すること。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる双方向の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			60分以上
1. Self-introductions (p2~11)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
2. Communicating with patients (p12~21)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
3. Communicating with family (p22~31)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
4. History taking (p32~41)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
5. Basic instructions (p42~51)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
6. Explaining treatment & results (p52~61)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
7. How pain affects the patient (p52~61)			指定された音声データを用いてリスニングと音読練習を行う。			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括(フィードバック)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70 %	■その他 30 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業の参加態度にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	代田浩之	医療学生のためのつたわる英語			南江堂	2022
参考図書	特に指定しない					

履修要件等	英文法と英語コミュニケーション、英文購読、一般臨床医学を履修しておくことが望ましい。 累計 GPA 2.3 以上であることが望ましい。		
オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50

科目No.	BLA04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	総合ゼミⅡ (PT)		担当教員 E-Mail	久利 彩子・今井 亮太・畑中 良太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法の基盤		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいや有する患者の理学療法に携わった15年間の経験と専門知識を持つものが、理学療法の基礎について、演習を通じて指導する。					
授業内容の要約	理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深め、解剖学・生理学・運動学の知識および検査測定技術を再学習し、理学療法士としての素地を作る。学生生活に関する情報共有の場としても活用する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術、臨床的思考を身につける。 2. 運動や動作を理解するために必要な、解剖学・生理学・運動学の知識を固める。					
対面授業の 進め方	課題(知識・技術)を中心に行う。また、学生生活に関する情報共有の場として、学生主体に展開する時間帯もある。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画					授業時間外に必要な学修	30分以下
1. オリエンテーション					課題範囲についてしっかり予習し、授業中に実施する内容を振り返り、知識技術を補うこと。	
2. 前期履修科目・スケジュールの確認(個別面談)						
3. 体育祭						
4. 体育祭						
5. 検査・測定の基盤知識(実技)ROM・MMT・触察・形態計測・バイタル						
6. 検査・測定の基盤知識(実技)ROM・MMT・触察・形態計測・バイタル						
7. 検査・測定の基盤知識(運動学:筋)(p22~50)小テスト						
8. 検査・測定の基盤知識(運動学:筋)(p22~50)フィードバック						
9. 検査・測定の基盤知識(運動学:関節(上肢・下肢・体幹))(p51~137)小テスト						
10. 検査・測定の基盤知識(運動学:関節(上肢・下肢・体幹))(p51~137)フィードバック						
11. 検査・測定の基盤知識(運動学:姿勢と歩行とバイメカ)(p138~192)小テスト						
12. 検査・測定の基盤知識(運動学:姿勢と歩行とバイメカ)(p138~192)フィードバック						
13. 検査・測定の基盤知識(実技)MMT・触察・神経系検査						
14. 授業内試験						
15. フィードバック						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %		□レポート %	☑定期試験・その他 100%	
	基準等					
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	潮見泰蔵 他	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版			羊土社	2020
	ヒントレ研究所	PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング基礎医学編 改訂第3版			南江堂	2024
履修要件等	体育祭が実施されない場合、実技練習などを予定。					
オープンな 教育リソース						
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	BLA04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	総合ゼミⅡ (OT)		担当教員 E-Mail	水野 貴子・上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法の基盤		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	20年以上作業療法士として臨床経験のある教員が、その経験を活かして臨床的な作業療法評価に必要な知識と手法について講義・指導する。					
授業内容の要約	臨床見学実習で得られた自己課題の解決策を考える。また、作業療法の流れを知り、対象者に適した評価計画を立て、検査・測定の実践をしながら学ぶ。実践は、動画や教員によるデモンストレーションを見ながら記録の練習や、学生間で面接や実技の練習を実施する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>自己課題を解決するための方法論を見つける</li> <li>検査・測定方法の実践を学ぶ</li> <li>作業療法評価学実習（プレ実習）に向けた準備ができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義と演習（検査・測定の実施、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど）を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション				臨床見学実習の振り返り、自己課題の整理		
2. 作業療法の流れについて（レジュメの説明）				配布資料を熟読して復習をしておくこと		
3. スポーツ活動（体育祭）に向けた学生間連携・チームワーク				学生間での話し合い調整		
4. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク				学生間での話し合い調整		
5. 観察について				配布資料を熟読して復習をしておくこと		
6. 観察の記録練習（SOAP）1				レポート作成をすること		
7. 観察の記録練習（SOAP）2				レポート作成をすること		
8. 面接について				配布資料を熟読して復習をしておくこと		
9. 面接の記録練習（プロセスレコード）1				レポート作成をすること		
10. 面接の記録練習（プロセスレコード）2				レポート作成をすること		
11. 1年次の実技の復習 検査・測定（ROM・形態測定等）				実技の復習、教科書「作業療法評価学」持参		
12. レジュメの項目とその目的1				配布資料を熟読して復習をしておくこと		
13. レジュメの項目とその目的2				配布資料を熟読して復習をしておくこと		
14. レジュメの項目とその目的3				配布資料を熟読して復習をしておくこと		
15. 作業療法評価学実習（プレ実習）のガイダンス						
成績評価方法	項目	■ 課題・レポート 60%		■ その他 40%		
	基準等	課題の実施状況 課題の提出期限厳守		授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性、出欠・遅刻状況		
教科書	授業計画の内容により「作業療法評価学」の教科書を使用する。					
参考図書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き					
	授業内配布資料（プレ実習の手引きなど）					
履修要件等	「臨床実習指導Ⅰ」の履修済みであること					
オープンな						

教育リソース			
研究室	水野：1号館4階 第5研究室 上島：1号館5階 第14研究室	オフィスアワー	水野：毎週水曜日 12：10～12：50 上島：毎週木曜日 14：40～16：10

科目No.	BLA04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	総合ゼミⅡ（ST）		担当教員 E-Mail	芦塚 あおい・上田 有紀人		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語聴覚療法の基盤		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での実務経験（20年以上）、病院での学生指導経験から実習することへの心構え・意義・使命・社会性を学ぶ。また患者さんを診る上での基礎的知識や技術を演習を通じて学ぶ。					
授業内容の要約	実習時に必要な簡単な検査の実技や、介助方法などを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 課題を自分で調べ、まとめることができる 2. 自分が調べたこと、まとめたことを分かりやすく伝えることができる 3. 実習時に必要な検査や介助等を正しく行うことができる					
対面授業の 進め方	提示された項目について、調べてまとめ、発表を行う。実技練習も含む。					
遠隔授業の 進め方	課題を配信し、office365 teams を用いて発表を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション：実習に向けての心構えについて				復習：授業の趣旨を理解すること		
2. 意識レベル・血圧について調べる①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
3. スポーツ活動（体育祭）を通じた学生間連携・チームワーク						
4. 意識レベル・血圧についての発表と実技②				復習：今日の内容についてまとめる		
5. 呼吸・最長発声持続時間について調べる①				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
6. 呼吸・最長発声持続時間についての発表と実技②				復習：今日の内容についてまとめる		
7. 起き上がり・移乗動作（PT教員による講義・実技）				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
8. 脈拍・動脈血酸素飽和度について調べる①				復習：今日の内容についてまとめる		
9. 脈拍・動脈血酸素飽和度についての発表と実技②				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
10. スクリーニング検査（主に成人領域）について調べる①				復習：今日の内容についてまとめる		
11. スクリーニング検査（主に成人領域）の発表と実技②				復習：調べたことをパワーポイントにまとめる		
12. 特別支援教育について（支援学校見学につながる学習）				復習：今日の内容についてまとめる		
13. コミュニケーション技法について				復習：今日の内容についてまとめる		
14. 合同グループワーク				復習：今日の内容についてまとめる		
15. 総括及びフィードバック（全講義のふりかえり）						
成績評価方法	項目	■課題 20%	■レポート等 20%	□定期試験	%	■授業態度 60%
	基準等	調べたことの発表内容や実技等で評価する。	パワーポイント作成等について評価する。			授業中の参加度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	深浦順一他	言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編		建帛社	2017	
	白波瀬元道	ST 評価ポケット手帳 第2版		ヒューマンプレス	2023	
	大森孝一ら	言語聴覚士テキスト第4版		医歯薬出版	2025	
	大阪河崎リハビリテーション大学 「臨床実習の手引き」					
参考図書			特になし			

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	野村：1号館4階 第1研究室 芦塚：1号館4階 第6研究室 上田：1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	野村：毎週火曜日 12：10～13：00 芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00 上田：毎週木曜日 12：10～13：00

科目No.	FBM10-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	形態・機能学特論解剖領域		担当教員 E-Mail	山岸 直子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能 及び身体の発達		選択必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	基礎医学				
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成」を達成するための科目である。第1年次に学習した解剖学座学および生理学など関連科目の知識を基礎として、人体の構造と機能の関連性に注目してさらに深い理解ができるようにする。主に中枢神経系に焦点を当てて、苦手領域を克服する。また循環器や泌尿器などの3次元的理解が必要な領域についても焦点を当てる。臨床で登場する場面の提示や国家試験に対する展望などの工夫をこらし講義する。これら基礎医学の本質的領域の修得は、臨床医学系の専門科目の理解、延いては医療従事者としての社会的貢献への基盤として極めて有用である。なお思考力は、復習プリントや小テストを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けることで養成する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経のマクロ・ミクロ形態、発生学的な神経系のなりたちを理解する。また、伝導路を正確に理解することができる。さらに反射との違いを理解することができる。</li> <li>2. 心臓、血管およびリンパ系の構造と機能を理解することができる。</li> <li>3. 尿の生成と排泄に関する器官の構造とその機能を理解することができる。</li> <li>4. 栄養の代謝経路や呼吸器の理解を通じて、循環系の機能について理解することができる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>臨床解剖学方式で講義する。各器官が目的とする機能を果たすために最適の構造ができあがっているかを関連付ける。そのために、適宜模型や質疑応答を用いたアクティブラーニング手法を積極的に取り入れる。医学用語を確実に理解(書ける、読める)し、基礎知識をしっかりと固めるように努める。講義の中では各回の復習用課題、小テストとして穴埋め式問題や択一式問題を配布・出題し、解答解説も行う。これらは学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズとなる。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365のTeamsやStreamを使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかでを行う。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 大脳基底核(レンズ核、扁桃核、前障、尾状核)と脳室系				前年度の授業内容の復習		
2. 錐体路、錐体外路、運動の制御と反射経路				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
3. 上行性伝導路と固有感覚路				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
4. 神経組織の基本構造・脳神経の機能・神経内分泌				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
5. 血液・リンパ液・髄液の関係、脳および心臓への血液供給と関連血管、リンパ系(リンパ節の構造・機能、胸管の走行と循環、リンパの働きと免疫)				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
6. 消化管の基本構造、胃腺構成細胞の働き、小腸と大腸の構造と作用の違い、肝臓の機能と門脈系、腹膜の構成と配置				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
7. 腎臓の構造(腎小体、尿細管、集合管)と尿生成メカニズム、尿排泄調節(畜尿・排尿メカニズム)				前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 %
	基準等	毎回の授業中に実施する小テストや課題（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村巖	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版		医学書院	2020
参考図書	寺島俊雄	カラー図解 神経解剖学講義ノート		金芳堂	2011
	井出千束	臨床神経解剖学 原著第8版		エルゼビアジャパン	2022
履修要件等	「形態機能学解剖学領域Ⅰ・Ⅱ」を履修済であること				
オープンな教育リソース					
研究室	非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける		

科目№	FCM01-2R, FBM09-2R, FCM01-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次			
授業科目名	小児科学		担当教員 E-Mail	伊藤 康					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(16h)			
	作業療法学								
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		選択必修					
ヘルスプロモーション	臨床医学								
教員の実務経験と授業内容の関連	大学病院において30年以上にわたり臨床・研究・教育に携わってきた、小児科専門医、日本小児神経学会専門医である教員が、その経験を活かし、小児科学について講義する。								
授業内容の要約	小児医療の進歩に伴い、障害をもちながら成長し、在宅医療を受けつつ地域で生活する小児が増加しており、小児期におけるリハビリテーションの必要性は高まっている。成人とは異なる視点と理解を深めることを本講義の主たる目的とする。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長・発達の特徴を踏まえ、成人との違いを説明できるようになる。</li> <li>2. 障害をもち地域で生活する小児の背景を理解し、小児期にリハビリテーションが必要となる理由を説明できるようになる。</li> <li>3. 小児の発達段階や生活環境を考慮し、基本的な関わり方を臨床場面に適用できるようになる。</li> </ol>								
対面授業の 進め方	パワーポイントを用いた講義形式で実施し、配布資料および教科書を適宜参照しながら理解を深める。								
遠隔授業の 進め方	教員が来校できない時に限りZoomで授業を行う								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
1. 小児科総論(小児科の特徴/成長・発達/栄養/小児保健/診療)			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
2. 育児支援/障害児医療/虐待			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
3. 新生児・未熟児/先天異常			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
4. 循環器/呼吸器/消化器/代謝・内分泌/腎・泌尿器・生殖器疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
5. 免疫・自己免疫・アレルギー/感染症/腫瘍・血液疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
6. 神経疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
7. 筋/骨・関節/精神疾患			教科書を使用し、学んだ範囲を復習すること。						
定期試験(期末レポート)									
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験	90%	□その他	10%
	基準等					筆記試験	授業への姿勢を評価		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	医療情報科学研究所	病気がみえる Vol.15 小児科			メディックメディア	2023			
参考図書	前垣 義弘 小倉 加恵子	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版			医学書院	2023			
履修要件等									
オープンな 教育リソース									
研究室	1号館1階 非常勤講師控室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。				

科目No.	FCM02-2R、FCM02-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学 I		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	臨床医学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で25年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿い内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学の基本的な概念を修得できる</li> <li>2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる</li> <li>3. 循環器、呼吸器、消化器領域の基本的な画像診断ができる</li> <li>4. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	対面授業が困難な場合、TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内科学総論・症候学①(教科書 p2~54)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 症候学②(教科書 p38~54)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 循環器疾患①(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 循環器疾患②、画像診断(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 循環器疾患③(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 循環器疾患④(教科書 p55~100)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 呼吸器疾患①(教科書 p102~141)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 呼吸器疾患②、画像診断(教科書 p102~141)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 呼吸器疾患③(教科書 p102~141)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 消化器疾患①(教科書 p142~173)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 消化器疾患②、画像診断(教科書 p142~173)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 消化器疾患③(教科書 p142~173)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 肝・胆・膵疾患①(教科書 p174~200)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 肝・胆・膵疾患②(教科書 p174~00)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	奈良勲 監修	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版		医学書院	2024
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50		

科目No.	FBM10-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内科学（含老年医学）（ST）		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	2単位	前期（30h）
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で25年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿って内科学の教育を行う。講義を通して言語聴覚学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の言語聴覚学の発展に寄与することを期待する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学の基本的な概念を修得できる</li> <li>2. 言語聴覚学における内科学の必要性を知ることができる</li> <li>3. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 内科学総論・診断学総論・治療学総論（教科書 p1~179）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
2. 循環器疾患①（教科書 p195~233）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
3. 循環器疾患②（教科書 p195~233）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
4. 呼吸器疾患①（教科書 p234~259）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
5. 呼吸器疾患②（教科書 p234~259）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
6. 感染症（教科書 p260~263）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
7. 消化器疾患（教科書 p271~289）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
8. 肝・胆・膵疾患（教科書 p290~307）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
9. アレルギー・リウマチ・膠原病（教科書 p308~327）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
10. 腎・泌尿器疾患（教科書 p328~346）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
11. 内分泌疾患（教科書 p347~359）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
12. 代謝疾患①（教科書 p360~381）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
13. 代謝疾患②（教科書 p360~381）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
14. 血液疾患（教科書 p382~399）			復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 80 %	■その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	角田 亘	内科学 (Crosslink basic リハビリテーションテキスト)	メジカルビュー社	2023
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50	

科目No.	FCM03-2R、FCM03-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	内科学Ⅱ (含老年医学) (含演習)		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	後期(30h)	
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	臨床医学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科及び急性期総合病院内科で25年以上臨床経験のある教員が、内科学について講義する					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>理学療法学・作業療法学・言語聴覚学が本学の教育の基本であり、この趣旨に沿って内科学の教育を行う。講義を通して理学療法学・作業療法学における内科学の必要性について知り、内科学の知識が今後の理学療法学・作業療法学の発展に寄与することを期待する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学の基本的な概念を修得できる</li> <li>2. 理学療法学・作業療法学における内科学の必要性を知ることができる</li> <li>3. 基本的な栄養学の重要性を理解し、臨床現場で活用できる。</li> <li>4. 内科学の知識を臨床現場で応用することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学、病理学の知識が必要である。これらの科目の復習しておくことが望ましい。					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 血液・造血器疾患① (教科書 p201~227)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 血液・造血器疾患② (教科書 p201~227)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 血液・造血器疾患③ (教科書 p201~227)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 代謝疾患、栄養学基礎① (教科書 p228~250)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 代謝疾患② (教科書 p228~250)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 内分泌疾患① (教科書 p251~269)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 内分泌疾患② (教科書 p251~269)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 腎・泌尿器疾患① (教科書 p270~296)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 腎・泌尿器疾患② (教科書 p270~296)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全① (教科書 p297~320)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 膠原病・アレルギー疾患・免疫不全② (教科書 p297~320)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 感染症① (教科書 p321~339)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 感染症② (教科書 p321~339)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 感染症③ (教科書 p321~339)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 80 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20 %
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	奈良勲 他	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版		医学書院	2024
参考図書	特に指定しない				
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50		

科目№	FCM05-2R, FBM16-2R、FCM05-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	神経内科学		担当教員 E-Mail	出田 淳		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	2単位	前期 (30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		選択必修		
	ヘルスプロモーション	臨床医学				
教員の実務経験と授業内容の関連	神経内科疾患の診断治療臨床経験 37 年、療法士教育経験 27 年の教員が、実際の臨床現場の神経疾患を講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。教育課程における専門基礎科目である。神経症候学、診断学、多数の神経筋疾患について学び、医療従事者として生涯にわたり、それらの知識を研鑽する姿勢を習得する科目である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経解剖、神経生理、神経薬理、分子遺伝学を説明できる</li> <li>2. 神経症候学、診断学を理解し、患者さんの神経所見の評価ができる</li> <li>3. 各神経疾患につき病因、症候、診断、治療についての系統的に説明できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	教科書中心の内容をパワーポイント使用にて授業を行う。 第1回より最終講義まで互いに関連した内容であるため、可能な限りの聴講が必須である。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 総論) 神経疾患とリハビリ・神経解剖学の基礎 (教科書 pp.1-19)			神経疾患とリハビリをノートにまとめる			
2. 総論) 神経整理学の基礎・神経薬理学の基礎 (教科書 pp.19-29)			神経解剖学・薬理学の基礎をノートにまとめる			
3. 総論) 分子遺伝学・神経系の発達と加齢 (教科書 pp.30-55)			左記の内容をノートにまとめる			
4. 神経診断学) 神経診断学とは・意識障害・高次脳機能障害 (教科書 pp.57-74)			意識障害・高次脳機能障害をノートにまとめる			
5. 神経診断学) 脳神経 (教科書 pp.75-85)			1 番から 12 番の脳神経をノートにまとめる			
6. 神経診断学) 運動系・感覚系 (教科書 pp.86-104)			運動・感覚系をノートにまとめる			
7. 神経診断学) 自律神経・反射・検査法 (教科書 pp.105-136)			自律神経・反射・検査法をノートにまとめる			
8. 中間試験 (教科書 pp.1-136)			試験範囲の再確認			
9. 神経診断学) 変性疾患 (パーキンソン病) (教科書 pp.161-180)			錐体外路疾患をノートにまとめる			
10. 神経診断学) 変性疾患 (脊髄小脳変性症と運動ニューロン病) (教科書 pp.181-201)			脊髄小脳変性症と運動ニューロン病をノートにまとめる			
11. 神経診断学) 脱髄疾患・末梢神経障害 (教科書 pp.202-223)			脱髄疾患と末梢神経障害をノートにまとめる			
12. 神経診断学) 筋疾患・神経筋接合部疾患 (重症筋無力症) (教科書 pp.224-243)			筋疾患・神経筋接合部疾患 (重症筋無力症) をノートにまとめる			
13. 神経診断学) 脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺 (教科書 pp.251-297)			脊髄疾患・神経系感染症・先天異常・脳性麻痺をノートにまとめる			
14. 神経診断学) 外傷・自律神経疾患・機能的疾患・認知症 (教科書 pp.298-340)			外傷・自律神経疾患・機能的疾患・認知症をノートにまとめる			
定期試験 (教科書 pp.1-136 pp.161-243 pp.251-340)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			神経内科学を振り返り、今後の学習計画を立案			

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等			定期試験（中間試験・ 期末試験）	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	江藤文夫 他	神経内科学テキスト 改訂第5版		南江堂	2023
参考図書	なし				
履修要件等					
オープンな 教育リソース					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM06-2R, FBM17-2R, FCM06-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	臨床神経学		担当教員 E-Mail	新谷 亜紀			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		選択必修			
	ヘルスプロモーション	臨床医学					
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で脳神経外科医として臨床勤務経験のある教員がその経験を生かして臨床神経学についての講義を行う。						
授業内容の要約	神経解剖・機能を再理解、再認識し、臨床に応用すべく、諸疾患（その発生要因と症状並びに診断）、諸検査（頭部CT、MRI等）、諸治療について学習する。当該科目は教育課程における専門科目でありこれまでに履修した神経内科学での知識を再確認し、脳神経外科学的アプローチでも認知する。						
学修目標 到達目標	1. 脳・脊髄・末梢神経の解剖、生理が確実に理解できる→2.に繋げる。 2. 神経疾患の症状と診断、治療が理解できる→臨床実習等において知識を体得する。 3. セラピストという職に夢と誇りを持つべく、自主的に学習できる						
対面授業の 進め方	パワーポイント中心に説明する。資料は配布するが、自ら考える授業にする。授業内容については自宅でその日のうちに復習し、理解できなかった部分を整理する						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 神経系の解剖・生理の再理解 1			解剖学・生理学を予復習				
2. 神経系の解剖・生理の再理解 2			同上				
3. 神経系の解剖・生理の再理解 3			同上				
4. 脳血管障害（総論）			神経内科学で学んだ症状・診断の予復習				
5. 脳血管障害（脳出血）			症状・診断・治療の予復習				
6. 脳血管障害（脳梗塞）			症状・診断・治療の予復習				
7. 脳血管障害（くも膜下出血）			症状・診断・治療の予復習				
8. 頭部外傷			硬膜外と硬膜下の解剖学的位置関係を復習				
9. 脳腫瘍 1			良性腫瘍と悪性腫瘍の種類を調べる				
10. 脳腫瘍 2			9.で学んだことをしっかり復習する				
11. 神経変性疾患 1			神経内科学で学修したことを復習				
12. 神経変性疾患 2			同上				
13. 神経変性疾患 3、脱髄疾患			同上				
14. 筋疾患			同上				
定期試験（期末レポート）							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	特になし	左に同じ			左に同じ		
参考図書	医療情報科学研究所	病気がみえる<vol.7>脳・神経 第2版			メディックメディア	2017	

履修要件等			
オープンな教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FCM07-2R、FCM07-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	整形外科学		担当教員 E-Mail	金澤 元宣			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学						
	ヘルスプロモーション	臨床医学		選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	りんくう総合医療センターにて、整形外科医として診療を行っている。この経験を活かして、必要な知識についての講義を行う。						
授業内容の要約	本講義では運動器の働きを中心となる骨、関節、筋、神経の機能や病態との関係について学び、診断や治療へ結びつける。また、関節リウマチと類似疾患、慢性関節疾患、代謝性骨疾患、先天性骨系統疾患、骨・軟部腫瘍など疾患総論についても学修する。						
学修目標 到達目標	1. 整形外科的診断法および検査法について理解できる 2. 運動器疾患の病態、症状、治療法が理解できる 3. 整形外科分野における全身性疾患について理解できる						
対面授業の 進め方	パワーポイントを中心として参考資料としてプリントを配布する						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上	
解剖、整形外科総論			左記授業後、復習をする				
2. 外傷1			左記授業後、復習をする				
3. 外傷2			左記授業後、復習をする				
4. 外傷3			左記授業後、復習をする				
5. 関節疾患1			左記授業後、復習をする				
6. 関節疾患2			左記授業後、復習をする				
7. 背椎疾患1			左記授業後、復習をする				
8. 背椎疾患2			左記授業後、復習をする				
9. リウマチ疾患			左記授業後、復習をする				
10. 小児疾患			左記授業後、復習をする				
11. 感染性疾患			左記授業後、復習をする				
12. 腫瘍性疾患			左記授業後、復習をする				
13. 整形外科各論1			左記授業後、復習をする				
14. 整形外科各論2			左記授業後、復習をする				
定期試験(期末レポート)							
15. 整形外科各論3							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等	授業の内容全般についての理解度を評価する					
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	奈良勲 監修	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版			医学書院	2022	
参考図書	特に指定しない						

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FCM08-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	整形外科科学特論		担当教員 E-Mail	中川幸洋 前田孝浩 佐々木貴英 太地良		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学					
	ヘルスプロモーション	臨床医学				
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、整形外科医の立場から講義する。					
授業内容の要約	本講義では、将来臨床の場においてよく関わる疾患を中心に、その病態、診断、治療法について教示する。専門的な理学、作業療法学を学ぶ上での基礎となるので、十分に理解を深めること。臨床で頻度の高い運動器における主要疾患や外傷の発症機序、症状、検査、治療、その臨床成績などについて解説する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脊椎疾患、脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷を理解する</li> <li>2. 外傷学については、主な骨折の特徴、治療法について説明できる</li> <li>3. スポーツ傷害の発生機序、治療法を説明できる</li> <li>4. 足関節、足部の構造や疾患、外傷について説明できる</li> <li>5. 膝関節・股関節疾患を理解する</li> <li>6. 骨粗鬆症と骨脆弱骨折について理解し、予防法、治療法、問題点について説明できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	パワーポイントを中心に参考資料としてプリントを配布、授業内容の確認テストを行う。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 高齢化社会における整形外科疾患、低侵襲手術の意義について			講義内容の復習			
2. 膝関節、股関節の疾患と人工関節について			講義内容の復習			
3. 慢性腰痛、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、等			講義内容の復習			
4. 骨折治療と術後管理・早期リハビリテーションの意義			講義内容の復習			
5. 骨粗鬆症および骨粗鬆症性脆弱性骨折の疫学、診断と治療			講義内容の復習			
6. 頸髄症、脊柱靭帯骨化症、脊椎脊髄損傷、等			講義内容の復習			
7. 下肢、足部疾患、足のスポーツ障害、等			講義内容の復習			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 35%	□定期試験 50%	□その他 15%		
	基準等	講義の際に行い、成績評価に加える	講義内容全般についての理解度を評価する	出席および授業態度を評価に加える。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	井樋栄二 他	標準整形外科学 第15版		医学書院	2023	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FCM11-2R, FBM08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	リハビリテーション医学		担当教員 E-Mail	幸田 剣			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療					
	ヘルスプロモーション	臨床医学					
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、リハビリテーション医の立場から講義する。						
授業内容の要約	リハビリテーション医療が必要とされるさまざまな疾患を中心に、病態、症状、診断、治療について概説する。その理解の上で、障害の評価、リハビリテーションプログラムについて学ぶ。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患の病態、症状、診断法が理解できる</li> <li>2. 障害の評価ができる</li> <li>3. 障害に対するリハビリテーションプログラムが立てられる</li> </ol>						
対面授業の 進め方	基本は Power Point と配布資料で行う。						
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 teams を使用した Live 配信授業を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. リハビリテーション概論 (リハビリテーションの理念、健康と障害の概念、リハビリの流れ、チーム医療・編成)			学修した範囲について復習を必ずすること				
2. リハビリテーションのための基礎知識 (解剖学、生理学など)			学修した範囲について復習を必ずすること				
3. 障害の評価 (筋力、ROM、呼吸循環、排泄、歩行障害・装具学、ADL、高次脳機能障害、摂食嚥下障害など)			学修した範囲について復習を必ずすること				
4. 領域別；脳卒中 (脳血管疾患)、運動器疾患			学修した範囲について復習を必ずすること				
5. 領域別；脊髄損傷、神経筋疾患			学修した範囲について復習を必ずすること				
6. 領域別；内部疾患 (循環器・呼吸器疾患・がんなど)			学修した範囲について復習を必ずすること				
7. 領域別；小児・切断・スポーツ医学 (障害運動教育) など			学修した範囲について復習を必ずすること				
8. リハビリテーション医療のこれまでとこれから			学修した範囲について復習を必ずすること				
定期試験 (期末レポート)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者		タイトル			出版社	発行年
	日本リハビリテーション医学会		リハビリテーション医学・医療コアテキスト 第2版			医学書院	2022
参考図書	特に指定しない						
履修要件等							
オープンな教育リソース							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	FCM12-2E、FBM20-2E、FCM12-3E		授業形態	講義	開講年次	2年次・3年次
授業科目名	産業医学		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療				
	ヘルスプロモーション	臨床医学				
ヘルスプロモーション	臨床医学					
教員の実務経験と授業内容の関連	民間企業、大学病院、教育機関等で労働者の健康管理に関わる産業医として10年以上経験のある教員が、産業医学について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>産業医学とは、労働環境や作業条件と、働く人々の健康との関わりを追求する医学である。近年、労働者の健康対策を行う産業保健分野において、理学療法士の参画が期待されている。本講座では、労働者の健康状態の評価、および職場での健康保持増進のための就業措置、支援、関係法令等について解説する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業保健スタッフに必要な基本的な関係法令が理解できる。</li> <li>2. 労働者の健康状態が評価できる。</li> <li>3. 産業保健スタッフに必要な職場での健康保持増進対策を理解できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。					
遠隔授業の 進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 最近の産業保健トピックス (テキスト p4~13)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 職場の労働衛生管理体制 (テキスト p14~30)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 職場における健康障害防止対策の基本 (テキスト p31~61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 職場における健康障害防止対策の基本 (テキスト p31~61)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 健康の保持増進・健康診断 (テキスト p62~88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 健康の保持増進・ストレスチェック (テキスト p62~88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 健康の保持増進・その他 (テキスト p62~88)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 定期試験			学修した範囲について復習を必ずすること			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	□定期試験 80%		□その他 20%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	森見爾	産業保健ハンドブックシリーズ1 産業保健ハンドブック 改訂23版		労働調査会	2025	
参考図書	特に指定しない					
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 16:20~17:50		

科目No.	FCM13-2E、FBM21-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	薬理学特論		担当教員 E-Mail	池内 治平			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学						
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療					
教員の実務経験と授業内容の関連	病院薬剤師の実務経験を基に、薬の効き方と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法と、薬理学全般における基礎知識、疾患の系統別に作用する薬物についての解説と役割を教育する。						
授業内容の要約	病気の治療の一つとして薬物が使用されている。薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し、身体を正常な状態に引きもどす、その一方、副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある。この講義では、薬物の働く仕組みだけでなく、その有効な作用を発揮できるかを学ぶ。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と投与方法（剤形、投与経路）を説明できる。</li> <li>2. 薬物の主作用と副作用と有害事象の違いについて説明できる。</li> <li>3. 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。</li> </ol>						
対面授業の 進め方	教科書及び配付資料による講義形式 筆記試験を行い、授業内容の理解度を評価し、可否の判定を行う。 ただ暗記するのではなく、体の仕組みと薬理作用の関係、疾患との関係をよく理解しましょう。						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. 総論(1)：薬物治療のめざすもの 使用目的				講義資料および参考書などを用いて復習すると共に、レポート作成を通じて自ら調べることにより授業内容の理解を深めること。			
2. 総論(2)：薬理学の基本的な事項（薬物の主な作用点、薬物の投与経路など）							
3. 総論(3)：薬物の体内動態（薬物の吸収、分布、代謝、排泄）							
4. 総論(4)：薬物に影響する因子（生体の相互作用、薬物相互作用など）							
5. 総論(5)：薬物中毒と法令（薬物の適量、医薬品に関する法令）							
6. 抗炎症薬と化学療法薬： 非ステロイド性抗炎症薬、抗菌薬、抗癌薬などの治療薬について							
7. 免疫・アレルギー薬・消毒薬：アレルギー反応、ステロイド、殺菌、消毒							
定期試験（期末レポート）							
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を総合評価します。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	大鹿 英世/吉岡 充弘 /井関 健	疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第15版 系統看護学講座-専門基礎分野		医学書院	2022		
参考図書	特に指定しない						
履修要件等	特にないが、生物学を履修済であることが望ましい。						
オープンな 教育リソース							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No	FCM13-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	薬理学特論		担当教員 E-Mail	河野 良平		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	臨床医学		選択必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	食品成分が細胞や分子レベルでどのように作用するかを、代謝経路、酵素活性、シグナル伝達、遺伝子発現などの視点から理解する。特に、抗酸化・抗炎症作用、神経保護効果、腸内環境調整など、機能性食品がもつ生理活性について、分析化学的・薬理的な根拠に基づいて説明できる力を養う。さらに、機能性表示食品や特定保健用食品などの機能性食品中の機能性成分が健康にどのように影響しているかを理解する。また、機能性表示食品の届出に必要な、ヒト対象研究法、商品開発、評価方法に加え、作用機序解明に役立つ基礎的実験方法を学習する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>食品成分の消化と吸収について説明できる</li> <li>病態にかかわる食品成分について説明できる</li> <li>機能性表示食品の届出方法を説明できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	教科書と配布プリントに沿った講義を行う。毎講義終了時に学習内容のアウトプットを行う。					
遠隔授業の 進め方	Teamsによるオンライン講義とStreamによる動画配信によって行う。毎回、課題の提出をもって出席とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1.	食理学、消化と吸収		消化と吸収についてまとめること			
2.	体内動態		体内動態についてまとめること			
3.	体質要素(遺伝要因と環境要因)		体質要素についてまとめること			
4.	病態にかかわる食品成分(循環器、内分泌、消化器)		病態にかかわる食品成分についてまとめること			
5.	病態にかかわる食品成分(脳神経、免疫)		病態にかかわる食品成分についてまとめること			
6.	病態にかかわる食品成分(筋肉・骨・がん・その他)		病態にかかわる食品成分についてまとめること			
7.	機能性表示食品の開発・届出と実例(レポート作成)		機能性表示食品に関するレポートを作成する			
8.	機能性表示食品の開発・届出・フィードバック		フィードバックを受けて復習する			
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 80%	□定期試験 %	□その他 20%	
	基準等		指定された課題に対する取り組みを評価する		授業態度(授業への意欲、質問、発表態度など)を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	板倉弘重 他	分子栄養学		東京化学同人	2019	
参考図書	深津佳世子	機能食品学		羊土社	2025	
	大川善廣 他	健康食品コーディネーター公式テキスト		財団法人 職業技能振興会		
	日本健康食品科学アカデミー	サプリメントマイスター検定公式テキスト		日本能率協会 マネジメントセンター	2021	
履修要件等	食品系資格取得を目指すものは必ず受講すること。					

オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟 4階 第 147 研究室	オフィスアワー	毎週金曜日 12:10~13:00

科目No	FCM14-2E、FBM22-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	栄養学特論		担当教員 E-Mail	中野 忠雄		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療				
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で管理栄養士として38年間臨床経験のある教員が、その経験を活かしてチーム医療における栄養管理の基本的な知識と手法、病態別栄養管理のポイントについて講義を行う。					
授業内容の要約	日本における生活習慣病の誘因となっている背景と栄養状態に関する問題を理解する。豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、「関連職種と連携してチーム医療を推進することができる」を達成する。 栄養管理をチーム医療のもと効率よく行うため、メディカルスタッフとして栄養と身体の間わり、疾病との関連を理解しそれぞれの業務に活かせるようにする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の種類と役割及び健康づくりと食生活について理解できる。</li> <li>2. 栄養状態の評価と病態別の栄養管理のポイントが理解できる。</li> <li>3. チーム医療の一員として「寄り添う心」をもって、患者に接することのできる豊かなコミュニケーション能力と人間性を身につけることを到達目標とする。</li> <li>4. 栄養についての知識を自己の日常生活で実践でき、患者の療養支援ができる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	教科書、配布資料に沿った対面式授業を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔での授業開講になる場合は、teamsを使用し、音声入りパワーポイントを用いて開講時間に配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		
1. リハビリテーションと栄養、低栄養時の代謝(教科書p2~14)				予習: 授業の教科書範囲を熟読すること		
2. 運動栄養学とリハ、リハ栄養チームにおけるPT・OT・STの役割				復習: 自宅にて1時間程度毎回復習すること		
3. リハ栄養ケアプロセスとは(p32~37)・小テスト				*2は(教科書p15~30)		
4. リハ栄養アセスメント・診断推論(p38~57)						
5. リハ栄養診断(p58~65)・小テスト						
6. リハ栄養ゴールの設定、リハ栄養介入、リハ栄養モニタリング				6は(教科書p66~78)		
7. リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎・今までのまとめ				7は配布資料		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)及び国試対策						
成績評価方法	項目	■小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 10%	
	基準等	授業内に2回小テストを実施し、授業内容についての理解度を評価する。		授業内容についての定期試験を実施し、理解度を評価する	授業態度(授業への意欲、質問、発表態度など)を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	若林秀隆	PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 第3版		医歯薬出版	2020	
	配布資料					
参考図書	栢下淳 若林秀隆	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第3版		医歯薬出版	2023	
履修要件等						

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No	FCM14-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次			
授業科目名	栄養学特論		担当教員 E-Mail	河野 良平					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	ヘルスプロモーション	臨床医学		選択必修	1単位	前期(16h)			
教員の実務経験と授業内容の関連									
授業内容の要約	食品に含まれる主要な栄養素(糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなど)や機能性成分(食物繊維、抗酸化物質など)の代謝と人体の健康維持や疾病予防にどのように関与しているかを理解することを目的とする。また、食事摂取基準や機能性表示制度、地域食材の特徴など、栄養学的視点から食品の役割を幅広く捉えられる知識を身につける。これらの知識を日常の食選択や栄養評価に応用できる力を養う。また食品成分の分析方法に関する基礎知識を習得する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の代謝について説明できる</li> <li>2. 栄養素と健康維持、疾病予防について説明できる</li> <li>3. 栄養素の知識を日常の食選択や栄養評価に応用できる</li> <li>4. 基本的な食品成分の分析方法を理解する</li> </ol>								
対面授業の進め方	教科書と配布プリントに沿った講義を行う。毎講義終了時に学習内容のアウトプットを行う。								
遠隔授業の進め方	Teamsによるオンライン講義とStreamによる動画配信によって行う。毎回、課題の提出をもって出席とする。								
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上			
1.	食品の1次機能(栄養)		栄養についてまとめること						
2.	食品の2次機能(おいしさ)		おいしさについてまとめること						
3.	食品の3次機能(生態調節機能)		生態調節機能についてまとめること						
4.	生活習慣病と栄養・免疫		生活習慣病・免疫についてまとめること						
5.	食品の規格基準と表示		食品の規格基準と表示についてまとめること						
6.	食品分析の基礎1		食品分析の基礎についてまとめること						
7.	食品分析の基礎2		食品分析の基礎についてまとめること						
定期試験									
8.	総括・フィードバック		試験で不正解だった領域をもう一度復習すること						
成績評価方法	項目	□小テスト	%	□課題レポート	20%	□定期試験	60%	□その他	20%
	基準等			指定された課題に対する取り組みを評価する		授業内容についての定期試験を実施し、理解度を評価する		授業態度(授業への意欲、質問、発表態度など)を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	深津佳世子	食品機能学			羊土社	2025			
参考図書	大川善廣 他	健康食品コーディネーター公式テキスト			財団法人 職業技能振興会				
	日本健康食品科学アカデミー	サプリメントマイスター検定公式テキスト			日本能率協会マネジメントセンター	2021			
履修要件等	食品系資格取得を目指すものは必ず受講すること。								

オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟 4階 第 147 研究室	オフィスアワー	毎週金曜日 12:10~13:00

科目No.	FCM15-2E、FBM23-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	画像診断学特論		担当教員 E-Mail	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		選択必修	1 単位	後期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療				
ヘルスプロモーション	臨床医学					
教員の実務経験と 授業内容の関連	大学病院および急性期総合病院で勤務経験のある内科、脳神経外科、整形外科の各教員が、画像診断学について講義する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。</p> <p>医療現場では、X線、超音波、CT、MRIなどの画像診断は頻りに用いられ、PT、OT、STにとってもこれらの各種画像の概要を理解することは重要である。本講座では、内科、脳神経外科、整形外科の各専門医が、それぞれの専門領域の画像診断について解説する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. X線検査 (=レントゲン検査)、X線CT検査による画像診断法を理解する</li> <li>2. MRI画像検査法の理論と実際を理解する</li> <li>3. 超音波検査の方法と応用、内視鏡、核医学検査を理解する</li> </ol>					
対面授業の 進め方	授業を通じて、各疾患の画像の解説のあと、カンファレンス形式で読影演習を行い、理解を深めていく					
遠隔授業の 進め方	TEAMSによる遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 画像診断法 (X線、CT、MRI、超音波検査の理論)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 画像解剖 (頭部)・画像診断 (頭部疾患)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 画像解剖 (頭部)・画像診断 (頭部疾患)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 画像解剖 (脊椎)・画像診断 (脊椎・脊髄)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 画像解剖 (上肢・下肢)・画像診断 (四肢)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 画像解剖 (胸部)・画像診断 (胸部)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 画像解剖 (腹部)・画像診断 (腹部・消化管)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 定期試験 (期末レポート)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 80 %	<input type="checkbox"/> その他 20 %	
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	水間正澄・川手信行	リハビリテーション医療に活かす画像のみかた			南江堂	2019
参考図書						
履修要件等	特になし					
オープンな 教育リソース						
研究室			オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FHW02-2E, FHW04-2E, FHW02-3E		授業形態	講義	開講年次	2年次・3年次
授業科目名	社会福祉援助技術論(含ケースワーク論)		担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念		選択必修	1 単位	後期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	社会保障・教育とリハビリテーション				
	ヘルプ・モーション	保健医療福祉				
教員の実務経験と授業内容の関連	児童養護施設 指導員(大学3年生～大学院修士課程修了までの4年間嘱託として従事) 事例検討と面接において実際の臨床場面を題材に用いて教える					
授業内容の要約	<p>本講義は、“対人支援”に関わる講義である。したがって、講義に用いる事例は、登場人物の人生と切り離して考えられるものではない。単に知識の習得に止まらず、共感と理解を目指すものとした。まずは基本となるところの面接のあり方を理論的に明らかにする。社会福祉援助活動の意義・形態・方法を通して、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を教授する。</p> <p>援助技術を学ぶことにより、専門職として他者との豊富なコミュニケーションが図れ、必要とされる情報の収集が可能になり多職種との連携が円滑にできる。</p> <p>他者とのコミュニケーションにおいても、社会福祉の理念が反映していることが確認できる。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケースワークに関わる理論について説明でき、それぞれの方法や活動の目的や役割を理解できる</li> <li>2. 社会福祉の専門的援助について理解を深め、展開場面ごとに意義と方法について説明できる</li> <li>3. 対人支援の臨床現場において、ラポールの形成等援助技術を活用できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	基本的な知識を講義した上で、事例を基にグループディスカッションやロールプレイを行い、その結果をプレゼンテーションする。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること					
遠隔授業の 進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。グループディスカッションについては、レポートで対応する。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、原則として登校日に配付。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ソーシャルワーカーとは イギリスのソーシャルワーカー			ソーシャルワーカーについての意見をまとめること			
2. 社会福祉援助技術の体系			社会福祉援助技術の体系をまとめること			
3. 面接技法Ⅰ(初回面接、ラポールの形成)			ラポールの形成についてまとめること			
4. 面接技法Ⅱ(面接に関わる理論と技法)			面接に関わる理論をまとめること			
5. 援助技術の実践 事例検討Ⅰ			事例を検討しまとめる			
6. ソーシャルワークの展開過程 事例検討Ⅱ			ソーシャルワークの過程をまとめること			
7. 専門職			専門職であるPT, OT, STの根拠をまとめる			
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他	
	基準等	事例検討		社会福祉援助技術の知識を問う		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	各項目に応じてレジュメを配布する。					
参考図書	講義内で適宜紹介する。					

履修要件等	「社会学」、「社会福祉学」、「社会保障制度」を履修されていることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	1号館4階第1研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SPT21-2E, SOT16-2E, SRS06-2E, SRE16-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	スポーツリハビリテーション概論		担当教員 E-Mail	今井 亮太・法所 遼汰		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学	選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学	作業療法治療学				
	言語聴覚学	地域言語聴覚療法学				
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学				
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	スポーツ活動を行うすべての選手に対する安全で有効なサポート方法について学習し、臨床場面や各種スポーツ大会などにおいて、選手に健康的なサポートができる基本的な知識を身につける。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツにおけるインテグリティを理解する</li> <li>2. スポーツ選手に多い一般的な病態を説明できる</li> <li>3. 障がい者スポーツの重要性を理解する</li> <li>4. スポーツ傷害の疾患に応じた評価方法を説明できる</li> <li>5. 基本的な安全管理について理解できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義は、講義内で配布する資料を中心に解説する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業の場合、Teamsによるオンライン形式で行う。講義形式の授業はスライド等にて説明する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. スポーツ傷害の病態運動学			運動学(力学)を復習しておくこと。			
2. スポーツ傷害の測定と評価			授業内容を復習し理解する			
3. 競技復帰のためのエクササイズとテクニック			授業内容を復習し理解する			
4. 競技復帰のためのプログラムデザイン			授業内容を復習し理解する			
5. スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質			授業内容を復習し理解する			
6. 障がい者スポーツの意義と理念			授業内容を復習し理解する			
7. 安全管理			授業内容を復習し理解する			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト %	■レポート 100%	□定期試験 %	■その他 %	
	基準等	スポーツリハビリテーションに関する課題を提示する。講義内容と絡めてどのように考察しているか、またその独自性や完成度で配点を行う。				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	日本スポーツ医学 検定機構	スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級 改訂版		東洋館出版	2020	
参考図書						
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	研究科棟4階 第145研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00			

科目No.	SPT23-2E, SOT18-2R, FHW07-2E, SHT01-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	園芸療法		担当教員 E-Mail	川村 明代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学	作業療法治療学		必修		
	言語聴覚学	社会保障・教育とリハビリテーション		選択必修		
	ヘルス プロモーション	園芸療法		選択必修		
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士として勤務経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。					
授業内容の要約	園芸療法(Horticultural Therapy: HT)の基礎的な知識を学ぶ。園芸療法の対象者となるクライアントのニーズや課題、必要なサポート等をとらえ、園芸療法を通じたアプローチ方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>園芸療法の対象者のニーズや課題が理解できる</li> <li>園芸療法の効果や方法を説明できる</li> <li>園芸療法を系統立てて考えられる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	基本的に授業は講義形式で行う。また、課題として自身または他の学生と一緒に考え、プレゼンテーションする授業形態をとる。園芸療法を実践している外部講師による授業も取り入れている。					
遠隔授業の 進め方	毎回の資料をメールにて送付する。授業はteamsを使用して行う。授業後に復習課題の期限内提出により出席確認とする。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、学生アセスメント調査、資格取得について			復習：園芸療法と園芸の違いを挙げる			
2. 園芸療法(HT)とは：「定義」「歴史」「代替療法」			復習：園芸療法の背景について理解する			
3. HT目的と手技1：「身体障害」「高次脳機能障害」のある方への園芸療法、身体機能へのアプローチ			復習：身体障害、高次脳機能障害がある方に、園芸活動をどのように活かせるかを考える			
4. HT目的と手技2：「高齢者」「認知症」の方への園芸療法			復習：高齢者、認知症のある方に、園芸活動をどのように活かせるかを考える			
5. HT目的と手技3：「精神障害」のある方への園芸療法、精神心理機能へのアプローチ			復習：精神障害のある方に、回復段階にあわせて園芸活動をどのように活かせるかを考える			
6. HT目的と手技4：「知的障害」「発達障害」のある方に対する園芸療法、「特別支援学校」「就労支援施設」での取り組み			復習：知的・発達障害のある方に、園芸活動をどのように活かせるかを考える			
7. HT目的と手技5：「子ども」「地域活動」「園芸福祉」「農福連携」			復習：園芸福祉、農福連携などの概念について学び、園芸を地域活動にどう活かせるかを考える			
8. HT目的と手技6：外部講師(園芸療法実践者)による講義 ※日程変更の可能性があります			復習：園芸療法実践者から、実際の取り組みや地域活動について学ぶ			
9. HTの進め方1：プロセス、リスク管理			復習：園芸活動や植物を用いたリハビリテーションの進め方、リスク管理について理解する			
10. HTの進め方2：事例検討			復習：園芸療法の進め方について、事例を通して考え、理解する			
11. HTの場づくり1：課題の整理、まとめ			復習：病院や施設における園芸療法の場づくりについて、課題をまとめる			
12. HTの場づくり2：プレゼンテーション①			予習：自身がまとめた課題のプレゼンテーションの準備を行う			

13. HT の場づくり 3 : プレゼンテーション②		復習: 自身が行った課題のプレゼンテーションについて振り返る			
14. 授業の総復習と試験のための準備					
定期試験					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)		試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う			
成績評価方法	項目	■ 課題 30 %	□ レポート %	■ 定期試験 70 %	□ その他 %
	基準等	課題への取り組み、プレゼンテーション、聴く態度を評価する。		定期試験を実施し、授業内容の理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	川村明代 他	園芸作業療法ガイドブック ※授業で使用するので、必ず購入してください		クリエイツかもがわ	2025
参考図書	岩崎 寛	みどりの処方箋 ーヒーリング時代の緑の使い方ー		グリーン情報	2023
履修要件等	「園芸論」「ガーデニング」と合わせて3科目を履修していただきたい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10~13:00		

科目No.	SPT24-2E, SOT19-2E, FHW08-2E, SHT02-2E	授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	ガーデニング	担当教員 E-Mail	川村 明代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2単位
	作業療法学	作業療法治療学			
	言語聴覚学	社会保障・教育とリハビリテーション			
	ヘルス プロモーション	園芸療法			
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士として経験を持つ教員が、実践経験を生かし指導する。				
授業内容の要約	園芸療法を行うために、植物の栽培・管理などの基礎的園芸作業の理解と技術を習得する。季節に応じた植物の選択と育て方、栽培計画、収穫物の利活用を体験し学ぶ。				
学修目標 到達目標	1. 園芸植物の栽培・管理・収穫物の利活用ができる 2. 園芸植物の栽培記録をとることで変化に気付き、必要な手入れができる 3. 園芸植物の栽培に必要な情報を収集・整理し、年間の野菜栽培計画ができる				
対面授業の 進め方	主に畑を使った園芸活動の演習を行う。天候により内容が変更となる場合もある。受講者は作業に適した服装（初回講義時に連絡）で参加すること。				
遠隔授業の 進め方	毎回の授業課題や資料はメールにて送る。実習に関する講義用動画を使う場合は、講義時間に合わせて流す。期限内の課題提出により質疑応答・出席確認を行う。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション			予習：冬野菜の名前を調べる		
2. 野菜栽培1：畑づくりと土づくり (道具の紹介、土づくり、畝たて、冬野菜の選択)			復習：道具の名称、肥料を覚える、		
3. 野菜栽培2：野菜栽培の流れ（用語、播種・定植） 秋冬野菜の播種・定植			復習：播種・定植の方法を理解する 課題（毎回）：栽培記録を書く、栽培記録写真を撮る		
4. 野菜栽培3：作物栽培の流れ (全体の流れ、観察記録、記録写真)			復習：作物栽培の全体の流れを把握する		
5. 野菜栽培4：基本の管理作業（灌水、追肥、除草）			課題：野菜の基本管理作業ができる		
6. 野菜栽培5：基本の管理作業（間引き、中耕、土寄せ）			課題：野菜の基本管理作業ができる		
7. 野菜栽培6：野菜につく害虫・病気、その予防と対策			復習：野菜につく害虫・病気、その予防と対策に関して理解できる		
8. 花壇・菜園計画（花・野菜の栽培計画）			課題：グループで1つ花壇の計画を作る		
9. 花の栽培：花の寄せ植え			課題：花壇の計画をもとに、寄せ植えを行う		
10. 野菜栽培、花の栽培、フラワーアレンジメント			課題：野菜・花の栽培を行う、野菜の収穫の時期を見極める		
11. 野菜栽培・収穫、花の栽培					
12. 野菜栽培・収穫、花の栽培					
13. 野菜栽培・収穫、花の栽培、門松作り			課題：野菜の栽培記録を編集する 季節行事を体験する		
14. 野菜の収穫、畑の片づけ			課題：野菜の栽培記録を提出する		
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）、栽培計画書返却			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う		

成績評価方法	項目	□ 課題 15 %	■ レポート 15 %	■ 定期試験 70 %	□ その他 %
	基準等	花壇・菜園計画の内容を評価する	野菜栽培記録の内容を評価する	定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		草花栽培マニュアル 草花栽培基礎講座		サカタのタネ	
	藤田 智	地域別栽培カレンダー はじめての野菜づくり		日本文芸社	
参考図書	川村明代 他	園芸作業療法ガイドブック		クリエイツかもがわ	2025
履修要件等	<p>「園芸療法」「園芸論」と合わせて3科目を履修していただきたい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は「ガーデニング」「園芸療法」「園芸論」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。</p>				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SPT25-2E, SOT20-2E, FHW09-2E, SHT03-2E		授業形態	講義	開講年次	2年次			
授業科目名	園芸論		担当教員 E-Mail	川村 明代					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	理学療法治療学		選択必修	2単位	後期(30h)			
	作業療法学	作業療法治療学							
	言語聴覚学	社会保障・教育とリハビリテーション							
	ヘルス プロモーション	園芸療法							
教員の実務経験と 授業内容の関連	園芸療法士として経験を持つ教員が、実践経験を生かし講義する。								
授業内容の要約	園芸とは何かを理解し、園芸療法で用いる植物全般に関する知識の習得を目指す。植物の特性や暦を学ぶことで、季節に応じた植物の利活用、人と植物の関わりなどの理解を深める。								
学修目標 到達目標	1. 植物の名前や生態を調べて活用できる 2. 園芸療法の目的に沿い、クライアントに適した植物を選択できる 3. 暦を通して、季節に応じた植物の利活用ができる								
対面授業の 進め方	資料を適宜配布し、講義と実習で進めていく。後半には園芸療法で行うプログラムを体験する。								
遠隔授業の 進め方	毎回の資料をメールにて送付し、授業は teams を使用した講義で進めていく。授業後、期限内に提出された課題と、teams の出席とを合わせて課題の評価とする。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
1. オリエンテーション 植物の基礎知識 1: 植物の分類			復習: 植物の分類を覚える						
2. 植物の基礎知識 2: 花卉 (一二年草、宿根草、球根植物)			復習: 花の分類と名前を覚える						
3. 植物の基礎知識 3: 野菜			復習: 野菜の分類と名前を覚える						
4. 植物の基礎知識 4: 樹木・果樹			復習: 樹木の分類と名前を覚える						
5. 植物の基礎知識 5: 観葉植物、緑の重要性と効果			復習: グリーンアメリティ効果を理解する						
6. 植物の基礎知識 6: ハーブ、ハーブの効用・利活用			復習: 主なハーブの名前と効果を調べる						
7. 植物の基礎知識 7: 有毒植物・危険な生き物、対策と応急処置			復習: 有毒植物・危険な生き物について理解する						
8. 花壇・菜園計画 (花・野菜の栽培計画)			課題: 花壇・菜園計画を立てる						
9. 植物の利活用 1: 押し花クラフト、クリスマスリース作成計画			課題: 押し花を使ったクラフトを作成する クリスマスリース作成の計画を立てる						
10. 植物の利活用 2: クリスマスリース素材集め			課題: クリスマスリースの素材を集める						
11. 植物の利活用 3: クリスマスリース作り			課題: 計画にもとづいて、自然材料でリースを作成する						
12. 日本の暦について			復習: 日本の暦、二十四節気について理解する						
13. 植物名テスト			復習: 植物名を覚える						
14. 授業の総復習と試験のための準備			復習: 試験に向けて復習する						
定期試験									
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)			試験内容の振り返り、理解と知識の修正を行う						
成績評価方法	項目	□ 課題	%	■ レポート	30 %	■ 定期試験	70 %	□ その他	%
	基準等			花壇・菜園計画		定期試験を実施する。 授業の内容全般についての理解度を評価する。			

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		草花栽培マニュアル 草花栽培基礎講座	サカタのタネ	
	藤田 智	地域別栽培カレンダー はじめての野菜づくり	日本文芸社	
参考図書	川村明代 他	園芸作業療法ガイドブック	クリエイツ かもがわ	2025
履修要件等	<p>「園芸療法」「ガーデニング」と合わせて3科目を履修していただきたい。 園芸療法士の資格認定を受けようとする受講生は、「園芸論」「園芸療法」「ガーデニング」「園芸療法実習Ⅰ」「園芸療法実習Ⅱ」の単位を取得することが必要となる。</p>			
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～13:00	

科目No.	SRP01-2R, SRO01-2R, SRS01-2E, SRE05-2R	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	生活環境学	担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	必修	2 単位	後期 (30h)
	作業療法学				
	言語聴覚学	地域言語聴覚療法学	選択必修		
ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は理学療法士であり介護保険施行 10 年前から地方行政職として実務経験があり、福祉住環境コーディネーター資格試験当初からの合格者で、初期の福祉用具プランナー資格養成講習の講師などを歴任するなどこの領域への豊富な経験から、福祉住環境コーディネーター2 級レベルの問題解決力を育成するノウハウを持ち、セラピストが福祉住環境整備を進めるエトスを伝える事ができる。				
授業内容の要約	人は環境との相互作用の中で生きる。時として環境が生活者を蝕んだり困らせたりする。障がいと折り合いをつけながら生きる人にとってバリアにはどんなものがあるのか深く追求し、セラピストの卵として福祉住環境コーディネーター2級の資格試験に挑めるようなひたむきな学修姿勢の定着をめざす。				
学修目標到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>障がい特性に応じた生活の理解を深め、合理的配慮に基づく環境整備を提案できる</li> <li>福祉住環境コーディネーターに求められる倫理・規範に相応しい振る舞いができる</li> <li>福祉住環境コーディネーター2級に合格 (70 点以上) できる</li> </ol>				
対面授業の進め方	<p>授業は Teams を用いて行う。受講には事前の準備が欠かせないので、授業計画で毎回の TEXT のページをあらかじめ示しておく。授業では各コマ (90 分) の TEXT 範囲を数回分に分割し、事前公開の動画にそった内容の講義を行い、その直後に Forms 課題を提出させる。これを 1 コマで 2-3 回繰り返しその日のコマで予定する範囲をカバーしていく。期限までに Forms 課題クイズへ回答すれば採点してその都度返却するが、放置すればその回は 0 点となる。14 コマ分で約 40 回の Forms 課題クイズの総合計 (約 400 点前後) の正答率を期末試験成績とする。毎週返却される得点を自分で合計すれば目安となるだろう。つこつ努力を積み重ねることなく未提出等で 0 点を重ね正答率が 60% 以下の場合、再試験対象となる。ただし、再試験は 14 回すべての範囲から一挙に出題し、資格試験相当の難易度のため、資格受験を覚悟するくらいの準備をしない限り合格は困難となる。</p> <p>また、授業の進度等によって計画の内容は前後することもある。</p>				
遠隔授業の進め方	授業動画を DL し視聴後、その範囲の Forms 課題クイズに回答する。回答したら、たとえ正解でも必ずその場で解説をクリックして内容を確認し日々復習を積み重ねてほしい。				
	授業計画	授業時間外に必要な学修		30分以上	
	1. 4 章.相談援助と福祉住環境整備の進め方	教科書 p204-245 を通読し、Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			
	2. 6 章 1 節.福祉用具の意味と適応	教科書 p 358-372 を通読しておく。Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			
	3. 6 章 2 節.生活行為別にみた福祉用具の活用 A.B (起居・移動)	教科書 p 373-387 を通読し、Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			
	4. 6 章 2 節.生活行為別にみた福祉用具の活用 B~E、Colum (移動、排泄、入浴、自助具、義肢装具)	教科書 p 387-413 を通読し、Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			
	5. 5 章 1 節.福祉住環境整備の基本技術	教科書 p 248-278 を通読し Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			
	6. 5 章 2 節.生活行為別福祉住環境整備	教科書 p279-328 を通読し、Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			
	7. 5 章補節.福祉住環境整備の基礎知識	教科書 p329-356 を通読し、Forms 課題の授業範囲の該当箇所に取り組み。			

8. 1 章.介護保険制度と住環境		教科書 p2-52 を通読しておく Forms 課題 の授業範囲の該当箇所に取り組む。			
9. 1 章. 障害者施策、コーディネーターの役割		教科書 p53-86 を通読し、Forms 課題 の授業範囲の該当箇所に取り組む。			
10. 2 章. ICF とインクルージョン		教科書 p88-122 を、Forms 課題 の授業範囲の該当箇所に取り組む。			
11. 3 章.高齢者に多い疾患別の福祉住環境整備 (CVA 廃用症候群・骨折・認知症・リウマチ・パーキンソン・心筋梗塞・シックハウス・)		教科書 p124-158 通読、Forms 課題 の授業範囲の該当箇所に取り組む。			
12. 3 章.障害別の福祉住環境整備 (脊髄損傷・脊髄小脳変性症・ALS・筋ジス・脳性麻痺)		教科書 p159-202 通読し、Forms 課題 の授業範囲の該当箇所に取り組む。			
13. 3 章.障害別の福祉住環境整備 (内部障害・視聴覚障害・認知行動障害・切断)		教科書 p204-245 を通読し、Forms 課題 の授業範囲の該当箇所に取り組む。			
14. 総まとめ 事例集		教科書 p416-457 を通読し、総復習			
定期試験 (期末試験)		教科書 p2-457			
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)		定期試験の講評と解説、および再試験準備			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 100%	□レポート 0%	■再試験	■その他 %
	基準等	福祉住環境コーディネーター2 級試験の内容で、毎回の授業範囲課題 Formsの正答率を集計し成績とする。		14回までの範囲で 2023年福祉住環境コーディネーター2 級試験と同等レベルの難易度の問題	福祉住環境コーディネーター2 級合格者は公式試験得点 (70 点以上) をそのまま評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト改訂 7 版		東京商工会議所	2025
参考図書	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2 級 速習テキスト【公式テキスト改訂 7 版対応】【IBT 試験、CBT 試験対策】		ユーキャン	2025
	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2 級 重要過去問&予想模試		ユーキャン	2025
	ユーキャン	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2 級 o×一問一答ベスト 800!【公式テキスト改訂 7 版対応】【IBT 試験、CBT 試験対策】		ユーキャン	2025
	HIPS 合格対策プロジェクト	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級過去問題集 2 0 2 3 年版		ハウジングエージェンシー	2023
履修要件等	日常生活活動系・および義肢装具系科目の履修済みが望ましい。				
オープンな教育リソース	2024 年度 福住2 級受験講座： <a href="https://drive.google.com/drive/folders/1nOE3vtQTGMXnyFQqUzFs94PnEpcxSFHz?usp=sharing">https://drive.google.com/drive/folders/1nOE3vtQTGMXnyFQqUzFs94PnEpcxSFHz?usp=sharing</a> 2023 後期： <a href="https://youtu.be/0faXv5k-Vg">https://youtu.be/0faXv5k-Vg</a> <a href="https://youtu.be/8jiV0gqAETO">https://youtu.be/8jiV0gqAETO</a> <a href="https://youtu.be/BHBqFn5sGKI">https://youtu.be/BHBqFn5sGKI</a>				
研究室	1 号館 5 階 第 20 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～12:50		

科目No.	SRP03-2E, SRO04-2E, SRS04-2E, SRE10-2E	授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	地域支援フィールドワーク	担当教員 E-Mail	久利 彩子・中越 雄也		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1単位	前期(30h)
	作業療法学				
	言語聴覚学	地域言語聴覚療法学			
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学			
教員の実務経験と授業内容の関連	障がい者を有する患者の地域生活における支援に携わった経験と専門知識を持つもの(訪問リハビリテーション臨床経験3年)が、地域支援の基礎について、フィールドワークを通じて指導する。				
授業内容の要約	当該授業は、「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」人材育成に重点を置く。学外の組織と連携し、当該組織の主に地域における移動についての問題解決に主体的に関与する。学外の組織と連携し、情報生産者として有益な情報を収集し、データ分析を行い、アウトプットするまでの一連の過程を経験する。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域生活に重要な視点について、障がい者の視点から考えることができるようになる。</li> <li>2. 世代間や異職種間の交流を通じ、問題解決能力とコミュニケーション能力を育む。</li> <li>3. 関与した事象に関する情報発信スキルを育む。</li> </ol>				
対面授業の 進め方	当該授業は、ディスカッションや本学地域周辺でのフィールドワークを行う。また、得られた情報を用いて各自ノートPCでデータ分析(Excel)を実施・資料作成(PowerPoint)を行う。学外の組織と連携し、当該組織の問題解決に主体的に関与する。通常授業時間以外(土曜日)に開講予定。 ※2026年度開講日:5/30(土)、6/6(土)、6/13(土)、(予備日:6/20(土)いずれも1~5限。				
遠隔授業の 進め方	当該授業は、office365teams等、「非接触・非対面」型のコミュニケーションツールを通じ、主に本学地域周辺における移動その他の問題に主体的に関与する。また、得られた情報を集約して、各自PCで成果物作成を行う。通常授業時間以外に開講。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上	
(第1日目)			授業中の自らの行動を振り返り、次回の授業のためにどのようにしたらより良い内容となるか、しっかり考えること。		
1. オリエンテーションと学内演習(電動車いす等の実際)					
2. フィールドワーク(屋内および大学構内で電動車いす等を使用し課題への認識を深める)					
3. 学内演習(フィールドワークの成果物作成とプレゼン)					
4. フィールドワーク(大学周辺で電動車いす等を使用し課題への認識を深める)					
5. 学内演習(フィールドワークの成果物作成とプレゼン)					
(第2日目)					
6. 学内演習(電動車いすでの公共交通機関を利用した外出の計画と困難さの予測)					
7. フィールドワーク(電動車いすでの公共交通機関を利用し外出。予測と実際の乖離を体験より学ぶ)					
8. フィールドワーク(電動車いすでの公共交通機関を利用し外出。予測と実際の乖離を体験より学ぶ)					
9. フィールドワーク(電動車いすでの公共交通機関を利用し外出。予測と実際の乖離を体験より学ぶ)					
10. フィールドワーク(電動車いすでの公共交通機関を利用し外出。予測と実際の乖離を体験より学ぶ)					

(第3日目)					
11. 学内演習 (フィールドワークの成果物作成とプレゼン)					
12. 学内演習 (フィールドワークの成果物作成とプレゼン)					
13. 学内演習 (フィールドワークの全成果物作成とプレゼン)					
14. 学内演習 (フィールドワークの全成果物作成とプレゼン)					
15. 授業のまとめ (地域生活と車いすについて)					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 100 %
	基準等				各個人に割り当てられたテーマに関するプレゼンテーションおよび、授業への参加状況や取り組み姿勢などを総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	特に指定しない				
参考図書	特に指定しない				
履修要件等	天候によってフィールドワークの内容を調整します。学外の組織と協調して授業を実施しますので、世代間交流や異職種間交流があります。気配り目配り心配りはとても重要です。物事への探究心も必須です。履修人数に上限を設けています (15 名程度)。Excel および PowerPoint を使用してデータ分析やプレゼン作成を実施します。(Excel および PowerPoint が install されているノート PC が必須です。)				
オープンな教育リソース					
研究室	久利：1号館5階 第9研究室 中越：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	久利：毎週火曜日 12：20～12：50 中越：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SRP05-2E, SRO06-2E, SRS08-2E, SRE12-4E		授業形態	講義	開講年次	2年次・4年次
授業科目名	認知症ケア学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション		選択必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	地域言語聴覚療法学				
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学				
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関や高齢者施設で認知症ケアサービスの臨床経験のある教員が、その経験を生かして認知症に関する病態やケアについて講義する					
授業内容の要約	認知症ケアの基本理念「尊厳の保持」「生活主体」「その人らしさ」「エンパワメント」をふまえた、基本的知識を理解する。また、認知症の病態に応じたケアの仕方を学ぶ、					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケアの基本理念を理解し、説明することができる</li> <li>2. 認知症の基本的な症状と特徴を理解し、説明することができる</li> <li>3. 病態に応じた介入及び、ケアの仕方を学ぶ</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義、演習、課題により、認知症ケアについての理解を進めていく 個々の生活を構成している要素を体験させ、想像・考えることができるように進める					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員に申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 認知症とは PP5~9、PP19~22				予習：教科書 PP5~9、PP19~22 を読了しておく		
2. 認知症の症状と特徴を知る① 中核症状 PP9~12				予習：教科書 PP9~12 を読了しておく		
3. 認知症の症状と特徴を知る② 行動心理症状(BPSD) PP12~13				予習：教科書 PP12~13 を読了しておく		
4. 認知症の症状と特徴を知る③ 神経心理学的検査・行動評価 PP13~18				予習：教科書 PP13~18 を読了しておく		
5. 非薬物的療法 回想法 リアリティオリエンテーション バリデーショ PP23~24				予習：教科書 PP23~24 を読了しておく		
6. 認知症サポーター研修の受講						
7. 前期試験対策				これまでの授業内容の理解を深めておく		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト %	■レポート 20%	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等		担当教員から課題の内容を指示する	授業内容全般の理解度を評価する	授業態度：受講の積極性や理解度等を総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	日本認知症予防学会	認知症予防フレンドテキストブック		徳間書店	2018	
参考図書	講義内で担当教員から適宜紹介する					
履修要件等	教科書・配布資料を必ず持参すること					
オープンな教育リソース						
研究室	1号館2階 第24 研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 10:40~12:10		

科目No.	SRP07-2E, SRO08-2E, SRS10-2E, SRE14-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	アロマセラピー		担当教員 E-Mail	武田 ひとみ		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	地域・予防医学的リハビリテーション	選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	地域言語聴覚療法学				
ヘルスプロモーション	リハビリテーション学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>ディプロマポリシーの態度、思考力の一つである「医療の高度化や変化する時代に対応し、医療従事者として生涯にわたり、知識や技能を研鑽することができる人」として、各専攻の知識、技術のみならず、疾患の治療、痛みやストレスの緩和等に役立つ補完・代替療法のひとつでもあり、セルフケアの方法でもあるアロマセラピーについて正しい知識を身につける。</p> <p>アロマセラピーとは何なのか？どのように心身に作用するのかについて正しく理解し、簡単な実習を通じてセルフケアとしてのその手法を体験する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アロマセラピーについて正しい知識を身につける</li> <li>2. ストレスに関連した心身の不調について理解する</li> <li>3. 簡単なアロマセラピーの手法を体験する</li> <li>4. 補完・代替療法への利用において精油選択の方法を知る</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>短期間なので基礎理論の理解のための講義中心。授業内作成提出物や次回までの実習に必要な課題もある。必ずテキストを準備し、授業時は集中し、課題は必ずやってくる。</p> <p>受講学生は生理学を既に習得し、十分理解している状態であることが望ましい。アロマセラピーをたった二日間で完全に理解することは不可能であるが、安全にアロマセラピーを利用できるための基礎知識は習得させたい。</p>					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学	30分以上	
1. アロマセラピーを学ぶとはどういうことか				授業内で指示された課題を完成させておくこと		
2. 精油とはなにか。精油各論						
3. 精油の体内への経路、作用について(基礎的な生理学の復習含む)						
4. アロマセラピーのいろいろな手法。手法の一つを体験(エアフレッシュナー作成)						
5. ストレス反応について(神経系、内分泌系の復習含む)						
6. コンサルテーションとトリートメントについて						
7. コンサルテーションロールプレイとカルテ作成						
8. カルテに基づくブレンドオイル作成、症例検討						
定期試験(期末レポート)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 80%	□定期試験 %	■その他 10%	
	基準等	実習で使用する質問紙の作成課題(二回目の授業時に持参)	コンサルテーションロールプレイと実際のブレンドオイル作成後の複数のレポート		実習態度、授業時の質疑応答	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		アロマセラピー検定 公式テキスト (2020年6月改定版1級2級対応最新版)		世界文化社	2020	
参考図書						
履修要件等						

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	SBP04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床運動学 I (含演習)		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として病院での10年以上臨床経験のある教員が、機能運動学の基本的な知識と臨床での考えた方を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。解剖学および運動学の知識を基に、下肢の機能と運動学、病態運動学について学修する。さらに、運動療法や基本的な日常生活動作に必要な下肢運動および協調的な運動連鎖を導くために必要な知識を学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な下肢関節を構成する構造および機能的な役割を説明できる。</li> <li>2. 主要な下肢関節の関節運動学を説明できる。</li> <li>3. 主要な下肢関節に生じる病態とその影響について説明できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学、基礎運動学の理解を確認しながら進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。 (Microsoft office365 の Teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。)					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 機能運動学総論、股関節の構造と機能① 骨・関節の構造			復習：股関節の骨・関節の特徴をまとめる。			
2. 股関節の構造と機能② 関節包・靭帯の機能			復習：股関節周囲の結合組織の特徴をまとめる			
3. 股関節の構造と機能③ 筋機能①			復習：股関節周囲筋を名称まとめる			
4. 股関節の構造と機能④ 筋機能②			復習：股関節周囲筋の特徴をまとめる			
5. 股関節の構造と機能⑤ 運動学①			復習：股関節筋の機能をまとめる			
6. 股関節の構造と機能⑥ 運動学①			復習：股関節筋の機能をまとめる			
7. 股関節の構造と機能⑦ 病態運動学			復習：股関節の病態と機能障害をまとめる			
8. 膝関節の構造と機能① 骨・関節の構			復習：膝関節の骨・関節の特徴をまとめる			
9. 膝関節の構造と機能② 関節包・半月・靭帯の構造と機能			復習：膝関節周囲の結合組織の特徴をまとめる			
10. 膝関節の構造と機能③ 筋機能①			復習：膝関節周囲筋の名称をまとめる			
11. 膝関節の構造と機能④ 筋機能②			復習：膝関節周囲筋の特徴をまとめる			
12. 膝関節の構造と機能⑤ 運動学①			復習：膝関節筋の機能をまとめる			
13. 膝関節の構造と機能⑥ 運動学②			復習：膝関節筋の機能をまとめる			
14. 膝関節の構造と機能⑦ 病態運動学			復習：膝関節の病態と機能障害をまとめる			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		□レポート %	■定期試験 70%	
	基準等	授業内で行う小テストの平均点を定期試験の点数に加算する			定期試験は記述試験とする	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー 第3版」			医歯薬出版	2021
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	形態・機能学解剖領域Ⅰ、形態・機能学解剖領域Ⅱ、運動学、基礎運動学、基礎運動学実習が履修済みであることが望ましい。					

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第21研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00

科目No.	SBP05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床運動学Ⅱ（含演習）		担当教員 E-Mail	村西 壽祥		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として病院での10年以上臨床経験のある教員が、機能運動学の基本的な知識と臨床での考えた方を踏まえた講義を行う。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、本学カリキュラムポリシーである専門的な知識・技術を深め療法士としての素地を作る科目である。機能運動学Ⅰに引き続き、解剖学および基礎運動学の知識を基に、足関節・足部、主要な上肢の運動および機能、病態について学修する。さらに、運動療法や基本的日常生活動作に必要な足関節・足部、主要な上肢の運動および協調的な運動連鎖を導くために必要な知識を学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足関節・足部と主要な上肢の構造と機能的な役割を説明できる。</li> <li>2. 足関節・足部と主要な上肢関節の関節運動が説明できる。</li> <li>3. 足関節・足部と主要な上肢関節に生じる病態とその影響について説明できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義は教科書および板書を中心に進める。 講義は解剖学および基礎運動学の知識を確認しながら進める。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の Tteams を使用し、双方向通信の授業を行う。 (Microsoft office365 の Teams を使用し、対面授業内容のオンデマンド配信を行う。)					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 足関節・足部の構造と機能① 骨・関節の構				復習：足関節・足部の骨・関節の特徴をまとめる		
2. 足関節・足部の構造と機能② 靭帯の機能				復習：足関節・足部を構成する結合組織の特徴をまとめる		
3. 足関節・足部の構造と機能③ 筋機能				復習：足関節・足部筋の名称と特徴をまとめる		
4. 足関節・足部の構造と機能④ 運動学				復習：足関節・足部筋の機能をまとめる		
5. 足関節・足部の構造と機能⑤病態運動学				復習：足関節・足部の病態と機能障害をまとめる		
6. 肩関節・肩甲帯の構造と機能① 骨・関節の構				復習：肩関節の骨・関節の特徴をまとめる		
7. 肩関節・肩甲帯の構造と機能② 関節包・靭帯の機能				復習：肩関節を構成する結合組織の特徴をまとめる		
8. 肩関節・肩甲帯の構造と機能③ 筋機能				復習：肩関節周囲筋の名称をまとめる		
9. 肩関節・肩甲帯の構造と機能④ 運動学				復習：肩関節周囲筋の特徴と機能をまとめる		
10. 肩関節・肩甲帯の構造と機能⑤ 病態運動学				復習：肩関節の病態と機能障害をまとめる		
11. 肘・前腕の構造と機能① 骨・関節の構				復習：肘・前腕の骨・関節の特徴をまとめる		
12. 肘・前腕の構造と機能② 靭帯の機能				復習：肘・前腕を構成する結合組織の特徴をまとめる		
13. 肘・前腕の構造と機能③ 筋機能と運動学				復習：肘・前腕周囲筋の名称と機能をまとめる		
14. 肘・前腕の構造と機能④ 病態運動学				復習：肘・前腕の病態と機能障害をまとめる		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内で行う小テストの平均点を定期試験の点数に加算する		定期試験は記述試験とする		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	Donald A Neuman	「筋骨格系のキネジオロジー 第3版」	医歯薬出版	2021
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	形態・機能学解剖領域Ⅰ、形態・機能学解剖領域Ⅱ、形態・機能学特論解剖領域、運動学、基礎運動学、基礎運動学実習、臨床運動学Ⅰ（含演習）が履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館5階 第21研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPE02-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	神経系検査測定法		担当教員 E-Mail	畑中 良太・村上 達典		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で7年以上の理学療法経験のある教員が、その経験を生かして、理学療法評価の基本的な知識と手法、理学療法評価の考え方について評価する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。教育課程における専門科目であり、「理学療法評価学実習」における実習のための基礎知識であり、「神経系理学療法学Ⅰ」や「神経系理学療法学実習」における治療計画を作成するための評価を学習する内容となっている。対象者の問題点の抽出および治療プログラム作成変更のために無くてはならない科目である。一連の理学療法評価系の授業を受講することによって、理学療法評価を円滑に実施できるようにする。本講座は神経学的検査測定技術について学習する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経学的検査測定の基本的概念を理解することができる</li> <li>2. 神経学的検査測定の方法を理解することができる</li> <li>3. 基本的な神経学的検査測定ができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、演習、実習を交えた体験学習を行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 意識障害(教科書 pp79-101)			復習: 意識の分類・JCS について			
2. 脳神経の検査(教科書 pp79-101)			復習: 脳神経について			
2. 認知症スクリーニング検査(教科書 pp102-133)			復習: HDS-R、MMSE について			
3. 感覚検査(総論、表在検査)(教科書 pp177-194)			復習: 感覚伝導路、感覚障害のパターン			
4. 感覚検査(深部検査)(教科書 pp177-194)			復習: 感覚検査の方法			
5. 反射検査(腱反射)(教科書 pp203-208)			復習: 反射弓の理解			
6. 反射検査(表在反射、病的反射)(教科書 pp 209-212)			復習: 反射検査の方法			
7. 片麻痺機能検査(ブルンストローム・ステージ)(教科書 pp447)			復習: BRST の方法			
8. 協調性検査(教科書 pp 308-309)			復習: 協調運動障害の種類			
9. 筋緊張検査(教科書 pp 213-217)			復習: 筋緊張とは何か			
10. 姿勢バランス検査(教科書 pp 279-307)			復習: バランス検査の方法			
11. 注意・遂行機能障害の検査(教科書 pp 105-133)			復習: 注意障害と遂行機能障害について			
12. 高次脳機能検査(教科書 pp105-133)			復習: 失行、失認について			
13. ロールプレイ			復習: 講義内容全般の実技			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 0%	■その他 100%	
	基準等				授業態度を評価する。 また実技試験を行う。各検査における実施手順等の確認を行い、評価する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	潮見泰蔵 他	PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版	羊土社	2019
	鈴木則宏	神経診察クローズアップ 第3版	メジカルビュー社	2020
参考図書	森岡周 他	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版	医学書院	2022
	伊藤俊一 他	<PT・OTのための測定評価 DVD Series> 7 片麻痺機能検査 協調性検査【新装版】	三輪書店	2024
履修要件等	解剖学および生理学関係の教科が履修済みであることが望ましい。			
オープンな 教育リソース				
研究室	研究科棟 4階 142 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPE03-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	歩行・動作観察演習		担当教員 E-Mail	久利 彩子・岡 健司		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法評価学	必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士としての実務経験をもとに、姿勢と動作の基本原理と観察技法の基礎を解説する。					
授業内容の要約	正常な姿勢と動作の基本原理と、障害がこれらに与える影響について理解を深める。特に歩行や基本動作について観察・分析の手法を習得する。					
学修目標 到達目標	1. 姿勢と動作の基礎理論を習得する。 2. 歩行や基本動作の観察・分析の基礎的手法を理解し、実践できるようにする。					
対面授業の 進め方	姿勢と動作の原理について講義後、アクティブラーニングとして観察・分析の演習を行う。個人または小グループで姿勢・動作を観察・記録し、結果を共有・討論する。相互フィードバックを通じて理解を深める。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業となる場合にはMicrosoft Teams を用いてオンタイム・オンデマンド配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		
1. オリエンテーション、バイオメカニクス (Chapter1)				予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:配布資料と教科書の該当箇所について、復習をすること。		
2. 正常歩行の概念と動作観察 (Chapter2)						
3. 正常歩行における下肢・体幹の役割 (Chapter3)						
4. 歩行における下肢の関節運動と機能 (1) (Chapter4)						
5. 歩行における下肢の関節運動と機能 (2) (Chapter5)						
6. 代表的な異常歩行とその原因および動作観察・分析 (Chapter6)						
7. 足関節と足部に関連した異常歩行と動作観察・分析 (Chapter7)						
8. 膝関節に関連した異常歩行と動作観察・分析 (Chapter8)						
9. 股関節に関連した異常歩行と動作観察・分析 (Chapter9)						
10. 体幹と骨盤に関連した異常歩行と動作観察・分析 (Chapter10)						
11. 異常歩行と動作観察・分析 (Chapter11)						
12. 椅子からの立ち上がりと動作観察・分析 (Chapter12)						
13. 階段昇降、床上動作(寝返り・起き上がり)と動作観察・分析 (Chapter13)						
14. 主な歩行テスト (Chapter14)						
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)				復習:解説をノートにまとめること。		

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	廣瀬 浩昭 弓岡 光徳 西守 隆	臨床歩行分析ワークブック 改訂第2版		メジカルビュー社	2017
参考図書	Donald A.Neumann	筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版		医歯薬出版	2018
履修要件等					
オープンな 教育リソース					
研究室	久利：1号館5階 第9研究室 岡：1号館4階 第2研究室	オフィスアワー	久利：毎週火曜日 12：20～12：50 岡：毎週火曜日 10：40～11：40		

科目No	SPE04-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	基本的検査測定法		担当教員 E-Mail	岡 健司・今井 亮太・佐伯 純弥		
基本項目	専 攻	科 目 区 分		単 位 数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必 修	2 単位	前 期 (60h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士有資格教員が臨床での経験を活かし、基本的な理学療法検査・測定に関する実技実習を行う。					
授業内容の要約	本講義では、理学療法評価の基盤となる「筋骨格系の触察」「形態計測・関節可動域測定 (ROM)」「徒手筋力検査法 (MMT)」の3要素を統合して学習する。臨床経験豊富な教員が、骨指標や筋の正確な触知から、それに基づいた正確な計測・評価技術、および結果の解釈までを教授する。実技中心のアクティブラーニング形式により、臨床実習に耐えうる正確かつ客観的な評価技術の定着を図る。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な骨指標および骨格筋の正確な触察ができる。</li> <li>2. 形態計測 (周径・肢長等) および関節可動域測定 (ROM) の方法・手順を理解し、正確に実施できる。</li> <li>3. 徒手筋力検査法 (MMT) の目的と手順を理解し、正確に実施できる。</li> <li>4. 計測・検査結果を適切に解釈し、バイタルサイン等の基本情報とあわせて理学療法評価に活用できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>講義と実技練習を行う。実技練習は複数名のグループワークの形式で実施する。また、授業の復習のため、毎回の授業後に課題を課すか、あるいは授業開始前に小テストを実施する。学修した実技をプレゼンテーションする時間も適宜設ける。</p> <p>授業では骨指標を触察する。骨の名称と部位を復習しておくことが望ましい。</p> <p>・教科書を使用し、実技中心に授業を進める。実技練習は、複数名のグループワークの形式で実施する。学生が学んだ筋の触察の知識を、実技を含めて説明するプレゼンテーションを実施する時間も設ける。本講義に先立って、解剖学の基礎知識を習得しておくこと。</p> <p>触察を行なうので、Tシャツ、短パンなど上下肢を露出しやすい服装で授業に参加すること。</p>					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修			
1. オリエンテーション, 触察の基本, 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (下肢) 4/8			講義の復習と次回の予習			
2. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (下肢)			講義の復習と次回の予習			
3. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (下肢) 4/15			講義の復習と次回の予習			
4. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (下肢)			講義の復習と次回の予習			
5. 形態計測 (四肢長, 四肢周径) 4/22			講義の復習と次回の予習			
6. バイタルサイン (血圧・脈拍)			講義の復習と次回の予習			
7. 関節可動域測定 (下肢) 4/29			講義の復習と次回の予習			
8. 関節可動域測定 (下肢)			講義の復習と次回の予習			
9. 徒手筋力検査法 (股関節 1) 5/6			講義の復習と次回の予習			
10. 徒手筋力検査法 (股関節 2)			講義の復習と次回の予習			
11. 徒手筋力検査法 (膝関節・足関節・足部) 5/13			講義の復習と次回の予習			
12. 徒手筋力検査法 (足趾・体幹)			講義の復習と次回の予習			
13. 実技試験 5/20			講義の復習と次回の予習			

14. 実技試験, フィードバック		講義の復習と次回の予習			
15. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (上肢) 5/27		講義の復習と次回の予習			
16. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (上肢)		講義の復習と次回の予習			
17. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (上肢) 6/3		講義の復習と次回の予習			
18. 骨指標, 筋の触察と機能の理解 (頸部・体幹)		講義の復習と次回の予習			
19. 関節可動域測定 (上肢) 6/10		講義の復習と次回の予習			
20. 関節可動域測定 (上肢)		講義の復習と次回の予習			
21. 関節可動域測定 (上肢) 6/17		講義の復習と次回の予習			
22. 関節可動域測定 (頸部・体幹)		講義の復習と次回の予習			
23. 徒手筋力検査法 (肩関節) 6/24		講義の復習と次回の予習			
24. 徒手筋力検査法 (肩甲骨・頭頸部)		講義の復習と次回の予習			
25. 徒手筋力検査法 (肘関節・前腕・手関節) 7/1		講義の復習と次回の予習			
26. 徒手筋力検査法 (手指・顔面)		講義の復習と次回の予習			
27. 模擬患者を想定した実践練習 7/8		講義の復習と次回の予習			
28. 模擬患者を想定した実践練習		講義の復習と次回の予習			
29. 実技試験 7/15		講義の復習と次回の予習			
30 実技試験, フィードバック		これまでの講義の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 80%	□レポート 0%	□定期試験 0%	■その他 20 %
	基準等	実技試験			授業態度やグループワーク参加の積極性を吟味する。 実技練習していない、態度が悪い場合は減点する。または授業参加を認めず欠席とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	林典雄	運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画 プラス 上肢 改訂第2版		メジカルビュー社	2022
	林典雄	運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プ ラス 下肢・体幹 改訂第2版		メジカルビュー社	2022
	伊藤俊一	PT・OTのための測定評価シリーズ 1 ROM 測定【第3版】		三輪書店	2023
	伊藤俊一	PT・OTのための測定評価シリーズ 2 形態 測定・感覚検査・反射検査【第2版新装版】		三輪書店	2026
	伊藤俊一	PT・OTのための測定評価シリーズ 3 MMT-頭部・頸部・上肢【第3版】		三輪書店	2023
	伊藤俊一	PT・OTのための測定評価シリーズ 4 MMT-体幹・下肢【第3版】		三輪書店	2023
参考図書	Avers 他	新・徒手筋力検査法 原著第10版		共同医書出版社	2020
履修要件等					
オープンな 教育リソース					
研究室	今井：研究科棟4階 第145研究室 岡：1号館4階 第2研究室 佐伯：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー		毎週月曜日 12:10~13:00 毎週火曜日 12:10~13:00 毎週月曜日 12:10~13:00	

科目No.	SPE05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	理学療法評価学実習		担当教員 E-Mail	金尾 颯郎、久利 彩子、畑中良太、 今井 亮太、理学療法学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマ・ポリシーである「対象児・者の心理的、社会的背景にも配慮が出来でき、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる人」を達成するための科目である。理学療法評価学概論、基本的検査測定法・神経系検査測定法を基にした障害ごとの理学療法検査・測定とその評価について学内外にて、グループワークを中心に少人数教育による実習を行う</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学評価の流れについて理解する</li> <li>2. 少人数の学外実習にて、実際に評価を実習し修得する</li> <li>3. 検査結果を統合と解釈することで障害構造を把握し、治療計画に繋げる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>実習では担当教員の監督のもとグループで1症例を担当し、症例に応じた検査・測定を実施するとともに結果を解釈しまとめるという一連の過程を経験する。学生が主体となってグループ・ディスカッションを実施して毎回の実習計画を立てる。そして安全に配慮しながら計画的に進める。関連施設での実習では実習の手引きの「学生への注意事項」を順守して取り組む。また感染予防対策を実施する。</p>					
遠隔授業の 進め方	<p>遠隔授業は理学療法学専攻2年のTeamsにて対応予定である。SGLにおいては、担当教員ごとのTeamsを新たに作成し対応する。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. 関連施設実習 オリエンテーション			担当予定症例の予備学修をする			
2. 計画書の作成、問診・バイタル、形態測定の練習			問診、バイタル、形態測定の練習をする			
3. 関連施設実習①問診・バイタル、形態測定			関連施設実習での情報を記録する			
4. ①の報告書、②の計画書の作成、ROM測定の練習			報告書と計画書を作成、ROMの練習			
5. 関連施設実習②ROM測定			関連施設実習での情報を記録する			
6. ②の報告書、③の計画書の作成、MMTの練習			報告書と計画書を作成、MMTの練習			
7. 関連施設実習③MMT			関連施設実習での情報を記録する			
8. ③の報告書、④の計画書の作成、その他の検査の練習			報告書と計画書を作成、その他検査の練習			
9. 関連施設実習④その他の検査			関連施設実習での情報を記録する			
10. ③の報告書、発表用レジュメの作成			報告書、発表用レジュメの作成			
11. 発表用レジュメの作成			報告書、発表用レジュメの作成			
12. 発表用レジュメの作成、練習			報告書、発表用レジュメの作成			
13. 3年次実習報告会への参加			実習報告会の復習をする			
14. 関連施設実習 症例報告会			症例報告会で受けた質問を調べる			
15. 関連施設実習 症例報告会			症例報告会で受けた質問を調べる			

成績評価方法	項目	課題・小テスト 20%	レポート 0%	定期試験 0%	その他 80%
	基準等	実習計画書、ケースノート、レジュメ			実習の取組状況や症例報告会での発表等を総合的に判断する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	才藤栄一監修	PTOTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2班 補訂版		金原出版	2020
参考図書					
履修要件等	実習要件2)を満たしていること				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館1階 学部長室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00~13:00		

科目No	SPT02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	物理療法学		担当教員 E-Mail	河村 廣幸		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員(理学療法士)が、その経験を生かして、物理療法に関する知識と手法について講義する。					
授業内容の要約	理学療法の治療手段である物理療法について、その歴史と定義をふまえ、各物理療法手段における生理学的作用・目的・対象・適応・禁忌などを学習し、実際の治療にどのように適応していくことができるのかを総論的に学習する。後期に開講される物理療法学実習では、各論を学び実践する前段階であることを常に意識し、基本的な知識を教授する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理療法の歴史と定義を学習し、理学療法での位置付けを学習する</li> <li>2. 各物理療法手段の物理特性と生理学的作用を理解する</li> <li>3. 各物理療法手段の目的・対象・適応・禁忌などを理解する</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義中心に授業をすすめる。毎回の授業開始時には、前回の復習を目的とした小テストを実施する。また、講義の習熟度を深め、疑問を解決するため随時課題レポートの提出を求める。質問は授業中に積極的にしてほしいが、メールでの問い合わせにも応じる。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、メールで対応する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	45分以上	
1. 物理療法学総論① 物理療法の種類、物理療法の歴史や役割				小テストを実施するため、各授業後には必ず復習をしておくこと		
2. 物理療法の対象となる病態 関節可動域制限のメカニズムと評価						
3. 物理療法の対象となる病態 疼痛のメカニズムと評価						
4. 温熱療法・寒冷療法総論						
5. 電気刺激療法総論						
6. 力学的物理療法総論						
7. 光線療法総論、その他の物理療法						
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■小テスト 10%	■課題レポート 15%	■定期試験 80%	■その他 5%	
	基準等	授業開始時に小テストを実施する。	随時、課題レポートを課する。	筆記試験により総合的な理解度を判定する。	授業態度、授業参加の積極性を総合して評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	庄本康二 他	PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版		羊土社	2023	
参考図書	松澤正 他	物理療法学 改訂第3版		金原出版	2021	
履修要件等	特になし					
オープンな 教育リソース						
研究室			オフィスアワー			

科目No	SPT03-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	物理療法学実習		担当教員 E-Mail	佐伯 純弥・河村 廣幸		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員(理学療法士)が、その経験を生かして、物理療法の基本的な知識と手法、適切な物理療法を適用するためのクリニカルリーズニングについて講義する。					
授業内容の要約	物理療法学で学んだ各種物理療法をさらに深く学び、その使用手順を実践する。物理療法機器の操作と被験者体験を通し、治療場面における対象者への配慮、オリエンテーション、方法の工夫等、実施上の理解を深める。 2年生以降の臨床実習では物理療法を患者様へ適用する機会があるため、常に臨床を意識した実習とする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健常者に対して、正しい手順で各種物理療法を実践することができる</li> <li>2. 各種物理療法の適応、禁忌事項を説明できる</li> <li>3. 臨床場面で遭遇することの多い症状に対して適切な物理療法を選択できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	少人数グループに分かれ、各種物理療法を正しい手順でグループワークの形式で実践する。教科書の手順を熟読しながら物理用法を実践し、毎回の授業後には実施レポートの提出を求める。授業の後半では、実際の症例の問題点を呈示し、解決するために必要な物理療法についてのプレゼンテーションを実施する機会を設ける。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。実技の習得には学生自身の学修が重要であるため、学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 物理療法学の復習、温熱療法各論(ホットパック、パラフィン浴)				小テストの復習、振り返りシートの作成		
2. 温熱療法各論(極超短療法、超音波療法)				小テストの復習、振り返りシートの作成		
3. 寒冷療法と水治療法				小テストの復習、振り返りシートの作成		
4. 光線療法と電気刺激療法				小テストの復習、振り返りシートの作成		
5. 圧迫療法と牽引療法				小テストの復習、振り返りシートの作成		
6. 物理療法ケーススタディ①(運動器疾患に対する物理療法の考え方)、物理療法実習の手順				小テストの復習、振り返りシートの作成		
7. 実習① ホットパック、パラフィン浴				実習①に対するレポート課題		
8. 実習② コールドパック、クリッカー				実習②に対するレポート課題		
9. 実習③ 水治療法、圧迫療法				実習③に対するレポート課題		
10. 実習④ 電気療法(TENSおよびMotor point 検索)				実習④に対するレポート課題		
11. 実習⑤ 牽引療法(腰椎および頸椎)、レーザー療法				実習⑤に対するレポート課題		
12. 実習⑥ 超音波療法、極超短波療法				実習⑥に対するレポート課題		
13. 実習①から実習⑥の総復習②				指定された物理療法の実施手順や実施方法の習熟		
14. 物理療法ケーススタディ②(神経疾患、スポーツ障害)				物理療法適応方法の復習、振り返りシートの作成		
期末課題						
15. 総括及びフィードバック(期末課題の講評・解説)						

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 40%	□定期試験 %	■その他 10%
	基準等	実習内容に基づく課題を課し、課題の内容を評価する。	各レポート、振り返りシートの提出状況と内容を吟味する。		授業態度、実習参加の積極性を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	庄本康治 他	PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法 第2版		羊土社	2023
参考図書	松澤正 他	物理療法学 改訂第3版		金原出版	2021
履修要件等	物理療法学を履修済みであることが望ましい。				
オープンな教育リソース	【活用方法】 前期で学んだ超音波療法の復習，物理療法学実習の予習，実習準備 【URL】 <a href="https://youtu.be/XESDLJmY4q8">https://youtu.be/XESDLJmY4q8</a>				
研究室	佐伯：1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	佐伯：毎週月曜日 12：10～13：00		

科目No.	SPT05-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	日常生活活動学		担当教員 E-Mail	久利 彩子			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	前期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいをもつ患者の日常生活活動に着目した理学療法に15年間携わった経験と専門知識を持つものが、日常生活活動の基礎について、講義する。						
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者様の日常生活活動(ADL)を理解することが必須である。当該授業では、ADLの概念、日常生活活動の評価の考え方と方法、基本動作とセルフケア、生活環境整備、身体活動量、代表的な疾患・障害における日常生活活動について、学習する。理学療法士にとって必要な「ADL」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常生活活動(ADL)の概念や日常生活活動の評価の考え方と方法を述べることができる。</li> <li>日常生活活動における基本動作やセルフケア、代表的な疾患・障害における日常生活活動の概要を述べることができる。</li> <li>生活環境整備や身体活動量について述べることができる。</li> <li>代表的な疾患・障害における日常生活活動について述べることができる。</li> </ol>						
対面授業の 進め方	授業は、基本的に講義形式で行う。						
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション、第1章 日常生活活動の概念				予習:教科書の該当箇所について予習をすること。 復習:教科書の該当箇所について、復習をすること。			
2. 第2章 日常生活活動の評価 日常生活活動評価の概要							
3. 第2章 日常生活活動の評価 BI、FIM							
4. 第3章 基本動作とセルフケア 起居動作、移乗動作、移動動作・歩行							
5. 第3章 基本動作とセルフケア 安全な介助方法、セルフケア、手段的日常生活活動							
6. 第4章 生活環境整備 第5章 身体活動量							
7. 第6章 代表的な疾患・障害における日常生活活動							
定期試験							
8. 総括及びフィードバック							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					筆記試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	臼田滋	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学	メジカルビュー社	2020
参考図書	細田多穂	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版	南江堂	2019
履修要件等				
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第9研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50	

科目No.	SPT06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	日常生活活動学実習		担当教員 E-Mail	久利 彩子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障がい有する患者の日常生活活動に着目した理学療法に15年間携わった経験と専門知識を持つものが、日常生活活動の基礎について、実習指導する。					
授業内容の要約	適切な理学療法を実施するためには、患者さんの日常生活活動(ADL)を理解することが必須である。当該授業では、ADL動作能力維持改善のための介助と練習・指導の実技を行う。さらに、ADLを支援する機器の実物を手に取り、概要を学ぶ。理学療法士にとって必要な「ADL障害へのかかわり」における専門的な知識や基礎的学力を修得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ADL動作練習の基本的な考え方や基本的な練習・指導方法が実施できるようになる。</li> <li>ADLを支援する基本的な機器が説明できるようになる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	授業は、基本的に実習形式で行う。アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッション)の手法を用いる。授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。屋外での実習を予定しているため、天候によっては授業内容の変更を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、streamを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション Active learning-01 必要な歩行スピード計測と動作練習の立案				復習：配布資料と授業中のメモを、ノートにまとめなおすこと。		
2. Active learning-02 起き上がりに必要な身体各部位の最大関節可動域						
3. Active learning-03 段差昇降・またぎ動作に必要な身体各部位の最大関節可動域						
4. ロービジョン体験と動作練習・指導						
5. 車いす						
6. 車いす体験と動作練習・指導						
7. 歩行補助具と動作練習・指導						
8. 福祉用具の適応とその代償機能						
9. 寝返り 動作介助・練習・指導						
10. 起き上がり 動作介助・練習・指導						
11. 起立・着座 動作介助・練習・指導						
12. 移乗動作 介助・練習・指導						
13. 姿勢と基底面圧分布						
14. 疾患別動作練習と指導						
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等			筆記・実技試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業中、介助や練習・指導の実技についての到達度を確認する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	編集 臼田 滋	Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学	MEDICAL VIEW	2020
参考図書	編集 細田多穂	日常生活活動学テキスト	南江堂	2019
履修要件等				
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第9研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:20~12:50	

科目No.	SPT09-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	神経系理学療法学 I		担当教員 E-Mail	畑中 良太・村上 達典		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	2単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、神経系理学療法の基本的な知識と手法、神経系理学療法についての考え方について講義する。					
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。当該科目は専門科目であり、「神経系検査測定法」を基礎とし、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」へ発展させる科目である。脳血管障害の評価や理学療法の基本的学力を身につけ、評価や理学療法の基本的技能を身につけることを目指す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳卒中の病態およびその障害について理解できる</li> <li>2. 脳血管障害の評価、理学療法について基本的な理解ができる</li> <li>3. 脳血管障害の評価、理学療法についての基本的な技能が身につけている</li> </ol>					
対面授業の 進め方	概要を講義形式にて行い、問題演習、実習を行い、模擬症例についてグループワークを行う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせで行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 脳の構造と機能、血管 (11-99)				復習：血管の支配領域について		
2. 脳卒中の原因と病態 (102-120)				復習：脳梗塞、脳出血について		
3. 急性期から開始する脳卒中リハビリテーションの理論とリスク管理 (170-202)				復習：リハビリテーション開始基準について		
4. 筋緊張の評価、関節可動域測定、筋力検査 (238-240)				復習：MASについて		
5. 高次脳機能検査 (256-277) 失認、半側空間無視				復習：半側空間無視の理学療法について		
6. 高次脳機能検査 (256-277) 失語、失行				復習：古典的失行3種類について		
7. 運動機能検査① (230-236) ブルンストロームステージと上田式12段階				復習：BRSTの練習		
8. 運動機能検査② (222-225) SIAS				復習：SIASの練習		
9. バランス検査 (246-247)				復習：FBSの手順		
10. 運動失調の検査 (241-245)				復習：SARAの手順		
11. 動作(歩行)分析 (278-300)				復習：片麻痺歩行の特徴		
12. グループワーク(実技)				復習：実技課題の確認		
13. 実技試験練習				復習：実技課題の確認		
14. 実技試験				復習：試験の振り返り		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	□その他 +α%	
	基準等			授業の内容全般についての理解度を筆記試験(50%)および実技試験(50%)にて評価する	+αで授業態度を評価する	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	酒向正春 他	リハに役立つ脳画像 改訂第2版	メジカルビュー社	2020
	原 寛美 他	脳卒中理学療法の理論と技術 第5版	メジカルビュー社	2025
参考図書	阿部浩明 他	脳卒中片麻痺者に対する 歩行リハビリテーション	メジカルビュー社	2016
	石合純夫	高次脳機能障害学第3版	医歯薬出版	2022
	千野直一 他	実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価-SIASとFIM【基礎編】	金原出版	2012
履修要件等	特になし			
オープンな 教育リソース				
研究室	畑中：研究科棟4階 142 研究室 村上：1号館5階 第3 共同研究室	オフィスアワー	畑中：毎週月曜日 12:10～13:00 村上：毎週火曜日 12:10～13:00	

科目No.	SPT13-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	運動器系理学療法学		担当教員 E-Mail	峰久 京子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	2単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院で理学療法士として23年の臨床経験がある教員がその経験を活かして、運動器系の疾患・障害の概要とその評価・治療について指導する。					
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり、臨床理学療法において頻繁にその対象となる代表的な運動器系の疾患・障害の概要について学習する 代表的な運動器系の疾患・障害を理解し、理学療法の評価・治療について学習する					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な運動器系疾患・障害の概要を説明できる</li> <li>2. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法評価を説明できる</li> <li>3. 代表的な運動器系の疾患・障害に対する理学療法治療を説明できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	教科書を中心とした講義形式で行い、理解の程度を確認するために中間試験を実施する。 事前に教科書を読み、疑問を持って授業に取り組むこと。ワークブックとして使用できるレジュメを配布するため受講しながら課題を完成させ、さらに復習としてノート整理を行ってください。					
遠隔授業の 進め方	Microsoftoffice365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teamsに紐づけられたClass Notebookに授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1. オリエンテーション、総論① 運動器障害理学療法とは・組織修復・治癒過程 (教科書 p2～39)			予習：教科書 p2～39 を読む 復習：ノート整理、運動器障害の基礎的知識、基本的な考え方を学習する。組織修復・治癒過程についてまとめる。			
2. 総論② 骨折・脱臼総論 (教科書 p40～58)			予習：教科書 p40～58 を読む 復習：ノート整理、骨折、脱臼の定義、分類、症状、治療についてまとめる。			
3. 各論① 上肢の骨折：疾患の概要・評価と治療 (教科書 p60～103)			予習：教科書 p60～103 を読む 復習：ノート整理、上肢骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
4. 各論② 大腿骨骨折 (1)：大腿骨近位部骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p104～166)			予習：教科書 p104～166 を読む 復習：ノート整理、大腿骨近位部骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
5. 各論③ 大腿骨骨折 (2)：大腿骨骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p104～166)			予習：教科書 p104～166 を読む 復習：ノート整理、大腿骨骨折の概要、評価、治療についてまとめる。			
6. 各論④ 膝・下腿骨骨折：膝・下腿骨折の概要・理学療法評価と治療 (教科書 p168～189)			予習：p168～189 を読む 復習：ノート整理、膝・下腿骨骨折の概要・評価と治療についてまとめる。			
7. 中間試験 総論③ 変形性関節症総論 (教科書 p190～204, p 240～253)			予習：教科書 p190～204, p 240～253 を読む 復習：ノート整理、変形性関節症の定義、分類、症状、治療についてまとめる。			
8. 各論⑤ 変形性股関節症：疾患の概要、保存療法と観血的療法、理学療法評価と治療 (教科書 p190～239)			予習：p190～239 を読む 復習：ノート整理、変形性股関節症の概要、評価、治療についてまとめる。			

9. 各論⑥ 変形性膝関節症：疾患の概要、保存療法と観血的療法、理学療法評価と治療（教科書 p240～275）		予習：教科書 p240～275 を読む 復習：ノート整理、変形性膝関節症の概要、評価、治療についてまとめる。			
10. 各論⑦ 肩関節疾患①肩関節周囲炎：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p276～311）		予習：教科書 p276～311 を読む 復習：ノート整理、肩関節周囲炎の概要、評価、治療についてまとめる			
11. 各論⑧ 肩関節疾患②.肩板断裂・非外傷性不安定症：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p312～369）		予習：教科書 p312～369 を読む 復習：ノート整理、腱板断裂・非外傷性不安定症の概要、評価、治療についてまとめる。			
12. 各論⑨ 腰部・脊椎疾患：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p370～437）		予習：教科書 p370～437 を読む 復習：ノート整理、腰部・脊椎疾患の概要、評価、治療についてまとめる。			
13. 各論⑩ 膝靭帯・半月板損傷：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p438～469）		予習：教科書 p438～469 を読む 復習：ノート整理、膝靭帯・半月板損傷の概要、評価、治療についてまとめる。			
14. 各論⑪ 関節リウマチ：疾患の概要、理学療法評価と治療（教科書 p542～575）		予習：教科書 p542～575 を読む 復習：ノート整理、関節リウマチの概要、評価、治療についてまとめる。			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 10 %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 80 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 10 %
	基準等	授業内に中間テストを実施し、授業内容についての理解度を評価する。		定期試験（全範囲）を実施し、授業の内容全般についての理解度を評価する。	学習を進めるノート（配布レジュメを含んでよい）を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	加藤 浩 編集	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学		メジカルビュー社	2020
参考図書	島田洋一、高橋仁美 編	「整形外科 術後理学療法プログラム」 第3版		メジカルビュー社	2020
	細田 多穂 監修	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト		南江堂	2021
履修要件等	「運動療法学総論」「運動療法学実習」「機能運動学」「機能運動学実習」が履修済であることが望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第7研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10～12:50	

科目No.	SPT15-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	内部障害理学療法学		担当教員 E-Mail	村上 達典・金尾 顕郎		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床実務経験が12年あり、3学会合同呼吸療法認定士の資格を有する教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	本講座は内部障害に対する理学療法について学習する。 本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。 また、疾患を問わず高齢患者のリハビリテーションにおいてリスク管理を行う上で必要な内容である。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性呼吸器疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる</li> <li>虚血性心疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる</li> <li>代謝系疾患に対する理学療法について基本的な説明をすることができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義を中心に行う。呼吸器疾患の理学療法のポイントについてグループワークで協議し、学生による発表と質疑応答を行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業は対面授業同様にパワーポイントにて、教科書に沿った解説を行い、パワーポイントの配布物の空欄部分に重要な事項を記載する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 内部障害系理学療法学総論			循環器疾患、呼吸器疾患、代謝・内分泌疾患の特徴についてまとめる			
2. 呼吸器疾患の病態			呼吸器疾患の病態、分類、代表的な疾患についてまとめる			
3. 呼吸器疾患の検査データの見方			スパイロメーター、血ガスと酸素飽和度、胸部X線とCT、その他検査についてまとめる			
4. 呼吸器疾患の評価			問診、視診・触診、打診、聴診、筋力、歩行試験、運動負荷試験、ADL、心理・QOLの評価についてまとめる			
5. 呼吸器疾患への理学療法プログラム			コンディショニング、呼吸練習、呼吸助法、胸郭可動域改善、排痰法、その他手技、喀痰の喀出についてまとめる			
6. 運動療法・ADL指導・包括的呼吸リハビリテーション			運動療法・ADL指導・包括的呼吸リハビリテーションについてまとめる			
7. 循環器疾患の症候学と病態整理			心臓の形態と機能、心不全、虚血性心疾患についてまとめる			
8. 心筋梗塞・狭心症・心不全の診断学・治療学			心筋梗塞・狭心症・心不全の診断や治療についてまとめる			
9. 循環器疾患の評価			循環器疾患の評価についてまとめる			
10. 循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム(急性期)			虚血性心疾患、心不全、心臓外科手術後の理学療法についてまとめる			
11. 循環器疾患急性期以降の運動療法・ADL指導			循環器疾患の運動療法、ADL指導についてまとめる			

12. 運動負荷試験		運動のエネルギー代謝・エネルギー消費量の計算、呼吸循環器疾患の運動負荷試験についてまとめる							
13. 糖尿病		糖尿病の検査と診断、治療、合併症、理学療法についてまとめる							
14. 呼吸・循環・代謝疾患のリスク管理		呼吸・循環・代謝疾患のリスク管理についてまとめる							
定期試験（期末レポート）									
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		定期試験の振り返りを行う							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	0%	☑定期試験	80%	☑その他	20%
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する。		グループワークの貢献度、発表内容、発表に対する質問を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	居村 茂幸他	ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 第3版			羊土社	2024			
参考図書	鶴田 ひかる 他	病気がみえる vol.2 循環器			MEDIC MEDIA	2021			
	森野 勝太郎 他	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌			MEDIC MEDIA	2019			
	巽 浩一郎 他	病気がみえる vol.4 呼吸器			MEDIC MEDIA	2025			
履修要件等	2年後期までの解剖学・生理学・内科学が履修済みであることが望ましい								
オープンな教育リソース	【活用方法】事前学習と復習 【内部障害理学療法学_演習問題】PDFデータをHPにて掲載								
研究室	村上：1号館5階 第3共同研究室 金尾：1号館1階 理学療法学専攻長室	オフィスアワー		村上：毎週火曜日 12：10～13：00 金尾：毎週月曜日 12：10～13：00					

科目No	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ		担当教員 E-Mail	久利 彩子・今井 亮太・畑中 良太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障がいをもつ患者の理学療法に携わった15年間の経験と専門知識を持つものが、理学療法の基礎について、演習を通じて指導する。					
授業内容の要約	臨床検査・測定実習に向けて、事務手続きを行うとともに、理学療法士に必要な知識、臨床的思考を深め、検査測定のための知識・技術を再学習し、理学療法士としての素地を作る。学生生活に関する情報共有の場としても活用する。					
学修目標 到達目標	1. 臨床検査・測定実習の基盤となる知識、技術を身につける 2. 臨床検査・測定実習の事務手続きを確実に実行する					
対面授業の 進め方	基本的に授業は演習形式で行う。PCを用いた授業も行う。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams、forms、stream、Zoomを用いる予定である。課題は随時配信する。					
授業計画(予定)					授業時間 外に必要な 学修	30分 以上
1. オリエンテーション(シラバス説明)、実習アンケート、ワクチン接種アンケート、面談、他					授業で実施した内容を振り返り、知識技術を補うこと。実習事務手続きは、責任を持って確実に実施すること。	
2. 夏休み宿題(ROM,MMT、血圧測定、形態測定)テスト 面談、他						
3. 臨床検査・測定実習説明① 概要説明(1年次配布済みの実習手引き、PT専攻実習てびき、実習ポートフォリオ持参)、他						
4. 臨床検査・測定実習説明② 概要説明(Teams・デスク内資料、他)						
5. 解剖実習見学 倫理講習						
6. 解剖実習見学						
7. 臨床検査・測定実習説明③ 実習配置発表・感染対策・学生紹介書、他						
8. 臨床検査・測定実習説明④ デイリーノート・ケースノート、他						
9. 臨床検査・測定実習説明⑤ 誓約書、学生紹介書、実習前報告、他						
10. 臨床検査・測定実習説明⑥ レジューメとPDF化とアップロード方法、他						
11. 臨床検査・測定実習説明⑦ 実習前筆記試験、他						
12. 臨床検査・測定実習説明⑧ 実習前実技試験、他						
13. 臨床検査・測定実習説明⑨ 3・2年合同HR						
14. 臨床検査・測定実習説明⑩ 施設資料と連絡応答マナー、成果物資料説明						
15. 臨床検査・測定実習説明⑪ 実習前最終ガイダンス						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	☑ 定期試験・その他 100%		
	基準等	夏休み課題テスト、各種提出物、実習前試験・等で評価する。				

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
			実習のてびき	
参考図書	野村 巖、編	「標準理学・作業療法学 解剖学第4版」	医学書院	
	潮見泰蔵、他	「リハビリテーション基礎評価学」	羊土社	
	Hislop ら	「新徒手筋力検査法 原著第9版」	協同医書	
履修要件等	臨床検査・測定実習に参加見込みであること アンケート記入や記述練習はノートPCを用いて実施する。ノートPCを必要とする授業回においては、PC再起動やアップデートなどによる参加困難は授業欠席となる。			
オープンな教育リソース				
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目No.	SCP05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床検査・測定実習		担当教員 E-Mail	金尾 颯郎・久利彩子・今井亮太・畑中良太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	3単位	後期 (135h) 3週間
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として15年間の実務経験のある教員と実習指導者が指導にあたる。					
授業内容の要約	診療参加型臨床実習をとおして、理学療法士の業務内容、役割、位置づけ、社会的責任等の理解を深める。さらに、臨床場面において検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な技術を経験し、症例に応じた検査・測定の適応や方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 理学療法における検査・測定の意義および目的を理解し、基本的な検査・測定（手順や方法）を実施することができる。 2. 検査・測定結果と障害との関連性を国際機能分類に準じてまとめ、その内容を説明できる。					
対面授業の 進め方	実地体験学習。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。					
遠隔授業の 進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分程度
実習前評価として、筆記試験と実技試験を行う。 3週にわたり医療提供施設等で検査・測定実習を行う。 実習後評価として、筆記試験およびレジュメ発表会を行う。				毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。 実習報告会用のレジュメを A4 用紙 2 枚にまとめる。 不十分な基礎知識を自己学習する。		
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 10%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 90%	
	基準等	筆記試験（実習後評価分）			実習前・中・後の取り組み・臨床実習成果記録・レジュメ発表を総合的に評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
		「臨床実習の手引き」				
		「臨床実習の手引き 理学療法学専攻版」				
参考図書	特に指定しない					
履修要件等	① 実習要件 2) を満たしていること ② 該当年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価）が合格水準に達すること					
オープンな 教育リソース						
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SBO05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	応用作業分析学実習		担当教員 E-Mail	武井 麻喜・白岩 圭悟		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員を中心に、その経験を活かして、作業分析の基本的な知識と手法について指導する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、2年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための根幹となる科目である。</p> <p>基礎作業分析学で学んだ知識を基にして、作業療法の臨床現場で用いられている作業活動を取り挙げて、実際の活動を通してその特性について実習し、分析し考察する。その作業による身体的、精神的な効果についても考察する。また、「生活行為向上マネジメント」手法のうち、アセスメントに関し学生間で実践していく。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業分析の臨床的な意義について理解し説明ができる</li> <li>2. 適切な手順にしたがって作業分析ができる</li> <li>3. 作業分析から作業の特徴を捉え、作業の治療的応用について考察することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義後に作業活動実習と分析、グループ討論、発表を行う。 「楽しく真剣に」取り組むこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 作業分析とは、作業工程分析、基礎項目分析 講義・実習 ぬり絵						
2. 作業分析の実際（作業工程分析・基礎項目分析）実習・分析 ぬり絵			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
3. 作業分析の実際（運動機能の分析）講義・実習 折り紙			復習：運動機能の分析項目について			
4. 作業分析の実際（運動機能の分析）実習・分析 折り紙			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
5. 作業分析の実際（感覚知覚認知機能分析）講義・実習 切り絵			復習：感覚知覚認知機能の分析項目について			
6. 作業分析の実際（感覚知覚認知機能分析）実習・分析 切り絵			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
7. 作業分析の実際（作業過程・作品の分析）講義・実習 貼り絵			復習：作業過程・作品の分析項目について			
8. 作業分析の実際（作業過程・作品の分析）実習・分析 貼り絵			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
9. 作業分析の実際（コミュニケーション分析）（リスクの分析）講義・実習 散歩			復習：コミュニケーション・リスクの分析項目について			
10. 作業分析の実際（コミュニケーション分析）（リスクの分析）実習・分析 散歩			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
11. 作業分析の実際（包括的作業分析）実習 カラオケ・UNO・オセロ			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			
12. 作業分析の実際（包括的作業分析）分析 カラオケ・UNO・オセロ			グループ討論をもとに講義、実習内容・分析結果をレポートにまとめること			

13. 生活行為マネジメント (アセスメント) 講義・事例検討 課題分析シート		アセスメントについて、課題分析シートについての復習と事例検討の復習			
14. 生活行為マネジメント (アセスメント) 事例検討 アセスメント演習シート		アセスメント演習シートについての復習と事例検討の復習			
15. 生活行為マネジメント (アセスメント) 事例検討 アセスメント演習シート 合意目標		合意目標についての復習と事例検討の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 90%	□定期試験 %	■その他 10%
	基準等		毎回レポートを課し評価する。		授業に臨む姿勢、グループ討論の参加態度を総合的に判断する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根寛	ひとと作業・作業活動 新版		三輪書店	2015
参考図書	浅沼辰志	作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学 第3版		メジカルビュー社	2021
	東登志夫	シンプル作業療法学シリーズ 基礎作業学テキスト		南江堂	2025
	日本作業療法士協会	作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版		日本作業療法士協会	2022
	日本作業療法士協会	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版		医歯薬出版	2021
履修要件等	「基礎作業学」「基礎作業分析学実習」を履修済であることが望ましい。				
オープンな教育リソース	活用方法 作業分析と治療への応用を考える、レポート作成時のヒント 動画内容 タイルモザイクにおける段階付け 教育リソース (動画) 段階付けのオンデマンド学習 <a href="https://youtu.be/7IYdbZKISX8">https://youtu.be/7IYdbZKISX8</a>				
研究室	武井：1号館5階 第18研究室 白岩：1号館5階 第13研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日 12：10～13：00 白岩：毎週火曜日 12：10～13：00		

科目No.	SOE02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	作業療法評価学Ⅱ(含演習)		担当教員 E-Mail	嶋野 広一・上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	20年以上の臨床経験(病院・施設)の教員が、その経験より、検査測定技術の手法を指導する。					
授業内容の要約	<p>ディプロマポリシーの「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するために修得する科目である。また、教育課程における専門科目で、2年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための科目である。</p> <p>身体障害作業療法の臨床現場で実践されている種々の検査のうち、徒手筋力検査法(MMT)、感覚検査、姿勢反射バランス検査等の作業療法評価における基本的な検査・測定技術について学修する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床現場で実践されている作業療法の検査・測定の目的・意義・実施方法などが理解できる</li> <li>2. 健常者を対象に各種検査・測定が実施できる</li> <li>3. 臨床実習で対象者と接する前段階において、実習生としての知識、技術、態度を修得する</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>実技を中心に行う。2年次の「臨床検査・測定実習」の礎となる学修内容なので、意欲的に取り組むこと。</p> <p>身軽な服装(学校指定のジャージ上下・Tシャツ・タンクトップ・短パンなど)で実技に臨むこと。</p>					
遠隔授業の 進め方						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. ガイダンス 筋力検査:目的・意義について MMT1:評価基準に準じた項目 肘関節:屈曲・伸展(目でみる MMT pp99~pp105)【嶋野・上島】				予習:教科書(目でみる MMT) pp99~pp105 を事前に読んでおくこと		
2. MMT1:評価基準に準じた項目 肩甲骨:上方回旋・下方回旋 肩関節:屈曲・伸展(目でみる MMT pp45~pp48, pp61~pp63, pp67~pp73)【嶋野・上島】				予習:教科書(目でみる MMT) pp45~48, pp61~pp63, pp67~pp73 を事前に読んでおくこと		
3. MMT2:評価基準に準じた項目 肩関節:外転・外旋・内旋(目でみる MMT pp79~pp98) 【嶋野・上島】				予習:教科書(目でみる MMT) pp79~pp98 を事前に読んでおくこと		
4. MMT3:評価基準に準じた項目 前腕:回外・回内 手関節:屈曲・伸展(目でみる MMT pp107~pp121) 【嶋野・上島】				予習:教科書(目でみる MMT) pp107~pp121 を事前に読んでおくこと		
5. MMT4:評価基準に準じた項目 手指:屈曲・伸展(目でみる MMT pp123~pp137)【嶋野・上島】				予習:教科書(目でみる MMT) pp123~pp137 を事前に読んでおくこと		
6. MMT5:評価基準に準じた項目 股関節:屈曲・伸展・外転・内転(目でみる MMT pp139~pp167) 【嶋野・上島】				予習:教科書(目でみる MMT) pp139~pp167 を事前に読んでおくこと		

7. MMT6：評価基準に準じた項目 股関節：外旋・内旋 膝関節：屈曲・伸展(目でみる MMT pp169～pp183) 【嶋野・上島】		予習：教科書(目でみる MMT) pp169～pp183 を事前に読んでおくこと			
8. MMT7：評価基準に準じた項目 足関節：底屈・背屈 頭部：伸展 頸部：伸展(目でみる MMT pp187 ～pp199、pp1～pp9) 【嶋野・上島】		予習：教科書(目でみる MMT) pp187～pp199、 pp1～pp9 を事前に読んでおくこと			
9. MMT8：評価基準に準じた項目 頭部：屈曲 頸部：屈曲 頸部：回旋 体幹：伸展・屈曲・回旋(目でみる MMT pp10～pp 25、 pp27～pp43) 【嶋野・上島】		予習：教科書(目でみる MMT) pp10～pp 25、 pp27～pp43 を事前に読んでおくこと			
10. 感覚検査：目的・意義について 評価学Ⅱ章 6. 感覚・知覚検査 温痛覚、圧覚、振動覚 運動覚 位置覚 pp111～pp123 【上島・嶋野】		予習：教科書(作業療法評価学) pp111～pp123 を事前に読んでおくこと			
11. 感覚検査：脊髄損傷の感覚検査(ASIA) 評価学Ⅲ章 3. 脊髄損傷の評価 pp287～pp301		予習：教科書(作業療法評価学) pp287～pp301 を事前に読んでおくこと			
12. 姿勢反射検査・バランス機能検査：目的・意義について 評価学Ⅱ章 9. 姿勢反射検査・バランス機能検査 pp287～pp301		予習：教科書(作業療法評価学) pp287～pp301 を事前に読んでおくこと			
13. プレテスト1(出題のポイントと復習)1					
14. プレテスト2(出題のポイントと復習)2					
15. 授業の総括					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等			定期試験は実技試験 を実施する。詳細な 評価基準は授業内で 知らせる。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	能登真一 他	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版		医学書院	2024
	佐藤三矢 監修	新版 目で見る MMT		医歯薬出版	2015
参考図書					
履修要件等	「解剖学」「生理学」「運動学」「作業療法評価学Ⅰ」を履修していることが望ましい。				
オープンな 教育リソース					
研究室	上島：1号館5階 第14研究室 嶋野：1号館2階 第24研究室	オフィスアワー	上島：毎週木曜日 14：40～16：10 嶋野：毎週火曜日 10：40～12：10		

科目No.	SOE03-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	作業療法評価学実習		担当教員 E-Mail	水野 貴子・上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	「臨床検査・測定実習」が実施される前段階として、関連施設におけるプレ実習を実施する。実習に向けた準備や、関連施設でのプレ実習に対する指導は、各関連施設に該当する領域での作業療法に実務経験のある教員がその経験を活かして実施する。					
授業内容の要約	関連施設において、教員による引率および指導の下で、身体障害分野、精神障害分野、高齢期障害分野で共通して必要な作業療法評価(検査・測定を含む)に関する実習を行う。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる</li> <li>2. カルテなどからの情報収集を、作業療法評価に活かすことができる</li> <li>3. 作業療法士として必要な評価技術を体験し、臨床での実践に応用する力を培うことができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	実習にふさわしい身だしなみで臨み、施設側から指示されたケーシーやジャージ、実習靴を着用すること。臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため、医療従事者として責任感のある行動・態度に気を配ること。					
遠隔授業の 進め方	<p>Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行うこともある。学内指導での課題配信(症例の評価から治療計画の立案)の提示については、各担当教員からの連絡や指示があるので、メールを確認しておくこと。</p> <p>出席確認は通信開始時に行う。通信に不備があった場合や質疑応答が必要な場合は、速やかに実習担当教員等にメール等で申し出ること。</p>					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 学内指導 1			情報収集およびインテーク面接を実施するための予備知識を復習しておく。			
2. 学内指導 2						
3. 関連施設にて評価実習および指導 1			実習地での情報収集を円滑に行うための準備をしておく。			
4. 関連施設にて評価実習および指導 1						
5. 関連施設にて評価実習および指導 2			実習地でのインテーク面接を円滑に実施するための練習をしておく。			
6. 関連施設にて評価実習および指導 2						
7. 学内指導 (FB) 3			情報収集およびインテーク面接を基に、スクリーニング評価や観察評価などの評価計画を立案する。			
8. 学内指導 (FB) 4						
9. 関連施設にて評価実習および指導 3			実習地にて心身機能スクリーニング評価を行うための練習や、観察評価の準備のための計画を立案する。			
10. 関連施設にて評価実習および指導 3						
11. 関連施設にて評価実習および指導 4			観察評価の計画および、リスク管理のための計画を実施する。			
12. 関連施設にて評価実習および指導 4						
13. 学内指導 (FB) 5			さらに必要な観察評価の計画および、問題点の原因を特定するための心身機能評価を計画する。			
14. 学内指導 (FB) 6						
15. 関連施設にて評価実習および指導 5			実習地にて心身機能評価を行うための練習や、リスク管理のための計画を実施する。また、事例報告のためのレジュメ作成を進める。			
16. 関連施設にて評価実習および指導 5						
17. 関連施設にて評価実習および指導 6						
18. 関連施設にて評価実習および指導 6						
19. 学内指導 (FB) 7			事例報告のためのレジュメ作成を進める。			
20. 学内指導 (FB) 8						
21. 症例報告会						

22. 症例報告会				
23. 総括及びフィードバック（評価学実習全般の総括）				
成績 評価方法	項目	■ 作業療法評価学実習評定(職業人としての適性、記録・報告、評価) 77%	■ 症例報告会、その他 23 %	
	基準等	関連施設でのプレ実習（実習に向けた準備や練習、実習での評価技術、実習態度など）、実習ノートおよび、事例報告のレジユメの提出状況や内容で評価する。	症例報告会、発表の準備状況等を作業療法評価学実習評定に基づいて評価する。	
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	能登 真一 他	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」	医学書院	2024
参考図書	吉川 ひろみ 他	作業療法の話をしよう	医学書院	2019
	齋藤 佑樹 他	作業で語る事例報告 第2版	医学書院	2022
履修要件等	専門基礎科目系、基礎作業療法学系、作業療法評価学系の各科目を履修済みであることが望ましい			
オープンな 教育リソース				
研究室	各実習担当教員研究室	オフィスアワー	各実習担当教員オフィスアワー参照	

科目No.	SOE04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	身体機能作業療法評価学		担当教員 E-Mail	上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害領域で勤務経験のある教員がその経験を生かして、身体障害での作業療法評価についての講義を行う。					
授業内容の要約	身体障害領域に関わることの多い疾患(中枢神経患、末梢神経疾患、整形外科疾患)や障害像を理解し、それぞれの作業療法評価で行われる内容を学ぶ。臨床実習において、各障害に応じて適切な評価技法(検査・測定など)を選択することができるようになる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体障害系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる</li> <li>2. 対象者を考慮した評価を進めることができる</li> <li>3. 疾患によって適切な評価技法を選択することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>講義形式で実施する。授業は復習しながら進めていくが、各自でも復習すること。また1年次の専門基礎分野(解剖学、生理学、一般臨床医学)も復習しておくこと。講義においては以下の点に注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、映像等を用いる。</li> <li>・講義資料を綴り込むファイル(2つ穴、厚さ3cm程度)を準備すること。講義欠席時は、担当教員の研究室入口に資料を置くので、講義終了から翌週の講義までに、自ら取りに来ること。</li> <li>・基本的な内容を中心に講義を進め、必要に応じてプリントを配布、映像等も用いる</li> <li>・授業を遅刻や欠席をする場合は欠席連絡フォームを用いて講義開始までに連絡を行い、翌週までに担当教員まで配付資料を受け取る</li> <li>・授業に関連するルール(出欠・成績等)は、初講日に説明するので遵守すること。</li> </ul>					
遠隔授業の 進め方	Covid-19等の感染蔓延時で対面授業が困難な時は、Microsoft office365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う(Microsoft office365のteamsを使用し、授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせで行う)。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ガイダンス、身体障害における作業療法、治療学総論(教科書 p2-17)			復習：指定教科書の確認			
2. 頸椎症性脊髄症(教科書 p157～)、手の骨折(教科書 p169-)			復習：指定教科書の確認			
3. 関節リウマチ(教科書 p374-)、パーキンソン病(教科書 p412-)			復習：指定教科書の確認			
4. 脊髄小脳変性症(教科書 p435-)、廃用症候群・大腿骨頸部骨折(教科書 p525-)			復習：指定教科書の確認			
5. 脳血管障害(教科書 p82-98)			復習：指定教科書の確認			
6. 頭部外傷、TBI、(教科書 p115-132)			復習：指定教科書の確認			
7. 脊髄損傷(頸髄損傷、教科書 p134-149)			復習：指定教科書の確認			
定期試験(筆記試験)						
8. 総括及びフィードバック(試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%	■レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 10%	
	基準等	なし	なし	定期試験にて講義の理解度を評価する。	授業態度：受講の積極性や理解度等を総合的に判断する	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	長崎重信監修	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学（第3版）[Web 動画付き]	メジカルビュー社	2023
参考図書	能登真一 他	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	医学書院	2024
履修要件等	特になし。			
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館 1F 作業療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週木曜日 14:40～16:10	

科目No.	SOE05-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	身体機能作業療法評価学演習		担当教員 E-Mail	水野 貴子・武井 麻喜		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員が、その経験を活かして、検査・測定技術の実習を指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、2年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための中心となる科目である。 中枢神経疾患により生じる身体機能障害を対象として、片麻痺を代表的なモデルとし、臨床現場で用いられている評価・測定技術を、演習を通じて学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経障害による身体機能障害に対する代表的な検査・測定の目的・意義・実施方法などが理解できる</li> <li>2. 健常者を対象に各種検査・測定が実施できる</li> <li>3. 臨床実習で対象者と接する前段階において、実習生としての知識、技術、態度を修得する</li> </ol>					
対面授業の 進め方	予習に基づく実技を中心に行う。2年次年度末の「臨床検査・測定実習」に直結する内容なので、積極的に取り組むこと。実技は肩や肘が出せるようなシャツ、膝が出せるような下衣（ジーンズ・スカート不可）で参加のこと。各自配布された検査器具を必要に応じて持参すること。感染対策として、手指やベッド消毒などを行うこと。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. ガイダンス、片麻痺機能評価1（BRS、片麻痺機能テスト①） ：上肢 <評価学 pp257～260> 【武井・水野】			予習：教科書（評価学）pp257～260を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
2. 片麻痺機能評価2（BRS、片麻痺機能テスト②）：上下肢 <評価学 pp259～261> 【武井・水野】			予習：教科書（評価学）pp259～261を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
3. 片麻痺機能評価3（BRS、片麻痺機能テスト③）：下肢 <評価学 pp259、261> 【武井・水野】			予習：教科書（評価学）pp259、261を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
4. 片麻痺機能評価4（BRS、片麻痺機能テスト④）：手指 <評価学 pp259、262> 【武井・水野】			予習：教科書（評価学）pp259、262を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
5. 片麻痺機能評価5（BRS、片麻痺機能テスト⑤）：総復習 <評価学 pp259～261> 【武井・水野】			予習：教科書（評価学）pp259～261を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
6. 感覚・知覚検査 <評価学 pp111～123、ベッドサイド pp93～103> 【水野・武井】			予習：教科書（評価学）pp111～123、教科書（ベッドサイド）pp93～103を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			
7. 反射検査 <評価学 pp133～140、ベッドサイド pp65～91> 【武井・水野】			予習：教科書（評価学）pp133～140、教科書（ベッドサイド）pp65～91を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること			

8. 筋緊張検査 <評価学 pp124～132、ベッドサイド pp35～38> 【水野・武井】		予習：(評価学) pp124～132、教科書(ベッドサイド) pp35～38 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
9. 協調性検査 <評価学 pp154～161、ベッドサイド pp143～150> 【水野・武井】		予習：教科書(評価学) pp154～161、教科書(ベッドサイド) pp143～150 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
10. 意識の評価、脳神経検査<評価学 pp50～53、162～168、ベッドサイド pp197～235、277～281> 【水野・武井】		予習：教科書(評価学) pp50～53、162～168、教科書(ベッドサイド) pp197～235、277～281 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
11. 片麻痺機能評価 6 (FMA) <評価学 pp257、263～264> 【武井・水野】		予習：教科書(評価学) pp257、263～264 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
12. 片麻痺機能評価 7 (SIAS) <評価学 pp257、264～265> 【水野・武井】		予習：教科書(評価学) pp257、264～265 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
13. 上肢機能検査 <評価学 pp188～194> 【水野・武井】		予習：教科書(評価学) pp188～194 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること						
14. 期末テストについて、総復習 【水野・武井】								
定期試験 (実技試験)								
15. 総括及びフィードバック (実技試験結果の発表と解説)								
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他	%
	基準等					定期試験は実技試験を実施する。詳細な評価基準は授業内で知らせる。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年		
	能登真一 他	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」			医学書院	2024		
	田崎義昭 他	「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」			南山堂	2016		
履修要件等	「解剖学」「生理学」「運動学」「作業療法評価学Ⅰ・Ⅱ(含演習)」を履修していることが望ましい。							
オープンな教育リソース	活用方法 片麻痺機能テスト・反射検査・感覚検査・筋緊張検査における測定の一連の流れを知る、実技テストのポイント 動画内容 片麻痺機能テスト・反射検査・感覚検査・筋緊張検査における、測定導入(挨拶・説明)―測定―終了(挨拶・報告)まで 教育リソース(動画) 片麻痺機能テスト・反射検査・感覚検査・筋緊張検査のオンデマンド学習 <a href="https://youtu.be/H0suKSHJ1uQ">https://youtu.be/H0suKSHJ1uQ</a> <a href="https://youtu.be/-IuwMNB-N_k">https://youtu.be/-IuwMNB-N_k</a>							
研究室	水野：1号館4階 第5研究室 武井：1号館5階 第18研究室			オフィスアワー	水野：毎週水曜日 12:10～12:50 武井：毎週月曜日 12:10～13:00			

科目No.	SOE06-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	高次脳機能評価学(含演習)		担当教員 E-Mail	水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設で23年の臨床経験のある教員がその経験を活かして、高次脳機能障害の症状と評価技法を講義し、対象者への対応について指導する。					
授業内容の要約	<p>本学のディプロマ・ポリシーである「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、2年次のカリキュラム・ポリシーを達成するために必要な科目である。</p> <p>脳損傷によって障害されるのは運動や感覚だけではない。記憶や言語、物や空間の認知、目的を持った行動等の高次脳機能も障害され、日常生活に大きな支障をきたす。本講義では、様々な高次脳機能障害について学修し、講義と検査実施と症例を通して、高次脳機能の評価の目的を理解し、日常生活の症状について推測できるようにする。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳機能障害について具体的特徴を挙げながら説明でき、日常生活を推測できる</li> <li>2. 評価の目的を理解し、妥当性のある検査を選択できる</li> <li>3. 検査を適切に実施して結果を解釈でき、呈した日常生活の症状について説明することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<p>講義(講義資料を随時配布、パワーポイント使用)</p> <p>アクティブラーニング(机上検査の実施、映像による症例検討)</p> <p>解剖学(脳)を復習しておくこと。</p>					
遠隔授業の 進め方	講義ではMicrosoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 高次脳機能障害総論(脳の構造など) (教科書 pp3-5、10-11、27-31、31-37)				復習: 高次脳機能障害の病巣部位を覚える		
2. 注意障害の症状とその評価1【TMT-Jの実施】(教科書 pp47-52)				復習: 注意障害とTMT-Jの実施方法を覚える		
3. 注意障害の症状とその評価2 【かなひろいテストの実施、症例検討】				復習: かなひろいテストの実施方法を覚え、症例を通した評価方法を考える		
4. 半側空間無視などの症状とその評価1(教科書 pp112-121)				復習: 半側空間無視の症状を覚える		
5. 半側空間無視などの症状とその評価2【BITの実施】				復習: BITの実施方法を覚える		
6. 半側空間無視などの症状とその評価3【症例検討】				復習: 症例を通した評価方法を考える		
7. 記憶障害の概念と評価1(教科書 pp56-62)				復習: 記憶の概念と記憶障害を覚える		
8. 記憶障害の概念と評価2【三宅式記銘力検査の実施】				復習: 三宅式記銘力検査の実施方法を覚える		
9. 失語症のタイプと症状(教科書 pp68-78)				復習: 失語症の症状を覚える		
10. 失行の症状とその評価(教科書 pp81-90)				復習: 失行の症状と評価を覚える		
11. 失認の症状とその評価(教科書 pp97-106)				復習: 失認の症状と評価を覚える		
12. 前頭葉機能障害とその評価(教科書 pp128-136、142-148)				復習: 前頭葉機能障害と評価を覚える		
13. 自動車運転再開に向けた評価(教科書 pp293-301)				復習: 自動車運転に関する評価を覚える		
14. 脳CT・MRI画像の見方(教科書 pp15-23)				復習: 脳CT・MRI画像の見方を覚える		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)				復習: 高次脳機能の評価の流れを覚える		

成績評価方法	項目	■ 小テスト 10%	■ 定期試験 90%		
	基準等	復習のための小テスト（14回）を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。	授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行
	能登 真一	標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 第3版		医学書院	2025
参考図書	石合 純夫	高次脳機能障害学 第3版		医歯薬出版	2022
	藤田 郁代 他	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版		医学書院	2021
	本田 哲三	高次脳機能障害のリハビリテーション 実践的アプローチ 第3版		医学書院	2016
	渕 雅子	作業療法学全書 改訂第3版 第8巻 作業療法学5 高次脳機能障害		協同医書出版	2011
履修要件等	「形態・機能学解剖領域Ⅰ・Ⅱ」が履修済であることが望ましい。				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館4階 第5研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~12:50		

科目No.	SOE08-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	精神機能作業療法評価学実習		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	医療機関での14年の臨床勤務経験のある教員がその経験を活かして、精神障害者を支援するために必要な評価方法について、実践的な視点を中心に指導する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識及び技能を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者を対象とした作業療法評価の基本的なプロセスを理解し、説明することができる</li> <li>2. 対象となる人や疾患と障害、及び環境や目的に応じて適切な評価方法を選択できる</li> <li>3. 評価した結果について、第三者に適切に説明することができる</li> <li>4. 自己を客観的に理解し、医療従事者として望ましい態度をとることができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	教科書および配布資料を用いて講義および実習を行う。実習では検査者および被験者を体験し、意見交換することで自己を客観的に知る機会とする。また小グループで、症例を用いたアクティブラーニングを行い、適切な評価方法・手段の選択や実施、評価結果を統合・解釈できる能力を養う。					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 精神科医療保健福祉領域の現状、作業療法の治療構造				予習：精神機能作業療法評価学の復習をしておく		
2. 作業療法評価項目、情報収集、評価結果の記録（実習を含む） ※記録に関するレポート作成				予習：教科書①p166-173,②p3-10を読む		
3. 観察（実習を含む） ※観察結果のレポート作成				予習：教科書①p187-195,②p478-482を読む		
4. 作業面接（実習を含む） ※作業面接結果のレポート作成				予習：教科書①p179-186,②p481-482を読む		
5. 面接（実技を含む）、「箱づくり法」概説				予習：教科書①p173-179,②p482-485を読む		
6. 「箱づくり法」実習 ※箱づくり法のレポート作成				予習：教科書①p179-186,②p496を読む		
7. 検査・測定①（精神症状評価尺度：BPRS,PANSS,HAM-D など） （実習を含む）				予習：教科書②p486-497を読む		
8. 検査・測定②（生活機能評価尺度：LASMI,Rehab,GAF など）（実習を含む）				同上		
9. 検査・測定③（作業検査：UBOM など、パーソナリティ検査：Rorschach test など）（実習を含む）				同上		
10. 検査・測定④（神経認知機能評価：BACS）（実習を含む） ※BACS 評価体験のレポート作成				予習：教科書②p489-490を読む		
11. 集団の評価（実習を含む） ※集団評価結果のレポート作成				予習：教科書①p122-138,②p498-513を読む		
12. 臨床における評価の実際、事例の探索的評価（実習を含む） ※探索的評価のレポート作成				予習：教科書②p509-518を読んでおく		
13. 事例の分析的評価（実習を含む） ※分析的評価のレポート作成				同上		
14. 精神科領域における認知症に関する評価 ※事例のレポート作成				予習：教科書②p603-629を読んでおく		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）						

成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 30 %	■定期試験 60 %	■その他 10 %
	基準等		授業内で示されるレポート課題の内容を評価する	授業内容の範囲で出題する	授業に臨む姿勢、積極性などを総合的に判断する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根 寛	「精神障害と作業療法 新版」		三輪書店	2017
	早坂友成 編	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学		医歯薬出版	2025
参考図書	富岡詔子ほか	「作業療法学全書 改訂第3版第5巻 作業治療学2 精神障害」		協同医書出版社	2010
履修要件等	精神機能作業療法評価学（2年次前期科目）を履修していることが望ましい				
オープンな教育リソース					
研究室	白岩：1号館5階 第13研究室 増澤：1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	白岩：毎週火曜日 12：10～13：00 増澤：毎週木曜日 12：10～13：00		

科目No.	SOT04-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	生活環境・行為分析学 (含演習)		担当教員 E-Mail	岸村 厚志・中越 雄也		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして生活環境や行為の分析に必要な知識と手法について講義する					
授業内容の要約	様々な動作・行為から成り立つ日常生活自立にむけた支援策を理解する。また、動作制限がある場合その原因を探り、可能性のある機能障害を推論し、特定するための知識手法を身につける。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行為の概念を理解し構成要素を抽出することができる</li> <li>2. 行為を分析するなかで心身機能との関連をみつけだすことができる</li> <li>3. 生活行為の視点でテクニカルエイドの選び方使い方ができる</li> <li>4. 住宅の状況や用具の使用といった環境因子の影響を予測することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義、演習、グループワーク課題 等により、座学と実技の双方により理解を深める。					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 面接	中越先生		復習として OUTPUT を行うこと			
2. 基本動作・動作分析	中越先生		教科書の読了 /構成要素のプリント課題			
3. 調理・遂行観察①	中越先生		課題レポートの作成			
4. 調理・遂行観察②	中越先生					
5. FIM	中越先生		復習として OUTPUT を行うこと			
6. ADL の治療理論			復習として OUTPUT を行うこと			
7. 食事動作①			授業範囲の予習と復習として OUTPUT を行うこと			
8. 食事動作②	”	⑤排泄動作 p 139-157				
9. 整容動作①						
10. 整容動作②						
11. 更衣動作						
12. 排泄動作①						
13. 排泄動作②						
14. 入浴動作						
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 20%	■定期試験 50%	■その他 %	
	基準等	前回講義分の小テストか課題を実施する。各10点配点で30%分に案分する。	調理の遂行観察について	筆記試験	教科書は授業に必須なので準備しておく。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	小川真寛 白井はる奈	最新作業療法学講座 「日常生活活動 (ADL)」 第1版	医歯薬出版 株式会社	2025
	濱口豊太	標準作業療法学 専門分野 「日常生活活動・社会生活行為学」 第2版	医学書院	2022
参考図書	編集委員会	テクニカルエイド生活視点で役立つ選び方・使い方	三輪書店	2014
履修要件等				
オープンな 教育リソース				
研究室	岸村:1号館1階 作業療法学専攻長室 中越:1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	岸村:毎週火曜日 12:10~13:00 中越:毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No	SRE24-2E		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	生活環境・行為分析学 (含演習)		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学	選択必修	1単位	後期 (30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	健康科学におけるデータサイエンスでは、目的設定やアウトカム定義、解析計画の策定が必要不可欠である。本講義では、若年者から高齢者までの幅広い層の健康課題を体系的に学び、それらを評価する指標や環境因子を多角的に理解する。さらに、課題整理と仮説設定、測定設計に基づく実測および統計解析を通して、科学的根拠に基づいた健康課題の解決策を構想・提案し、その成果をプレゼンテーションできる能力を養う。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 若年者から高齢者までの健康課題を体系的に理解し、評価指標および関連する環境因子を説明できる。</li> <li>2. 健康課題に対して、仮説設定から測定設計、解析計画までを一貫して構築できる。</li> <li>3. 実測データの前処理および統計解析を行い、結果を科学的に解釈し、健康課題に対する解決策を構想・発信できる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。演習の達成度をグループで発表する機会を設け、アクティブ・ラーニングを活性化する。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Teams上に授業動画をアップロードする。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション, データ駆動型社会とデータサイエンスを取り巻く現状				データ駆動型社会におけるデータ活用事例を1例程度調べ、その現状を把握する。		
2. 若年者の健康課題と評価指標				講義資料を基に若者の健康課題を復習する。		
3. 中高年者の健康課題と生活習慣病				講義資料を基に生活習慣病や中高年者特有の健康課題を復習する。		
4. 高齢者の健康課題				講義資料を基に高齢者の健康課題の関連因子を整理し、復習する。		
5. 目的設計と調査・分析の手順				課題解決に向けた目的・仮説・アウトカム設定の順序を整理し、文章化することが望ましい。		
6. データ測定方法と可視化				講義で取り扱った測定機器の特徴と得られるデータの特性を把握する。		
7. データ解析方法 2群・3群比較				2群比較と3群比較の違いを整理し、それぞれの適用条件を説明できるよう復習する。		
8. データ解析方法 相関分析と回帰分析				相関分析と回帰分析の違いを整理し、活用場面を具体例に説明できるよう復習する。		
9. グループワーク① 課題の整理と仮説設定・測定設計				設定した課題について、仮説と測定設計を文章化し、使用する統計手法を明確にすることが望ましい。		

10. 実測①：機器などを用いたデータ取得		取得したデータの特徴を Python や表計算ソフトを用いて取り組むことが望ましい。			
11. 実測②：機器などを用いたデータ取得		取得したデータの特徴を Python や表計算ソフトを用いて取り組むことが望ましい。			
12. グループワーク② データ前処理・統計解析		前処理および統計解析の結果を図表でまとめ、結果の要点を簡潔に記述する。			
13. グループワーク③ 結果に対するとグループディスカッションと資料作成		講義内のグループディスカッションの内容を整理し、第 14 回の発表資料を作成する。			
14. プレゼンテーション・総復習		期末レポートとして、自及び他グループの設計・解析・考察を振り返り、考察の深堀や改善点などをまとめる。			
期末レポート					
15. 総括及びフィードバック					
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 70%	□定期試験 %	□その他 30%
	基準等		第14回講義での発表資料 (30%) および期末レポート (40%) により、評価する。		出席数およびグループ活動の態度で評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	手良向 聡	ヘルスデータサイエンス入門 —医療・健康データの活用を目指して—		朝倉書店	2023
参考図書					
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室		オフィスアワー		

科目No.	SOT08-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	高齢期作業療法学		担当教員 E-Mail	嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	2単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	高齢者施設で勤務した経験のある担当教員が高齢者との関りを通して、実際の臨床場面での経験を踏まえながら講義を進めます。					
授業内容の要約	高齢者に作業療法が援助できることは多い。健康な人はなるべく健康状態を保ち、障害を抱えた人は障害の影響を抑えて、意義ある人生を送ることが高齢期のあるべき姿である。この講義では障害をもった高齢者のみではなく、健康高齢者にも焦点をあてる。					
学修目標 到達目標	1. 高齢期の特徴について具体的に述べることができる。 2. 高齢者について理解し、アプローチする手段を述べることができる。					
対面授業の 進め方	高齢者について少しでも理解してもらいたい。教科書に記載されている具体例を参考に臨床場面での実例を交えながら講義を進めていきます。					
遠隔授業の 進め方	Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配付の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員に申し出てください。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 高齢社会と高齢期の課題(「高齢期作業療法学」 PP 5～27)				予習:教科書「高齢期作業療法学」PP 5～27 を事前に読んでおく		
2. 高齢者を取り巻く社会制度と作業療法(「高齢期作業療法学」 PP28～52)				予習:教科書「高齢期作業療法学」PP28～52、教科書「作業療法評価学」 p 307～309 を事前に読んでおく		
3. 高齢期の特徴と疾患①(「高齢期作業療法学」 PP53～58)循環器・呼吸器				予習:教科書「高齢期作業療法学」 PP53～58 を事前に読んでおく		
4. 高齢期の特徴と疾患②(「高齢期作業療法学」 PP58～61 神経疾患・運動器疾患)				予習:教科書「高齢期作業療法学」 PP58～61 を事前に読んでおく		
5. 高齢期の特徴と疾患③(「高齢期作業療法学」 PP62～65)皮膚疾患他				予習:教科書「高齢期作業療法学」 PP62～65 を事前に読んでおく		
6. 高齢期の特徴と疾患 高齢期の特徴まとめ「高齢期作業療法学」 P P 14～15				復習:高齢期の特徴と疾患についてまとめる		
7. 認知症①(「高齢期作業療法学」 PP66～69)認知症とは・認知症の分類と治療				予習:教科書「高齢期作業療法学」 PP66～69 を事前に読んでおく		
8. 認知症②(「高齢期作業療法学」 PP70～77)認知症の症状・代表的な認知症病型				予習:教科書「高齢期作業療法学」 PP70～77 を事前に読んでおく		
9. 認知症③(「作業療法評価学」 PP588～593)高齢期作業療法評価の特徴				予習:教科書「作業療法評価学」 PP588～593 を事前に読んでおく		
10 認知症④(「作業療法評価学」 PP593～598)認知機能の評価				予習:教科書「作業療法評価学」 PP593～598 を事前に読んでおく		
11. 認知症⑤(「作業療法評価学」 PP598～611)BPSD・精神心理・フレイル・その他の評価				予習:教科書「作業療法評価学」 PP598～611 を事前に読んでおく		
12. 高齢期作業療法の実践① 回想法				復習:回想法についてまとめる		
13. 高齢期作業療法の実践② 高齢者施設での作業療法				復習:高齢者施設での作業療法についてまとめる		

14. 授業のまとめと定期試験のポイント説明		復習：							
定期試験（期末レポート）		復習：前期試験対策							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	20%	■定期試験	70%	□その他	10%
	基準等			高齢者についてのレポートを課す。		授業内容全般の理解度を定期試験にて評価する		授業態度：受講の積極性や理解度等を総合的に判断する	
教科書	著者	タイトル				出版社	発行年		
	松房利憲 他	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第4版				医学書院	2024		
	能登真一 他	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版				医学書院	2024		
参考図書	特に指定しない								
履修要件等									
オープンな教育リソース									
研究室	1号館2階 第24研究室			オフィスアワー	毎週火曜日 10:40~12:10				

科目No.	SOT10-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	発達過程作業療法学		担当教員 E-Mail	中村 愛子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	2単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	療育施設で臨床経験がある教員が、実践してきた内容を講義内容に取り入れながら学生がイメージできるように講義を行う。					
授業内容の要約	発達過程に障害のある子どもたちの疾病についての知識を深めるとともに、作業療法プログラムの立案に必要な評価計画及び治療の立案ができることを目的とする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害の子どもたちの関わりに必要な基礎的知識を学習する</li> <li>2. 疾病の特徴を学ぶとともに必要な評価方法を学習する</li> <li>3. 評価結果から問題点を抽出しプログラム立案をすることができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義を中心に進める。理解を深めるために適宜、ディスカッションを行ったり、視聴覚教材を用いる。					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修			30分以上
1.	小児の作業療法過程について、情報収集の意味		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
2.	定型発達(胎児期、運動機能)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
3.	定型発達(感覚統合、上肢機能、認知機能、視覚機能)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
4.	日常生活の発達について①(食事、更衣)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
5.	日常生活の発達について②(遊び、排泄)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
6.	小児の作業療法過程で使用される評価バッテリー		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
7.	脳性麻痺の評価と治療について(概論)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
8.	脳性麻痺の評価と治療について(痙直型両麻痺)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
9.	脳性麻痺の評価と治療について(痙直型四肢麻痺)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
10.	脳性麻痺の評価と治療について(痙直型片麻痺)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
11.	脳性麻痺の評価と治療について(アテトーゼ)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
12.	筋骨格系障害の作業療法評価と治療について(筋ジストロフィー・二分脊椎)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
13.	発達障害の作業療法評価と治療について(ASD・ADHD・LD)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
14.	知的障害の作業療法評価と治療について(知的障害・ダウン症候群)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
定期試験						
15.	総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)		指定された範囲の教科書、資料などを予め読んでおくこと			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%
	基準等					□その他 %
成績は定期試験のみで評価する。						

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	上杉雅之 監修 辛島千恵子 編集	イラストでわかる発達障害の作業療法	医歯薬出版	2016
参考図書	楠本泰士 編集 友利幸之介 編集協力	小児リハ評価ガイド 統合と解釈を 理解するための道しるべ	メジカルビュー社	2019
履修要件等				
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

科目No.	SOT11-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	精神機能作業療法学（含演習）		担当教員 E-Mail	白岩 圭悟・増澤 達彦		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	教員の実務現場の実務経験（14年）を基に、精神医療・保健・福祉の現状を説明し、精神科リハビリテーションの一分野である精神機能作業療法の位置づけと意義、そして疾患別及び対象者の回復状態に応じた作業療法の流れ（評価・介入・成果）を講義する。さらに地域支援の活動の紹介、就労援助などについて症例を通じて学修する。また、対象者への対応の仕方についても演習する。					
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「対象者の心理的、社会的背景にも配慮ができ、課題の発見・解決に向けて、不断の努力ができる」を達成するための科目である。対象者を総合的に評価するための知識を習得する。また、医療従事者として望ましい態度を習得する。精神保健福祉対策の概要を学ぶとともに精神障害作業療法の機能、役割、実践と疾患別アプローチへの理解を深める					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害作業療法を実践するために必要な基礎知識、治療・訓練・援助の内容、方法を学修し説明できる</li> <li>2. 評価を実施するために必要な基礎的な知識を身に付けることができる</li> <li>3. 疾患・障害の特性を理解し、疾患・障害に対する作業療法が修得できる</li> </ol> 対象者の回復状態に応じた作業療法の評価、治療計画、実施が修得できる					
対面授業の 進め方	1. 疾患像をイメージできるよう動画資料・教科書・配布資料を媒体にした授業形態で進める 理解の状況・程度に応じた質疑応答とディスカッションを行う					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神科医療の歴史と法制度（教科書②p35～p132、資料・VTR）			教科書（②p35～p132を読んでおくこと）			
2. リカバリーと精神障害作業療法の概要（教科書②p3～p28）			講義で配布した資料を再度復習し、さらに知識を深めるため文献調査しノートにまとめること			
3. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序1（教科書②p85～p121～p28）			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
4. 精神障害作業療法の治療・援助構造と治療機序2（教科書②p122～p154）			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
5. 各病期における精神科作業療法（教科書②p220～p249）			講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
6. 疾患別作業療法1：統合失調症にともなう障害と作業療法（教科書①p66～p110）			講義で配布した資料を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
7. 疾患別作業療法2：気分障害（うつ病）にともなう障害と作業療法と小テスト（教科書①p111～p150）			講義で配布した資料、及び教科書・参考書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
8. 疾患別作業療法3：気分障害（躁うつ病）にともなう障害と作業療法と小テスト（教科書①p111～p150）			講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
9. 疾患別作業療法4：神経症性障害に対する作業療法と小テスト（教科書①-151-177）			講義で配布した資料、及び教科書を再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			

10. 疾患別作業療法 5 : 摂食障害に対する作業療法と小テスト (教科書①p178～p187)		講義で配布した資料、教科書・参考書、及び小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
11. 疾患別作業療法 6 : 依存症に対する作業療法と小テスト (教科書①p188～p215)		講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
11. 疾患別作業療法 6 : 境界例パーソナリティ障害に対する作業療法と小テスト (教科書①p216～p225)		講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
13. 疾患別作業療法 5 : 認知症および自閉症スペクトラム障害に対する作業療法と小テスト (教科書①p226～p276)		講義で配布した資料、及び教科書・参考書、小テストを再度復習し、ポイントを整理しノートにまとめておくこと			
14. 関連療法と小テスト (教科書②p342～p369)		教科書を再度復習し、ポイントをまとめておくこと			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)		知識不足な部分、理解不十分な部分等再度復習し、まとめておくこと			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	国試過去問小テストの実施 (授業結果の振り返り)		定期試験を実施。講義の内容全般、および国試過去問より理解度を評価する。	授業への参加と取り組み姿勢
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山根寛	精神障害と作業療法 新版		三輪書店	2017
	早坂友成 編	最新作業療法学講座 精神障害作業療法学		医歯薬出版	2025
参考図書	早坂友成	精神科作業療法の理論と技術		メジカルビュー社	2018
履修要件等	心理学・臨床心理学・精神医学・精神障害評価学・精神障害臨床評価学実習などの知識が必要です。				
オープンな教育リソース					
研究室	白岩 : 1号館5階 第13研究室 増澤 : 1号館5階 第2共同研究室	オフィスアワー	白岩 : 毎週火曜日 12:10～13:00 増澤 : 毎週木曜日 12:10～13:00		

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ		担当教員 E-Mail	水野 貴子・上島 健		
基本項目	専攻	科目区分		履修期間		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	作業療法士として20年以上の臨床経験のある教員がその経験を活かして、臨床的な作業療法評価に必要な知識と技術について講義・指導する					
授業内容の要約	生活行為を中心とした評価の実践手順を経験し、課題を抽出するまでを学ぶ。作業療法での具体的なリスク管理に関する情報の収集や方法を、アクティブラーニングを通じて学修する。 人体解剖学実習見学や、本学近隣医療機関での災害医療訓練実習(模擬患者役体験)を経て、対象者の理解を多角的な視点で深めていく。また、災害医療訓練実習では、災害時傷病者へのトリアージ、心構え、救急救護場面において、多数の傷病者対応を迫られた際に、医療従事者として最善の方法を学ぶことを目的とする。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活行為を中心とした評価及び、課題の抽出や目標設定の重要性を理解し、記述できる</li> <li>評価計画を立案し、リスク管理が適切に行える</li> <li>災害医療訓練実習・臨床検査・測定実習に向けた準備ができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義と演習(症例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)を行う					
遠隔授業の 進め方	Microsoft office365のTeamsを使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション			総合ゼミⅡについて復習すること			
2. 評価計画の進め方・評価時のリスク管理について1			配布資料等を熟読して復習すること			
3. 評価計画の進め方・評価時のリスク管理について2			レポート作成をすること			
4. 実習ノート(SOAP・プロセスレコード)の書き方1			配布資料等を熟読して復習すること			
5. 実習ノート(SOAP・プロセスレコード)の書き方2			レポート作成をすること			
6. レジュメの書き方1 統合と解釈			配布資料等を熟読して復習すること			
7. レジュメの書き方2 課題の抽出と目標設定			レポート作成をすること			
8. 人体解剖学実習見学に関するオリエンテーション			配布資料等を熟読して復習すること			
9. 人体解剖学実習見学の実施			人体解剖学について予め復習しておくこと			
10. 臨床検査・測定実習前準備(実習施設発表・経路確認など)			臨床実習の手引きを予め熟読しておくこと			
11. 災害医療の講義と実習オリエンテーション			配布資料等を熟読して復習すること			
12. 災害医療訓練実習1			配布資料等を予め熟読しておくこと			
13. 災害医療訓練実習2			配布資料等を予め熟読しておくこと			
14. 臨床検査・測定実習指導者会議の準備			臨床実習の手引きを予め熟読しておくこと			
15. 臨床検査・測定実習 壮行会、必要物品の配布・確認			臨床実習の手引きを予め熟読しておくこと			
成績評価方法	項目	■ 課題・レポート 60%		■ その他 40%		
	基準等	夏休み中の国試解説レポート作成の提出状況および、授業内での課題の実施状況		授業への参加 臨む姿勢・態度・積極性		
教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き					
参考図書	授業内配布資料(プレ実習の手引きなど)					
履修要件等	「総合ゼミⅡ」が履修済みであること					

オープンな 教育リソース			
研究室	水野：1号館4階 第5研究室 上島：1号館5階 第14研究室	オフィスアワー	水野：毎週水曜日 12：10～12：50 上島：毎週木曜日 14：40～16：10

科目No.	SCP05-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床検査・測定実習		担当教員 E-Mail	水野 貴子・上島 健・嶋野 広一		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	3単位	後期 (135h) 3週間
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、学生が担当ケースに適切な作業療法の評価技術（検査・測定）が実践模倣されているかを臨床教育実習訪問指導にて臨床実習指導者とともに状況を把握し確認・指導する。また、学生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で、複数の症例に対し、臨床評価模倣の経験を通じて学ぶ診療参加型実習についても説明・指導する。					
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設にて実習をする。</li> <li>臨床の場で対象者（児）の評価法を修得し、作業療法士としての基本的な態度を学ぶ。</li> </ul>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>作業療法及び作業療法士の機能と役割を理解することができる</li> <li>臨床場面で、対象者（児）の評価を指導者のもとで実施し、収集した評価をもとに統合と解釈や、利点・問題点の抽出を実施し、それらの過程上で理論と技術の修得と理解を深めることができる</li> <li>専門職としての認識を高めることができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習にふさわしい身だしなみで臨むこと</li> <li>一般社会常識、マナー、そして社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること</li> <li>連絡・相談・報告や自己管理に十分注意を払うこと</li> </ul>					
遠隔授業の 進め方	<p>Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて臨床実習前後や学内指導を行うこともある。課題配信（症例の評価から治療計画と治療プログラムの立案）の提示については、各担当教員からの連絡や指示があるので、メールを確認しておくこと。</p> <p>出席確認は通信開始時に行う。通信に不備があった場合や質疑応答が必要な場合は、速やかに実習担当教員等にメール等で申し出ること。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	60分以上	
<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設で3週間の臨床実習を実施する</li> <li>対象者（児）の評価（情報収集、面接、観察、検査測定）を実施する</li> <li>評価した情報を基に、利点・問題点の抽出を実施する（治療計画立案は含まない）</li> </ul>				評価知識を修め、検査測定に関する技術を繰り返し、実技の練習をしておくこと		
成績 評価方法	項目	■ その他 100 %				
	基準等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① CBT</li> <li>② 実習前および中間評価</li> <li>③ 総括的評価実習評定表</li> <li>④ 実習後セミナー（症例報告会）</li> <li>⑤ 実習後評価、その他</li> </ol>				
教科書	作業療法学専攻 臨床実習の手引き					
参考図書	必要に応じて紹介する					
履修要件等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 臨床検査・測定実習の実習要件を満たす修得単位であること（履修規程参照）</li> <li>② 該当年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価）が合格水準に達すること</li> </ol>					
オープンな 教育リソース						
研究室	各実習担当教員研究室	オフィスアワー	各実習担当教員オフィスアワー参照			

科目No.	FBM12-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	耳鼻咽喉科学		担当教員	【耳鼻】山下 大介 【咽喉】村上 大地 他		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院にて耳鼻咽喉科の診療を行っている教員が、言語聴覚士として必要な知識の講義を行う。					
授業内容の要約	【耳鼻】言語聴覚士として、耳鼻科医とチーム医療を行う上で基礎となる専門科目である。 【咽喉】口腔咽頭の解剖生理、および嚥下(誤嚥)について、その診断と治療を解説する。					
学修目標 到達目標	【耳鼻】1.) 耳科学の解剖・生理・疾患全般について知識を習得する。 2.) 鼻科学の解剖・生理・疾患全般について知識を習得する。 【咽喉】1.) 口腔咽頭の解剖生理、嚥下のメカニズムを説明できる 2.) その個々の疾患の病態、検査、診断、治療を述べることができる					
対面授業の 進め方	【耳鼻】パワーポイントを用いた講義を行う。 【咽喉】基本的に遠隔授業を行う。					
遠隔授業の 進め方	【耳鼻】基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。 【咽喉】遠隔授業としてteamsを使用した授業のLIVE配信を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 耳科学 総論：解剖・生理				左記授業後、内容について復習すること。		
2. 耳科学 各論：外耳・中耳・内耳疾患						
3. 鼻科学 総論：解剖・生理 各論：鼻副鼻腔疾患						
4. 補聴器・人工内耳・遺伝性難聴						
5. 口腔咽頭科学 総論 解剖・生理 各論(1) 口腔・良性疾患、悪性疾患				講義の配付資料を今一度、読み直すこと。		
6. 口腔咽頭科学 各論(2) 咽頭・良性疾患、悪性疾患				(同上)		
7. 口腔咽頭科学 各論(3) 唾液腺疾患、嚥下				(同上)		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 100%	□その他 %	
	基準等			【耳鼻】 授業の内容全般についての理解度を評価する 【咽喉】 授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	特に指定しない					
参考図書	鳥山稔、田内光	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第3版			医学書院	2023
履修要件等						
オープンな 教育リソース						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	FBM13-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	臨床歯科学		担当教員 E-Mail	高阪 貴之			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	1単位	前期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	歯学部附属病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、歯・歯周組織の構造と機能、歯科疾患と治療法、および口腔ケアの方法について講義する。						
授業内容の要約	歯および口腔の機能を正常に保持することは、全身の健康維持にかかせない。本講義では、歯および歯周組織の構造、機能、口腔ケアについてのみならず、口腔と全身との関連性について学習する。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯および歯周組織について説明することができる</li> <li>2. 歯および歯周組織と全身との関連性を説明することができる</li> <li>3. 適切な口腔ケアの実施ができる</li> </ol>						
対面授業の 進め方	まず、歯・歯周組織の解剖学的特性および機能を学んでもらう。 それを踏まえた上で、歯・歯周組織の疾患、その管理の仕方や治療法を理解してもらおう。 口腔ケアに関しては、具体的手法についても言及する。						
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 歯科医学の歴史と重要性 (教科書 pp2~6)			教科書を読んで予習・復習すること				
2. 歯・歯周組織の発生 (教科書 pp32~33)			教科書を読んで予習・復習すること				
3. 歯・歯周組織の構造 (教科書 pp13~18)			教科書を読んで予習・復習すること				
4. 歯・歯周組織の機能 (教科書 pp13~18)			教科書を読んで予習・復習すること				
5. 歯・歯周組織の疾患 (教科書 pp36~62)			教科書を読んで予習・復習すること				
6. 歯・歯周組織の治療 (教科書 pp36~62)			教科書を読んで予習・復習すること				
7. 口腔ケアに関する予防 (教科書 pp239~247)			教科書を読んで予習・復習すること				
8. 口腔ケアに関する疾患の治療 (教科書 pp239~247)			教科書を読んで予習・復習すること				
定期試験 (期末レポート)							
総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					定期試験のみで成績を評価します。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	夏目 長門	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科学・口腔外科 第2版」			医学書院	2016	
参考図書	特に指定しない						
履修要件等							
オープンな教育リソース							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No	FBM14-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次			
授業科目名	口腔外科学		担当教員 E-Mail	小谷 泰子 ・ 長谷川 大輔					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	1単位	後期(16h)			
教員の実務経験と授業内容の関連	歯学部附属病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法について講義する。								
授業内容の要約	本講義では、咀嚼・嚥下を中心とする口腔機能の正常と異常について解説し、加齢や口腔中咽頭癌、脳血管障害、口唇口蓋裂などによって生じる機能障害とその評価法、言語聴覚士の参画が期待される摂食・嚥下リハビリテーションの現状と将来的な展望について示す。特にその中で、歯科・口腔外科領域と言語聴覚士の連携について詳説する。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な咀嚼・嚥下運動のメカニズムと健康における意義について理解する</li> <li>2. 口腔中咽頭癌における嚥下障害の病態・治療法について理解する</li> <li>3. 摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科医師と言語聴覚士との連携について理解する</li> </ol>								
対面授業の 進め方	講義形式を中心とし、症例を教材にした討論を加える。 受講者は積極的に討論に参加し、詳細なノートを作成すること。								
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。								
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
長谷川 大輔 担当分									
1. 咀嚼機能のメカニズムと脳・全身への影響			左記授業後、復習する。						
2. 咀嚼・嚥下における舌のはたらき									
3. 嚥下障害① 口腔癌による咀嚼・嚥下障害									
4. 嚥下障害② 言語聴覚士と歯科医師の連携									
小谷 泰子 担当分									
5. 口蓋裂と鼻咽腔閉鎖不全			左記授業後、復習する。						
6. 嚥下障害③ 在宅症例での取り組み、チームアプローチについて									
7. 嚥下障害④ 歯科との連携について									
8. 口腔機能の障害（ドライマウス・睡眠時無呼吸など）									
定期試験（期末レポート）									
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	15%	■定期試験	80%	■その他	5%
	基準等			提出物で評価する。		定期試験にて、授業の理解度を評価する。		授業への参加度で評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年			
	道健一	最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学			医歯薬出版	2024			
	溝尻源太 熊倉勇美	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害」			医歯薬出版	2000			
参考図書	前田芳信 阪井丘芳	「摂食・嚥下機能改善と装置の作り方 超入門」			クインテッセンス 出版	2019			
履修要件等									

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	FBM25-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次	
授業科目名	音声言語聴覚医学Ⅰ【呼吸】		担当教員 E-Mail	村上 大地 他			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	1単位	前期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	耳鼻咽喉科医師としての臨床経験に基づき、音声言語医学について講義する。						
授業内容の要約	言語聴覚士として臨床で担当することになる、音声言語について講義をおこなう。これらに関与している器官の解剖と生理について説明し、その検査法、病態、治療法について解説する。講義にあたっては、視覚材料を多用する。						
学修目標 到達目標	1. QOLに直結する発声、構音に関与する器官の解剖・生理を説明できる 2. 発声、構音を障害する疾病、その治療法を述べることができる						
対面授業の 進め方	基本的に遠隔授業を行う。						
遠隔授業の 進め方	遠隔授業として teams を使用した授業の LIVE 配信を行う。						
授業計画					授業時間外に 必要な学修	30分以上	
1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 総論					講義の配付資料を今一度、読み直すこと。		
2. 頭頸部外科学 各論 頭頸部癌の一般論、放射線治療、再建外科					(同上)		
3. 喉頭科学 総論(1) 喉頭の解剖、生理、喉頭の神経系の構造					(同上)		
4. 喉頭科学 総論(2) 発声のメカニズム、喉頭の神経系の機能及び病態					(同上)		
5. 喉頭科学 総論(3) 声の検査					(同上)		
6. 喉頭科学 各論(1) 喉頭の良性疾患(1) 炎症、良性腫瘍					(同上)		
7. 喉頭科学 各論(2) 喉頭の良性疾患(2) 声帯麻痺、異物、外傷、先天異常					(同上)		
8. 喉頭科学 各論(3) 喉頭の悪性疾患					(同上)		
9. 喉頭科学 各論(4) 音声障害、音声治療					(同上)		
10. 言語医学 総論 構音に関する臨床解剖、構音のメカニズム					(同上)		
11. 言語医学 各論 器質性構音障害をきたす疾患、病態					(同上)		
12. 国家試験解説①					(同上)		
13. 国家試験解説②					(同上)		
14. 総括、質疑応答①					(同上)		
定期試験							
15. 総括、質疑応答②					(同上)		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 100%	□その他 %
	基準等					授業の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	特に指定しない						
参考図書	城本修 ほか	発声発語障害学 第3版		医学書院		2021	
履修要件等							
オープンな教育リソース							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No	FBM26-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次	
授業科目名	音声言語聴覚医学Ⅱ【聴覚】		担当教員 E-Mail	酒谷 英樹 他			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	人体のしくみ・疾病と治療		必修	1単位	前期(30h)	
教員の実務経験と 授業内容の関連							
授業内容の要約	聴器、平衡覚器官の構造、生理を理解し、聴覚障害を伴う疾患について理解を深める。						
学修目標 到達目標	1. 言語聴覚士として必要な解剖、生理、疾患について幅広い知識を正確に習得する 2. 正しい解剖学的知識より疾患を論理立てて理解する 3. 医療現場における言語聴覚士の役割を理解する						
対面授業の 進め方	講義						
遠隔授業の 進め方	teamsを使用した授業のLIVE配信を行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. 外耳、中耳、顔面神経、内耳の解剖				左記授業後、復習をする			
2. 聴覚生理							
3. 外耳、中耳、顔面神経、内耳の疾患							
4. 画像検査							
5. 前庭生理							
6. 聴力検査							
7. めまいの検査							
8. 難聴							
9. 幼児難聴							
10. 補聴器							
11. 人工内耳							
12. 総括							
13. 総括							
14. 総括							
定期試験(期末レポート)							
15. 定期試験フィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	田山 二郎	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学 第3版			医学書院	2023	
参考図書	特に指定しない						
履修要件等							

オープンな 教育リソース			
研究室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No	FPS03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	臨床心理学 (ST)		担当教員 E-Mail	荒木 郁緒		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	言語聴覚学	心の働き	必修	2単位	後期 (30h)	
	ヘルスプロモーション	心理学				
教員の実務経験と授業内容の関連	精神科病院や地域精神保健福祉での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、臨床心理の基本的な知識と手法についての考え方について実習を交えながら講義する。					
授業内容の要約	臨床心理学の理論やアプローチの理解を通して、心理的観点からの対人理解を学ぶ。また对患者だけでなく、自身のストレスコーピングや多職種連携のコミュニケーションについても学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. “こころ”のあり方の概要を理解することができる</li> <li>2. 本講義で学ぶ代表的な基礎理論に基づき、心理に関する支援を要する人々に対して、適切な支援法を判断することができる。</li> <li>3. 医療従事者として臨床心理学の知識を生かすことができる</li> <li>4. 人と人との関係の中で何が起こり得るかについて、考え検討し活用することができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	レジュメや資料プリント配布による講義形式 (グループワーク・心理アセスメントの実習・描画技法の体験などアクティブラーニングを含む)					
遠隔授業の 進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、teams を使用した授業の LIVE 配信もしくは stream での動画配信を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. “リンショウシンリガク”とは？ (臨床心理の歴史、制度、資格)			復習 (レポートにまとめる)			
2. “話を聴く”とはどういうことか？ (傾聴、受容、共感)			復習 (レポートにまとめる)			
3. 無意識の発見 (精神分析理論の歴史の変遷)			復習 (レポートにまとめる)			
4. 人と人との間で起こること (転移・逆転移)			復習 (レポートにまとめる)			
5. 認知行動療法に学ぶ技法			復習 (レポートにまとめる)			
6. ナラティブセラピー等に学ぶ技法			復習 (レポートにまとめる)			
7. “いま・ここ”に注意を向ける (メンタライジング、イメージ)			復習 (レポートにまとめる)			
8. 目の前の人をどうやって見立てるのか？ (発達理論と生涯発達の観点から)			復習 (レポートにまとめる)			
9. “こころ”をどうやって見立てるのか？ (パーソナリティ理論と心理検査・アセスメント)			復習 (レポートにまとめる)			
10. 正常と異常の狭間について (歴史、文化、制度)			復習 (レポートにまとめる)			
11. こころの病の分類とアプローチ (統合失調症、双極性障害など)			復習 (レポートにまとめる)			
12. こころの病の分類とアプローチ (人格障害、発達障害など)			復習 (レポートにまとめる)			

13. グループワーク (描画体験)		復習 (レポートにまとめる)			
14. グループワーク (事例検討)		復習 (レポートにまとめる)			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 0%	■レポート 30%	■定期試験 30%	■その他 40%
	基準等		各授業の振り返りを提出物 (レポート) で評価する。	定期試験にて、授業の理解度を評価する。	授業への参加度や受講態度等で評価する。
教科書		著者	タイトル	出版社	発行年
		レジюмеや配布資料を用いて行う			
参考図書		必要に応じてその都度紹介			
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	FSL02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語学		担当教員 E-Mail	児島 その (質問は教務にお伝え下さい)		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語とコミュニケーション		必修	2単位	前期(46h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	言語聴覚療法の実践に必要な「言語」について、基礎知識を概説し、国家試験対策を行う。 また、臨床につながる言語病理について、言語の機能と関連づけて概説する。					
学修目標 到達目標	1. 言語学の基礎知識を習得し、国家試験の頻出問題を解くことができる。 2. 言語の機能的側面と言語病理を関連づけて考えることができる。					
対面授業の 進め方	身近にある言語事象を例示し、臨床との関連性に着目しながら講義を行う。随時、言語資料の収集やまとめ、ディスカッション、発表などの演習形式を取り入れながら、学生が主体的に学べるよう工夫する。章末では関連する国家試験問題について取り上げ、問題の形式や内容に早期から慣れておけるようにする。					
遠隔授業の 進め方	対面授業を原則とするが、必要に応じ teams を用いて授業の LIVE 配信による遠隔授業を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 言語学とは(言語の起源 音声と言語) コミュニケーションツールとしての言語			復習：配布資料と過去問の振り返り			
2. ソシユールの言語記号論・認知心理と言語			復習：配布資料と過去問の振り返り			
3. 言語の獲得と形成・チョムスキーの言語理論			復習：配布資料と過去問の振り返り			
4. 言語の発達と心理・言語発達理論			復習：配布資料と過去問の振り返り			
5. 言語の社会的側面・語用論			復習：配布資料と過去問の振り返り			
6. 言語研究の変遷・文字の発明			復習：配布資料と過去問の振り返り			
7. 言語の普遍的特性①			復習：授配布資料と過去問の振り返り			
8. 言語の普遍的特性②			復習：配布資料と過去問の振り返り			
9. 言語の認知神経心理学的側面			復習：配布資料と過去問の振り返り			
10. 復習・過去問演習			過去問及び復習プリントによる知識の整理			
11. 中間テスト			自己フィードバックによる学習修得の確認			
12. 思考と言語・個別言語論			復習：配布資料と過去問の振り返り			
13. 言語の構造と機能			復習：配布資料と過去問の振り返り			
14. 文の構造と機能①			復習：配布資料と過去問の振り返り			
15. 文の構造と機能②			復習：配布資料と過去問の振り返り			
16. 文の構成要素とそのはたらき			復習：配布資料と過去問の振り返り			
17. 語の構造と機能①			復習：配布資料と過去問の振り返り			
18. 語の構造と機能②			復習：配布資料と過去問の振り返り			
19. 文法規則①			復習：配布資料と過去問の振り返り			
20. 文法規則②			復習：配布資料と過去問の振り返り			
21. 総復習①1~10回までの講義内容総覧			過去問及び復習プリントによる知識の整理			
22. 総復習②11~20回までの講義内容総覧			過去問及び復習プリントによる知識の整理			
定期試験(記述式問題およびマーク式問題)			自己フィードバックによる学習修得の確認			
23. 言語機能と言語聴覚療法について(言語学的側面からの SLTA)			復習：配布資料と過去問の振り返り			

成績評価方法	項目	■中間試験 (40%)	□レポート課題 (0%)	■定期試験 (60%)	■その他 %
	基準等	中間試験(60%を合格最低点とする)	なし	①記述式問題 ②マーク式問題 (合計60%を合格最低点とする)	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		なし			
参考図書	高橋留美ほか	やさしい言語学		研究社	2021
	今泉敏 ほか	言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版		医学書院	2021
履修要件等	なし (音声学の単位を取得しておくことが望ましい。)				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問等あればどうぞ。	

科目No.	FSL03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	音響学		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	言語とコミュニケーション		必修	2単位	後期(30h)	
教員の實務経験と授業内容の関連							
授業内容の要約	STの聴覚・構音・音声に関する仕事を行う上で必要となる音響学の基本的概念(音波の性質、音圧、周波数、スペクトル、dBの計算、共鳴、デジタル録音、スペクトログラムなど)を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 波長と周波数、dBの計算ができる 2. フォルマントおよび音声知覚の手がかりに関する説明ができる 3. デジタル音声処理に関する説明ができる						
対面授業の 進め方	講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、講義および実際の音のデモンストレーションなどを行いながら学習を進める。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 音とは何か(教科書 p.203)、単位の接頭辞			復習:授業の範囲をまとめる				
2. 音波の性質と波長・周期・周波数・音速(教科書 p.203)			復習:授業の範囲をまとめる				
3. 単振動と純音、音圧レベルと音の大きさのレベル(教科書 p.204)			復習:授業の範囲をまとめる				
4. dBの計算(dBSPL $\leftrightarrow$ Pa)			復習:授業の範囲をまとめる				
5. 時間波形と周波数スペクトル(教科書 pp.204~205)			復習:授業の範囲をまとめる				
6. 音響管の共鳴(教科書 pp.205~206)			復習:授業の範囲をまとめる				
7. 音声生成の音響理論(教科書 pp.207~208)			復習:授業の範囲をまとめる				
8. デジタル信号処理(教科書 pp.208~209)			復習:授業の範囲をまとめる				
9. デジタル信号処理(教科書 pp.208~209)			復習:授業の範囲をまとめる				
10. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209~210)			復習:授業の範囲をまとめる				
11. サウンドスペクトログラム(教科書 pp.209~210)			復習:授業の範囲をまとめる				
12. 母音の音響特性と知覚(教科書 p. 210)			復習:授業の範囲をまとめる				
13. 子音の音響特性と知覚(教科書 pp.210~211)			復習:授業の範囲をまとめる				
14. 超分節的要素の音響特徴と知覚(教科書 p.212)			復習:授業の範囲をまとめる				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	■定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第4版		医歯薬出版	2025		
参考図書	今泉敏・荒井隆行	音響学		医歯薬出版	2026		
	竹内京子・稲田朋晃	音響・音声学		メジカルビュー	2023		
	吉田友敬	言語聴覚士の音響学入門 2訂版		海文堂出版	2020		
	青木直史	ゼロからはじめる音響学		講談社	2014		

履修要件等	聴覚検査等の授業内容および指数計算の方法を復習しておくこと		
オープンな教育リソース			
研究室	馬屋原：1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	馬屋原：毎週水曜日 12:10~13:00

科目No.	FSL04-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	言語発達学		担当教員 E-Mail	高橋 泰子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	言語とコミュニケーション		必修	2単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は大阪府下の保育所、幼稚園、小・中学校等の巡回相談ならびに専門家派遣事業に携わっている。定型発達を示す子どもの日常の活動を紹介しながら、学習を進めていく。					
授業内容の要約	子どもの「言語発達障害学」学ぶ前に、定型発達を学ぶことで障害による問題が理解できる。また、全般的な発達を学ぶ「生涯発達心理学」に次いで、言語の表出・理解をより詳しく学ぶことで、言語聴覚士として理解が深まる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の特徴が説明できる</li> <li>2. 言語発達を音韻論・意味論・統語論・語用論の側面から分析・評価できる</li> <li>3. さまざまな言語獲得理論が説明できる</li> <li>4. 音声言語および書字言語の発達段階が説明できる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。講義は、配布するプリントと教科書を用いるので、指定された予習と復習をしておくこと。 専門分野の言語発達障害を理解するための基礎となるため、丁寧に学習を重ねることを勧める。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を要する場合は、Office365 Teams を用いて講義を行う。「〇歳になると〇〇ができる」といった機械的な記憶をするのではなく、発達の連続的プロセスを言語的側面から講義していく。次回の講義までに、教科書に出てくるわからない語彙は調べるなどの予習をして講義に臨みたい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 導入—言語発達研究の特徴			2~5 ページの復習、32~39 ページの予習			
2. 何を (what) 獲得するのか—音韻論的側面			本講義の復習、32~39 ページの予習			
3. 何を (what) 獲得するのか—音韻論的側面			本講義の復習、36~39 ページの予習			
4. 何を (what) 獲得するのか—意味論的側面			本講義の復習、40~41 ページの予習			
5. 何を (what) 獲得するのか—意味論的側面			本講義の復習、42~45 ページの予習			
6. 何を (what) 獲得するのか—統語論的側面			本講義の復習、46~49 ページの予習			
7. 何を (what) 獲得するのか—語用論的側面			50~57 ページの予習・復習			
8. 何を (what) 獲得するのか—語用論的側面			50~57 ページの復習			
9. どのように (how) 獲得するのか—理論の変遷			6~9 ページの予習・復習			
10. どのように (how) 獲得するのか—理論の変遷			6~9 ページの復習			
11. 読字の発達			58~61 ページの予習・復習			
12. 書字の発達			58~61 ページの復習			
13. 読字・書字を支える諸機能の発達			本講義の復習			
14. 脳の機能と言語の関係			本講義の復習、過去の国家試験問題を解く			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 90 %
	基準等					■その他 10%
						授業中に予習・復習の状況を口頭にて質疑応答し理解度を評価する。
						授業中に予習・復習の状況を口頭にて質疑応答し理解度を評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	岩立志津夫 小椋たみ子 編著	よくわかる言語発達 改訂新版	ミネルヴァ書房	2017
参考図書	小林春美 佐々木正人	新・子どもたちの言語獲得	大修館書店	2008
履修要件等	「生涯発達心理学」「言語学」が履修済みであることが望ましい。			
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SAH01-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学 I		担当教員 E-Mail	上田 有紀人		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	失語・高次脳機能障害学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験(20年)と実習生の指導経験から、失語症・高次脳機能障害について、基本的理解と検査の実施、また実際の患者様の失語症や高次脳機能障害例をビデオで呈示し、臨床実習にも結びつく授業展開にする。					
授業内容の要約	失語症・高次脳機能障害を理解し、評価・診断・リハビリテーションについて学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 失語症・高次脳機能障害患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる</li> <li>2. 失語症・高次脳機能障害の各障害について定義・症状・病巣・発現機序を理解することができる</li> <li>3. 失語症・高次脳機能障害の各障害に対する検査・評価・診断ができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義、小テスト、演習。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 神経心理学とは・症候学とは				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
2. 脳の役割①(脳回・脳溝)				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
3. 脳の役割②(大脳中心)				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
4. 脳の役割③(脳幹・脳神経、小脳・大脳辺縁系)				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
5. 脳血管障害①				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
6. 脳血管障害②				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
7. 脳血管障害③				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
8. 認知症①				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
9. 認知症②				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
10. 大脳半球の側性化・機能局在				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
11. 右大脳半球で生じる高次脳機能障害：半側空間無視				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
12. 右大脳半球で生じる高次脳機能障害：病態失認				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
13. 右半球損傷で生じるコミュニケーション障害				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		
14. 神経心理学的検査				予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること		

定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 10%
	基準等		確認テストを実施し、評価する。		内容全般についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代監修	「高次脳機能障害学 第3版」		医学書院	2021
	藤田郁代監修	「失語症学 第3版」		医学書院	2021
参考図書	石合純夫	「高次脳機能障害学 第3版」		医歯薬出版	2022
履修要件等	予習・復習は必須。授業内に紹介する参考文献は積極的に購入および習得することが望ましい				
オープンな教育リソース	<a href="https://youtu.be/T9cxCwMjqBc">https://youtu.be/T9cxCwMjqBc</a>				
研究室	上田：1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10~13:00	

科目No.	SAH02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	上田 有紀人		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	失語・高次脳機能障害学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	多くの病院等において実務経験と研究経験のある言語聴覚士の授業により、失語症について、基本的理解と検査方法などの基本的能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断の理論・方法を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 失語症患者に対する言語聴覚士としての基本的役割を理解することができる</li> <li>2. 病巣と失語症の関連を解剖生理学的に理解することができる</li> <li>3. 失語症候群の基本概念・症状を理解し、評価・診断をすることができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	教科書、その他文献をまとめたレジュメに基づき講義をすすめる。予習・復習は必ず行うこと。授業態度は評価対象とする。録画、録音による視聴覚データから、症状分析、訓練立案をグループ編成による、ディスカッション等により行う。必要な知識は小テストで確認する。その他、演習、osceを実施する。授業外での検査練習は必須である。					
遠隔授業の 進め方	Teams、ストリーム、課題配信等					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 失語症とは	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
2. 失語症の歴史	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
3. 言語症状について①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
4. 言語症状について②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
5. 言語症状と認知神経心理学	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
6. 失語症の類型①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
7. 失語症の類型②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
8. 失語症とログジェンモデル①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
9. 失語症とログジェンモデル②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
10. 行為の障害：失行①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
11. 行為の障害：失行②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
12. 前頭葉機能障害①	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					
13. 前頭葉機能障害②	予習：教科書の該当箇所を予め読んでおくこと 復習：ノートにまとめ、小テストに備えること					

14. 神経心理学的検査		時間外にグループで検査を行う。 質問事項をまとめる。			
定期試験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■ osce 10%	■定期試験 70%	■その他 5%
	基準等	授業内で指示するデ ィリー・小テストの結果	検査の理解度、施行法 等を評価する。	授業の内容全般につい ての理解度	受講態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版		医学書院	2021
	藤田郁代 監修	標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版		医学書院	2021
参考図書	種村純 編著	失語症 Q&A 検査結果のみかたとリハビリテーション		新興医学出 版社	2013
	石合純夫	「高次脳機能障害学 第3版」		医歯薬出版	2022
履修要件等					
オープンな 教育リソース <a href="https://youtu.be/T9cxCwMjqBc">https://youtu.be/T9cxCwMjqBc</a>					
研究室	1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:10~13:00	

科目No.	SLD01-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	言語発達障害学 I		担当教員 E-Mail	不破 真也			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	1単位	前期(16h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	発達障害児・肢体不自由児に対する臨床経験のある教員が治療に関しての基本的視点について講義する。						
授業内容の要約	小児の発達障害、脳性麻痺及び重複障害をとりあげる。各障害に関する発達特性、言語コミュニケーションの特徴など、多様な臨床像について理解し、コミュニケーション支援の基本的視点を探る。						
学修目標 到達目標	1. 発達障害、脳性麻痺及び重複障害の障害メカニズムについて理解する。 2. 発達障害、脳性麻痺及び重複障害の臨床像を理解し、そのコミュニケーション支援の概要を知る。						
対面授業の 進め方	発達障害、脳性麻痺及び重複障害の臨床像を具体的に理解できるように臨床場面の映像の提示し、状況に応じてディスカッションを実施する。						
遠隔授業の 進め方	各講義の内容に沿った解説資料と課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 言語発達障害の基本的定義、概念、疾病分類			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
2. 関連する主要な障害の種類と疾患(知的能力障害)			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
3. 関連する主要な障害の種類と疾患(自閉症スペクトラム)			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
4. 関連する主要な障害の種類と疾患(限局性学習症)			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
5. 関連する主要な障害の種類と疾患(注意欠如多動症)			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
6. 関連する主要な障害の種類と疾患(脳性麻痺・重複障害①)			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
7. 関連する主要な障害の種類と疾患(脳性麻痺・重複障害②)			【不破】	講義内容を復習しノートにまとめる			
定期試験(筆記試験)							
8. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			【不破】	講義内容の復習			
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100 %	□その他 %
	基準等					講義中に配布した資料の内容から出題し理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	石坂 郁代	最新 言語聴覚学講座 言語発達障害学			医歯薬出版	2023	
参考図書							
履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。						
オープンな教育リソース							
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。			

科目No.	SLD02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	言語発達障害学Ⅱ		担当教員 E-Mail	高橋 泰子			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	言語発達障害		必修	2単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	担当教員は、保育所、幼稚園、小・中・特別支援学校において巡回相談ならびに専門家派遣事業に携わっている。そこで出会う発達に障害のある子どもたちの評価や指導について説明を行う。						
授業内容の要約	定型発達を知る「生涯発達心理学」や「言語発達学」を学んだ後、本科目を修得することで障害による問題を理解できる。また、評価を行った後、具体的な指導や支援について「言語発達障害治療学Ⅱ」を学ぶことが望ましい。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語発達障害の原因・症状・観察のポイントを理解する</li> <li>2. 言語発達障害の心理・教育的検査が正しく実施できる</li> <li>3. 言語発達障害の心理・教育的検査の結果、診断と評価ができる</li> <li>4. 言語発達障害児の歴史の変遷、社会的背景を理解する</li> </ol>						
対面授業の 進め方	前半は知的発達症、自閉スペクトラム症とその周辺領域の発達障害について正しく理解できるよう座学中心の講義を行う。後半は検査用具を用いて評価の演習を行う。						
遠隔授業の 進め方	前半、遠隔授業になった場合は、Office365 Teams を用いて知的能力障害、自閉スペクトラム症等の発達障害について正しく理解できるよう講義を行う。後半は演習を要するため、原則対面授業を行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 障害の定義、社会的な障害（歴史の変遷）							
2. 知的障害の原因 遺伝子病・配偶子病				「小児科学」と関連させて復習			
3. 知的障害の原因 胎芽期・胎児期の障害				講義の復習			
4. 知能を生み出し・支える条件				「学習・認知心理学」と関連させて復習			
5. 知的障害児の早期発見のための検査法、知的障害児の言語特徴				講義の復習			
6. 自閉スペクトラム症の歴史の変遷、定義、症状				講義の復習			
7. 特異的言語発達障害の歴史の変遷、定義、症状				講義の復習			
8. 発達障害の定義、症状				講義の復習			
9. 神経発達症群 疾患の定義と症状				講義の復習			
10. 知能について、心理・教育的検査の概要（導入）				講義の復習			
11. 心理・教育的診断のためのスクリーニングテストの解説と演習				検査手順を覚える			
12. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-Vの実施手順				検査の練習			
13. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-Vの実施手順				検査の練習			
14. 心理・教育的診断と評価の方法 WISC-Vの結果の解釈				事例から検査結果を分析・考察する			
定期試験（期末レポート）							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 90 %	■その他 10 %
	基準等					授業内容の理解度を評価する。	演習中の参加状況の評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	藤田郁代監修 玉井ふみ・深浦順一編集	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」第3版	医学書院	2021
参考図書	松本治雄・後上鉄夫編著	「言語障害 事例による用語解説 第2版」	ナカニシヤ出版	2000
	小野次朗他編	「よくわかる発達障害 第2版」	ミネルヴァ書房	2010
履修要件等	「生涯発達心理学」「言語発達学」が履修済みであることが望ましい。			
オープンな 教育リソース				
研究室	1号館5階 第17研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00	

科目No.	SHD02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	小児系聴覚障害学 I		担当教員 E-Mail	廣瀬 宜礼		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	2単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	聴覚障害児へ(リ)ハビリテーションと係わりについて学ぶ。聴覚言語学習の指導法、各種コミュニケーション方法を用いた言語指導、養育指導などについて講義や演習を交えながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	1. 小児聴覚障害の評価や診断に基づく(リ)ハビリテーションについて理解できる 2. 聴覚障害児の(リ)ハビリテーション計画を立案・実施(演習)できる					
対面授業の 進め方	パワーポイントによる講義で教科書と配付資料を併用する。聴覚と小児の発達と耳鼻科領域の知識を復習しておく。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業になった場合は、teamsを使用した授業をLIVE配信にて、対面授業と同様の内容・形式で行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 聴覚障害の概要	(教科書 P2~14・プリント)			復習を30分		
2. 聴覚の発生・構造	(教科書 P46~57・プリント)			復習を30分		
3. 聴覚の構造と機能 伝音・感音系疾患の特徴1	(教科書 P58~61・プリント)			復習を30分		
4. 聴覚の構造と機能 伝音・感音系疾患の特徴2	(教科書 P61~71・プリント)			復習を30分		
5. 聴覚の構造と機能 伝音・感音系疾患の特徴3	(教科書 P61~71・P351~353 プリント)			復習を30分		
6. 遺伝性難聴	(教科書 P63~65・プリント)			復習を30分		
7. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達と聴覚障害児の特徴1	(教科書 P4~7・プリント)			復習を30分		
8. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達と聴覚障害児の特徴2	(教科書 P116~117・プリント)			復習を30分		
9. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達と聴覚障害児の特徴3	(教科書 P116~117・プリント)			復習を30分		
10. 乳幼児の身体と精神と聴覚の発達と聴覚障害児の特徴4	まとめ			復習を30分		
11. 小児の聴力の評価と診断	(ABR・OAE・新生児聴覚スクリーニング) (教科書 P114~127・プリント)			復習を30分		
12. 小児の聴力の評価と診断	(幼児聴力検査・健診)(教科書 P114~127・プリント)			復習を30分		
13. 小児の補聴と人工聴覚器	(教科書 P162~197・プリント)			復習を30分		
14. 特異な聴覚障害	(APD・Lid・ANSD) (教科書 P347~350・プリント)			復習を30分		
定期試験						
15. 総括及びフィードバック(まとめと国家試験のポイントを見据える)						
成績評価方法	項目	■小テスト 40%	■課題・レポート %	■定期試験 60%	□その他 %	
	基準等	授業内の小テストを実施し、授業の内容についての理解度を評価する		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する		

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	藤田郁代監修	「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」第3版	医学書院	2021
参考文献	宇佐美真一	(図書館にあり)「きこえと遺伝子」第2版	金原出版	2016
	中川尚志 編著	最新言語聴覚学講座 聴覚障害学	医歯薬出版	2025
	日本聴覚医学会	聴覚検査の実際 第5版	南山堂	2024
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	SHD03-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次	
授業科目名	成人系聴覚障害学 I		担当教員 E-Mail	馬屋原 邦博			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、成人聴覚障害者の評価と支援ニーズについて授業を行う。						
授業内容の要約	成人聴覚障害者の地域生活や職業生活の支援をするために、よりよいコミュニケーション方法および必要な配慮と、成人聴覚障害者の障害評価と支援ニーズを理解するための方法を学ぶ。						
学修目標 到達目標	1. 成人の聴覚障害の種類と原因が理解できる 2. 成人の聴覚障害の評価の方法が理解できる 3. 成人聴覚障害者の心理とコミュニケーション方法が理解できる						
対面授業の 進め方	教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法について実技を適宜行う。						
遠隔授業の 進め方	office365 teams を利用して、教科書にそって、講義を中心に進める。検査、評価方法についての実技は動画の視聴を行う。						
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 聴覚の機能と聴覚障害（障害が生じた時期と現在のライフステージ）				復習：授業の範囲をまとめる			
2. 聴覚障害者とのコミュニケーション①（補聴器・読話）				復習：授業の範囲をまとめる			
3. 聴覚障害者とのコミュニケーション②（手話・指文字・筆談）				復習：授業の範囲をまとめる			
4. 聴覚障害者のリハビリテーション				復習：授業の範囲をまとめる			
5. 情報収集と評価				復習：授業の範囲をまとめる			
6. 聴覚検査				復習：授業の範囲をまとめる			
7. 聴覚の評価				復習：授業の範囲をまとめる			
8. 質問紙等によるコミュニケーション評価				復習：授業の範囲をまとめる			
9. 成人聴覚障害者の心理社会面の評価				復習：授業の範囲をまとめる			
10. コミュニケーション方法の評価①				復習：授業の範囲をまとめる			
11. コミュニケーション方法の評価②				復習：授業の範囲をまとめる			
12. コミュニケーション方法の評価③				復習：授業の範囲をまとめる			
13. 先天性聴覚障害者と日本語運用力の評価				復習：授業の範囲をまとめる			
14. ニーズの確定と目標設定				復習：授業の範囲をまとめる			
定期試験							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）							
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100 %	□その他 %
	基準等					筆記試験により授業内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	小淵千絵 他（編）	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第4版			医学書院	2026	
参考図書	中川尚志他（編）	最新言語聴覚学講座 「聴覚障害学」			医歯薬出版	2025	
	佐藤紀代子 他（編）	クリア言語聴覚療法 「聴覚障害」			建帛社	2025	
	黒田生子（編）	クロスリンク 「聴覚障害学」			メジカルビュー社	2025	
履修要件等							

オープンな 教育リソース			
研究室	1号館5階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:10~13:00

科目No.	SCP02-2R		授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅱ (S T)		担当教員 E-Mail	芦塚 あおい・上田 有紀人 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院・福祉施設等で言語聴覚士として勤務した経験から、臨床基礎実習に向けて必要な基礎的知識・観察技術に関する授業を行う。					
授業内容の要約	臨床基礎実習に向け、これまでに履修した言語聴覚障害、摂食嚥下障害についての基礎的知識等をベースに専門職としての視点で観察記録を作成する					
学修目標 到達目標	1. 対象児・者の全体像、症状および訓練の観察・記録方法を修得することができる。 2. 専門用語を用いて観察記録を書くことができる。 3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害の特徴を理解し、鑑別することができる。					
対面授業の 進め方	言語聴覚学専攻教員が各自の専門分野を分担して学習を進める。 臨床基礎実習を念頭におき、積極的に学習すること。					
遠隔授業の 進め方						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 観察するということ・実習への心構え			復習：今日の内容をまとめる			
2. 臨床症状と観察ポイント(失語症・高次脳機能障害①)			復習：今日の内容をまとめる			
3. 臨床症状と観察ポイント(失語症・高次脳機能障害②)			復習：今日の内容をまとめる			
4. 臨床症状と観察ポイント(失語症・高次脳機能障害③)			復習：今日の内容をまとめる			
5. 臨床症状と観察ポイント(構音障害・音声障害)			復習：今日の内容をまとめる			
6. 臨床症状と観察ポイント(嚥下障害)			復習：今日の内容をまとめる			
7. 臨床症状と観察ポイント(聴覚障害)			復習：今日の内容をまとめる			
8. 臨床症状と観察ポイント(小児・発達)			復習：今日の内容をまとめる			
9. 解剖学実習見学事前学習*			復習：今日の内容をまとめる			
10. 解剖学実習見学*			復習：今日の内容をまとめる			
11. 臨床基礎実習準備①			復習：今日の内容をまとめる			
12. 臨床基礎実習準備②			復習：今日の内容をまとめる			
13. 合同グループワーク			復習：今日の内容をレポートにまとめる			
14. 学外学習*(特別支援学校見学:9月中)			復習：今日の内容をレポートにまとめる			
15. チーム医療について:演習・実技(P T or O T)			復習：今日の内容をレポートにまとめる			
*見学日時等は実習先と調整のうえ決定する。						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト 30%	■レポート 30%	□定期試験 %	■その他 40%	
	基準等	見学についてのレポートで評価する		授業への参加度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	大森孝一ら	言語聴覚士テキスト第4版		医歯薬出版	2025	
大阪河崎リハビリテーション大学「臨床実習の手引き」						
参考図書	藤田郁代ほか	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版		医学書院	2019	
	深浦順一他	言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編		建帛社	2017	

履修要件等	「臨床ゼミⅡ」が履修済であること		
オープンな教育リソース			
研究室	芦塚：1号館4階 第6研究室 上田：1号館5階 第16研究室	オフィスアワー	芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00 上田：毎週木曜日 12：10～13：00

科目No.	SCP06-2R		授業形態	実習	開講年次	2年次			
授業科目名	臨床見学実習Ⅱ (S T)		担当教員 E-Mail	上田 有紀人・芦塚 あおい 言語聴覚学専攻教員					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(40h) 1週間			
教員の実務経験と 授業内容の関連									
授業内容の要約	医療・介護・福祉・教育機関において、言語聴覚・摂食嚥下障害のある方の実態と言語聴覚士の業務内容を見学し、対象児・者に対する言語聴覚士の基本的態度、ニーズの把握とその解決に必要な支援の方法、関連職種の職務内容等の概略を学ぶ。								
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション従事者としての職責を自覚し指導者、対象児・者に対する基本的態度を身につける</li> <li>2. 医療・介護・福祉・教育機関の概要とそこでの言語聴覚士の職務内容を理解する</li> <li>3. 言語聴覚障害・摂食嚥下障害のうち主要なものについて、その特徴を理解し鑑別できる</li> <li>4. 対象児・者の全体像、症状および訓練を観察し、症状や反応などが記録できる</li> <li>5. 関連職種の職務内容の概要を知り、職種間連携について理解する</li> </ol>								
対面授業の 進め方	<p>実習日誌は実習中毎日作成・提出し指導言語聴覚士の校閲・指導を受ける。実習終了時は一括して大学に提出する。</p> <p>実習終了時は実習報告レポート等を作成し、実習指導者と大学に提出する。</p> <p>大学において実習報告会で発表する。</p>								
遠隔授業の 進め方									
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上				
<b>【臨床基礎実習】</b> ・医療・介護・福祉・教育機関において、見学・観察・記録・考察を行い、実習指導者の指導・助言を受ける。  <b>【臨床基礎実習報告会】</b> ・実習内容の記録、目標に対する結果、考察、今後の課題等をレポートにまとめ、報告会で発表する。 ・相互の実習体験を共有し、臨床評価実習の基盤とする。			実習前：臨床実習に必要な準備 実習中：観察した症例の記録、不明な点を調べる 実習後：実習報告会の準備等						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	■レポート	50%	□定期試験	%	■その他	50%
	基準等			提出物(必要書類・日誌・レポート・実習報告書等)		実習前指導・実習中・実習報告会における出席・学習の状況、実習指導者による評価等を総合する。			
教科書	著者	タイトル			出版社		発行年		
	※「大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚学専攻：実習の手引き」								
参考図書	藤田郁代ほか	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版			医学書院		2019		
	大森孝一ほか	言語聴覚士テキスト 第4版			医歯薬出版		2025		

履修要件等	① 実習要件を満たしていること。「臨床ゼミⅡ」「臨床実習指導Ⅱ」が取得できていること。 ② 該当年度の臨床実習指導における到達度評価（臨床実習準備・実習前評価）が合格水準に達すること		
オープンな教育リソース			
研究室	上田：1号館5階 第16研究室 芦塚：1号館4階 第6研究室	オフィスアワー	上田：毎週木曜日 12：10～13：00 芦塚：毎週火曜日 12：10～13：00

科目No	SRE30-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	ヘルスプロモーション論		担当教員 E-Mail	中村 俊介、その他 HP 専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	ヘルス プロモーション	リハビリテーション学		必修	2単位	前期(30h)
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	ヘルスプロモーション (HP) とは、WHO により「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されている。本講義では、HPの理念・理論を理解するとともに、HPを実際に展開する上での政策・課題や実践・評価方法を学ぶ。また、HP活動の具体例を取り上げ、ディスカッションを行う。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. HPにおける理念・理論について具体的に説明することができる</li> <li>2. HPにおける政策・課題について具体的に説明することができる</li> <li>3. HPにおける実践・評価方法について具体的に説明することができる</li> <li>4. 他者と建設的なディスカッションを行うことができる</li> </ol>					
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義を中心として授業を進める。必要に応じてアクティブラーニングを含めた演習を実施する。</li> <li>2. パワーポイントを中心に説明を行い、適宜、資料を配布する。</li> </ol>					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. HPの理念、戦略、活動方法				復習：授業のまとめ、ノート作り		
2. HPの健康政策、対象、場所、課題				復習：授業のまとめ、ノート作り		
3. 健康行動に必要な理論 健康新年モデル、セルフエカシー等				復習：授業のまとめ、ノート作り		
4. 生活習慣におけるHP① 食生活の指針、食事バランスガイド				復習：授業のまとめ、ノート作り		
5. 生活習慣におけるHP② 栄養・食生活のアセスメント				復習：授業のまとめ、ノート作り		
6. 生活習慣におけるHP③ 身体活動・運動ガイド				復習：授業のまとめ、ノート作り		
7. 生活習慣におけるHP④ 身体活動・運動のアセスメント				復習：授業のまとめ、ノート作り		
8. 生活習慣におけるHP⑤ 睡眠ガイド				復習：授業のまとめ、ノート作り		
9. 生活習慣におけるHP⑥ 睡眠・休養のアセスメント				復習：授業のまとめ、ノート作り		
10. 生活習慣におけるHP⑦ 情報収集とアセスメント				復習：授業のまとめ、ノート作り		
11. ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアの予防と治療				復習：授業のまとめ、ノート作り		
12. 加齢による認知機能の変化				復習：授業のまとめ、ノート作り		
13. 日常生活におけるメンタルヘルス				復習：授業のまとめ、ノート作り		
14. ライフステージに応じた人々の生活を守るための支援				復習：授業のまとめ、ノート作り		
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)						

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 100%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等		毎回の講義終了時のレポート提出、内容によって総合的に評価を行う		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		なし			
参考図書		なし			
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	研究科棟 4階 第 144 研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30		

科目No	SRE31-2R	授業形態	実習	開講年次	2年次
授業科目名	ヘルスプロモーション実習	担当教員 E-Mail	HP 教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数	履修期間
	ヘルスプロモーション	リハビリテーション学		必修	1単位 後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連					
授業内容の要約	ヘルスプロモーション論で学んだことを踏まえて、ヘルスプロモーション(HP)の理論を実践的に学び、個人の健康向上や地域社会の人々の健康支援のためのプログラムを企画・実施する能力を養うことを目的とする。グループ活動を通じて健康課題の分析による効果的な介入プログラムの企画、実践を行い、発表、討論を行う。				
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康支援プログラムの立案ができるようになる。</li> <li>対象者とのコミュニケーションがスムーズにできるようになる</li> <li>自らの働きかけが、他者へ大きな影響を及ぼすことを認識する</li> <li>他者と建設的なディスカッションを行うことができる</li> </ol>				
対面授業の 進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>HPの理論を実際の現場で試行する実習として授業をすすめる。</li> <li>グループで企画を立案し、プログラム指導、評価を行なう</li> <li>プログラムの修正を行った後、同じ対象者に対して2回目の指導を行なう</li> </ol>				
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。				
授業計画			授業時間外に必要な学修	○分以上	
1. オリエンテーション HPの理論と実際			復習：授業のまとめ、ノート作り		
2. 地域社会で取組まれているHP例(貝塚市の取組み)			復習：授業のまとめ、ノート作り		
3. HPの対象者別プログラムの実際、評価方法			復習：授業のまとめ、ノート作り		
4. 健康支援プログラムの立案①ブレインストーミング			復習：授業のまとめ、ノート作り		
5. 健康支援プログラムの立案①まとめ、シミュレーション			復習：授業のまとめ、ノート作り		
6. 健康支援プログラムの実施①準備・実施・片づけ			復習：授業のまとめ、ノート作り		
7. 健康支援プログラムの実施①準備・実施・片づけ			復習：授業のまとめ、ノート作り		
8. 健康支援プログラムの評価①個人・グループ			復習：授業のまとめ、ノート作り		
9. 健康支援プログラムの報告①個人・グループ			復習：授業のまとめ、ノート作り		
10. 健康支援プログラムの立案②①の修正案			復習：授業のまとめ、ノート作り		
11. 健康支援プログラムの実施②①の修正実施			復習：授業のまとめ、ノート作り		
12. 健康支援プログラムの実施②①の修正実施			復習：プログラム 実施レポートの作成		
13. 健康支援プログラムの評価②個人・グループ			復習：授業のまとめ、ノート作り		
14. 健康支援プログラムの報告②個人・グループ			復習：授業のまとめ、ノート作り		
15. 総括及びフィードバック(定期試験の講評・解説)			復習：授業全体の振り返りレポート		

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 80%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		プログラム実施、及びレポート内容等により評価を行う。		準備・片付などの取り組む姿勢
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
		なし			
参考図書		なし			
履修要件等					
オープンな教育リソース					
研究室			オフィスアワー		

科目No	SDA01-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	データサイエンス論 I (含演習)		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	データサイエンス	必修	2単位	前期 (30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	データサイエンスの知識を生かして主体的に研究を継続する教員が、自身の経験を活かしてデータサイエンスに関する知識を教授する。					
授業内容の要約	データサイエンス論 I では、データサイエンスの基礎概念と役割を学び、ヘルスプロモーション分野への応用可能性を探る。 データの種類、収集方法、前処理、可視化の理念を学習し、統計学やプログラミングの基礎知識を身につけることを目指す。 実例を交えながら、後続の実習科目への準備を整える。					
学修目標 到達目標	<p>ヘルスプロモーション分野におけるデータサイエンスの役割と基礎的なプロセスを理解し、その応用可能性を考察する能力を培うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスの基本理解：データサイエンスの定義、データ駆動型思考、およびヘルスプロモーションにおけるデータの役割を説明できる。</li> <li>データ処理の理念理解：データの種類、適切な収集方法、前処理（クレンジング）の必要性と基本的な手順、および効果的な可視化の理念を説明できる。</li> <li>基礎知識の習得：データ分析に必要な統計学の基本的な概念（例：平均、分散、相関など）と、データ操作・分析に用いられるプログラミングの基礎知識（例：データ構造、基本的なコマンド）を理解できる。</li> <li>応用可能性の考察：ヘルスプロモーション分野における具体的な実例に基づき、学んだデータサイエンスのプロセスをどのように応用できるか、自らの言葉で考察し、後続の実習科目への接続イメージを持つことができる。</li> </ol>					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。授業時には、まず講義を行った後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いて PBL 形式で演習を行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。また演習の達成度をグループで発表する機会を設けることによりアクティブ・ラーニングを活性化する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams, stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		45分以上	
1. オリエンテーションとデータサイエンスの世界			授業で紹介された応用事例について、インターネットで追加の情報を調べておく。			
2. ヘルスプロモーションにおける課題とデータの役割			自身の関心領域におけるヘルスデータを一つ選び、そのデータがどのように活用できるか考える。			
3. データ（情報）の種類と構造			構造化データの例と非構造化データの例をそれぞれ一つずつ見つけ、その特徴をまとめておく。			
4. データ収集の基礎理論			適切なデータ収集方法の選択が分析結果に与える影響について考察をまとめる。			
5. データベースとデータマネジメントの基礎			データベースでデータを管理する理由とデータ品質が低い場合に起こり得る問題を考察する。			
6. データの「前処理」の必要性			授業で扱ったデータの欠損値処理の例題を復習する。			

7. データサイエンスとプログラミングの基礎知識	課題：データの前処理を中心としたプログラミングの練習問題を解く。				
8. データの可視化の理念と実践	課題：簡単なデータセットを用いて、異なる種類のグラフを作成してみる。				
9. 統計学の基礎概念 (I)：記述統計	記述統計を活用して、データの中身を考察する。				
10. 統計学の基礎概念 (II)：検定の考え方	検定結果 (p 値・有意差) を用いた判断と限界をまとめる。				
11. 統計学の基礎概念 (III)：多変量解析	主成分分析・回帰分析などの例を通じて、多変量解析が何に活用できるか考察をまとめる。				
12. ヘルスプロモーション応用事例 (I)：公衆衛生	授業で扱った公衆衛生のデータ活用事例について、そのデータ分析が政策決定にどのように影響したかを考察する。				
13. ヘルスプロモーション応用事例 (II)：行動変容と介入効果	ヘルスプロモーションプログラムの評価においてデータサイエンスが果たす役割について、小論文を準備する。				
14. 講義の総復習と試験準備	定期試験または期末レポートの準備。				
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 80%	□定期試験 %	□その他 20%
	基準等		最終課題に取り組み、期日までに提出する。提出状況、内容を吟味する。		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	手良向 聡	ヘルスデータサイエンス入門 —医療・健康データの活用を目指して—		朝倉書店	2023
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No	SDA02-2R		授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	データサイエンス論Ⅱ(含演習)		担当教員 E-Mail	川瀬 広大		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間	
	ヘルスプロモーション	データサイエンス	必修	2単位	後期(30h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	データサイエンスの知識を生かして主体的に研究を継続する教員が、自身の経験を活かしてデータサイエンスに関する知識を教授する。					
授業内容の要約	データサイエンス論Ⅱでは、データの分析手法とモデル構築について深く学ぶ。 記述統計、推測統計、回帰分析、機械学習の基礎を習得し、PythonやRを用いた簡単なデータ解析を実施する。 ヘルスプロモーションに関連するデータを題材に、データの解釈と課題解決に必要な思考力を養い、実践的なデータサイエンススキルの習得を目指す。					
学修目標 到達目標	記述統計、推測統計から回帰分析、機械学習に至る主要なデータ分析手法を習得し、ヘルスプロモーション分野の課題解決に必要なデータの分析・解釈能力と実践的なモデル構築スキルを身につけること 1. 統計分析の適用：データの種類や分析目的に応じて、適切な記述統計（分布、要約）および推測統計（仮説検定、区間推定）の手法を選択し、適用できる。 2. モデル構築の基礎：回帰分析や機械学習の基本的な概念を理解し、健康関連の課題（例：予測、分類）に対して、簡単なモデルを構築する手順を説明できる。 3. プログラミングによる実践力：PythonまたはRを用いて、健康関連データを読み込み、前処理し、基本的な統計解析やモデル構築を実行できる。 4. 解釈と考察力：分析結果やモデルの評価指標を正確に解釈し、その結果がヘルスプロモーションの現場や政策決定にどのような意味を持つか、論理的に考察し提言できる。					
対面授業の 進め方	講義と演習を中心に授業をすすめる。授業時には、まず講義を行った後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いてPBL形式で演習を行う。どのパソコンを用いるかについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う。また演習の達成度をグループで発表する機会を設けることによりアクティブ・ラーニングを活性化する。					
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams, stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組み課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		45分以上	
1. データサイエンス論Ⅱの導入とデータ分析プロセス			前期の「データサイエンス論Ⅰ」で学んだ主要概念を復習し、Ⅱで何を深掘りしたいか目標をまとめる。			
2. Python/Rによるデータ分析環境の確認			各自の環境で、与えられたヘルスデータを読み込み、基本的な欠損値チェックを行う。			
3. 記述統計の再確認と応用			自身の興味のあるヘルスデータを用いて記述統計量を計算してみる。			
4. 推測統計の基礎と仮説検定の考え方			仮説検定がヘルスプロモーションプログラムの評価にどのように役立つか考察する。			
5. 2群間の差の検定			授業で扱ったt検定の例題について、検定結果の解釈をレポートする。			
6. 多群間の比較（分散分析：ANOVA）			ANOVAがt検定とどのように異なるか、またどのような場面で有効か整理する。			

7. 単回帰・重回帰分析の理論と解釈		健康データを用いて、簡単な相関と単回帰分析の結果を解釈する。			
8. ロジスティック回帰とリスク予測		ロジスティック回帰のオッズ比が、健康教育の意思決定にどのように利用されるか考察する。			
9. 機械学習の基礎と分類 (Classification)		機械学習が医療・健康分野で具体的にどのように活用されているか、最新事例を調査する。			
10. モデルの評価と過学習 (Overfitting)		分類モデルの評価指標について、それぞれの意味とトレードオフを整理する。			
11. データ分析演習 (I) : 記述統計・可視化の実装		授業で扱った可視化手法を応用し、別の健康指標の分布をグラフ化する。			
12. データ分析演習 (II) : 回帰モデルの実装と解釈		最終課題に向け、連続値を対象とした分析に適用できるヘルスプロモーションのテーマを検討する。			
13. データ分析演習 (III) : 分類モデルの実装と解釈		最終課題に向け、二値の判別を目的とした分析に適用できるヘルスプロモーションのテーマを検討する。			
14. 講義の総復習と試験準備		定期試験または期末レポートの準備。			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の講評・解説)					
成績評価方法	項目	□小テスト %	□課題・レポート 80%	□定期試験 %	□その他 20%
	基準等		最終課題に取り組み、期日までに提出する。提出状況、内容を吟味する。		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	手良向 聡	ヘルスデータサイエンス入門 —医療・健康データの活用を目指して—		朝倉書店	2023
参考図書					
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	1号館5階 第1共同研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目№	SAS03-2R	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	研究ゼミⅢ	担当教員 E-Mail	川瀬 広大、中村 俊介		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	研究ゼミ	必修	4単位	前期(60h)
教員の実務経験と 授業内容の関連					
授業内容の要約	<p>「研究ゼミⅢ」は、前半と後半で内容が異なる。</p> <p>前半 データサイエンスの基盤となるプログラミングの基礎知識と実践技能を習得する演習科目である。Python または R などの主要な言語を用いて、データの読み込み、変数、制御構文、基本的なデータ構造といったプログラミングの基礎文法を集中的に学ぶ。また、健康関連データを題材に、データの前処理や基礎的な可視化をプログラミングで実行する演習を重ねることで、応用科目や卒業研究で必要となる実践的なデータ処理能力の基礎を確立する。</p> <p>後半 種々の健康産業施設を訪問し、関係者の方々の業務の実際を体験するとともに施設全体を見学する。この健康産業施設における体験学習を通して当該施設が提供する健康の維持や向上に関わる業務内容・地域社会における役割・関連する健康産業との連携について学ぶ 対象者や顧客との信頼関係を構築するための基本的態度や行動を学ぶ</p>				
学修目標 到達目標	<p>前半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データサイエンスにおける必須ツールであるプログラミング言語 (Python/R など) の基礎的な文法とデータ操作技術、及び情報を適切に収集・分析する知識と技能を習得する</li> <li>2. 他者への思いやりを持って協働できる基本能力を身につける</li> <li>3. 応用科目や卒業研究で必要となる実践的なデータ処理能力の基礎を確立する</li> </ol> <p>後半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の維持や向上を目的とした種々の健康産業が果たす役割や機能連携について理解を深め、地域住民の生活を支援する視点を身につける</li> <li>2. 事前学修や事後学修を通して地域住民が求める健康産業への期待と要望を理解するとともに、活動状況を振り返り、自らの課題と目標を認識する</li> <li>3. 適切な接遇技法やコミュニケーション技法を理解し実践できるようになる</li> </ol>				
対面授業の 進め方	<p>前半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義と演習を中心に授業をすすめる</li> <li>2. 講義後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いて PBL 形式で演習を行う。使用するパソコンについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う</li> <li>3. 演習の達成度をグループで発表することによりアクティブ・ラーニングを活性化させる</li> <li>4. 本講義では、プログラミングの基礎を学ぶ部分で Google Colab を使用する。講義前に Google のアカウントを作成しておく必要がある</li> </ol> <p>後半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内にて事前・事後学修、及び健康産業施設訪問などのアクティブラーニングを利用した学修活動を行う</li> <li>2. 体験内容を報告書にまとめて報告会にて学修内容を共有する</li> <li>3. 身体を動かしやすい服装、運動靴で参加する</li> </ol>				
遠隔授業の 進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する				

授業計画	授業時間外に必要な学修	45分以上
1. オリエンテーションとプログラミングの世界	開発環境を自身の PC に設定し、簡単な「Hello World」を出力する練習を行い、操作に慣れる。	
2. 基本文法 I : 変数とデータ型	課題 : 複数の健康関連データ (例 : 年齢、BMI、喫煙有無) の変数を定義し、簡単な計算と文字列操作を行う。	
3. 基本文法 II : 条件分岐 (if 文)	授業で扱った if 文の課題を、より複雑な条件 (例 : AND/OR) で書き換え、動作を確認する。	
4. 基本文法 III : 繰り返し (for, while 文)	課題 : for 文を使って複数の健康データを処理するプログラムを作成し、結果を出力する。	
5. 関数とモジュールの利用	自身が使用する関数を一つ定義し、複数の値でテスト実行する。	
6. データ構造 : リストとタプル・辞書とセット	課題 : 疾患名など身近なデータを使ってリスト・辞書を作成し、特定の要素の検索・追加・削除・置換を行うプログラムを作成する。	
7. ライブラリの基礎知識 (Pandas・NumPy)	データフレームの概念について復習し、表計算ソフトのデータ構造とプログラミングの違いを整理する。	
8. Pandas : csv の読み込みと基本操作	課題 : 提供された CSV ファイルを読み込み、そのデータの一部を抽出し、新しい CSV ファイルに書き出す。	
9. データの前処理 I : 欠損値処理・型変換・フィルタリング	課題 : 提供されたデータを用いて、欠損値の確認・処理、フィルタリングを実行する。	
10. データの前処理 II : 集計操作とグループ化 (groupby)	課題 : 提供されたサンプルデータを用いて、2 種類のカテゴリ変数で集計を行い、記述統計量を groupby で算出する。	
11. データ前処理 III : 多変量グループ化とデータ出力	課題 : 3 種類以上のグループ化を行い、3 種類以上の統計量を同時に算出するプログラムを作成する。	
12. 基礎的なデータの可視化 (Seaborn)	課題 : 分析結果の集計データを用いて、棒グラフと散布図をプログラミングで作成し、そのグラフから読み取れる情報をまとめる。	
13. 協働と倫理的データ活用の基礎	チーム演習 : 簡単な分析タスクを分担し、分かりやすいコードとコメントを用いたプログラムを共同で作成する。	
14. 総合演習と応用への橋渡し	定期試験または期末レポート (総合演習) の準備。	
定期試験 (期末レポート)		
15. オリエンテーション① 健康産業施設訪問 説明	復習 : 授業のまとめ 予習 : 敬語	
16. オリエンテーション② 体験学習の Point、見学視点、接遇等	復習 : 授業のまとめ 予習 : 業種業務内容	
17. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査	復習 : 授業のまとめ	
18. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査	予習 : 質問内容、行動目標	
19. 健康産業施設への訪問①	復習 : 訪問の振り返り	
20. 健康産業施設への訪問①	予習 : 報告内容の整理	
21. 体験内容報告書の作成①	復習 : 報告書の書式	
22. 体験内容報告書の報告①	復習 : 報告、質疑応答の振り返り	
23. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査	復習 : 授業のまとめ	
24. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査	予習 : 質問内容、行動目標	
25. 健康産業施設への訪問②	復習 : 訪問の振り返り	
26. 健康産業施設への訪問②	予習 : 報告内容の整理	
27. 体験内容報告書の作成②	復習 : 報告書の書式	
28. 体験内容報告書の報告②	復習 : 報告、質疑応答の振り返り	
29. 各健康産業施設の事業内容をまとめる、自己課題の抽出	復習 : 授業のまとめ	
30. 総括及びフィードバック (授業の講評・次年度への課題)	復習 : 授業のまとめ	

成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 80%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		前半：提出課題の内容により評価を行う。 後半：レポート内容、発表状況により評価を行う		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	Wes McKinney	Python によるデータ分析入門 第3版 — pandas、NumPy、Jupyter を使ったデータ処理		オライリー・ジャパン	2023
参考図書	伊藤裕一	たった1日で基本が身に付く！Python 超入門		技術評論社	2017
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	川瀬：1号館5階 第1共同研究室 中村：研究科棟4階 第144研究室	オフィスアワー	※検討中		

科目No	SAS04-2R	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	研究ゼミⅣ	担当教員 E-Mail	川瀬 広大、中裕 俊介		
基本項目	専攻	科目区分	単位数		履修期間
	ヘルスプロモーション	研究ゼミ	必修	4単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連					
授業内容の要約	<p>「研究ゼミⅣ」は、前半と後半で内容が異なる。</p> <p>前半          本科目は、「研究ゼミⅢ」で習得したプログラミングの基礎を発展させ、データサイエンスにおける応用的な分析スキルを習得する演習である。Python または R の専門ライブラリ (Pandas、Scikit-learn など) を用い、健康データを題材に、記述・推測統計の実装、回帰分析、および機械学習の初歩的なモデル構築を行う。実践的な応用演習を通じて、論理的なデータ解釈能力と、コードの共有・レビューを通じたチームでの課題解決能力を育成する。</p> <p>後半          種々の健康産業施設を訪問し、関係者の方々の業務の実際を体験するとともに施設全体を見学する。この健康産業施設における体験学習を通して当該施設が提供する健康の維持や向上に関わる業務内容・地域社会における役割・関連する健康産業との連携について学ぶ          対象者や顧客との信頼関係を構築するための基本的態度や行動を学ぶ</p>				
学修目標 到達目標	<p>前半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. データサイエンスにおける必須ツールであるプログラミング言語 (Python/R など) の基礎的な文法とデータ操作技術、及び情報を適切に収集・分析する知識と技能を習得する</li> <li>2. 他者への思いやりを持って協働できる基本能力を身につける</li> <li>3. 応用科目や卒業研究で必要となる実践的なデータ処理能力の基礎を確立する</li> </ol> <p>後半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の維持や向上を目的とした種々の健康産業が果たす役割や機能連携について理解を深め、地域住民の生活を支援する視点を身につける</li> <li>2. 事前学修や事後学修を通して地域住民が求める健康産業への期待と要望を理解するとともに、活動状況を振り返り、自らの課題と目標を認識する</li> <li>3. 適切な接遇技法やコミュニケーション技法を理解し実践できるようになる</li> </ol>				
対面授業の 進め方	<p>前半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義と演習を中心に授業をすすめる</li> <li>2. 講義後に自身のパソコンか、専用教室のパソコンを用いて PBL 形式で演習を行う。使用するパソコンについては事前にメールで連絡する。演習では、教員が巡回し適宜アドバイスを行う</li> <li>3. 演習の達成度をグループで発表することによりアクティブ・ラーニングを活性化する</li> <li>4. 本講義では、プログラミングの基礎を学ぶ部分で Google Colab を使用する。講義前に Google のアカウントを作成しておく必要がある</li> </ol> <p>後半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内にて事前・事後学修、及び健康産業施設訪問などのアクティブラーニングを利用した学修活動を行う</li> <li>2. 体験内容を報告書にまとめて報告会にて学修内容を共有する</li> <li>3. 身体を動かしやすい服装、運動靴で参加する</li> </ol>				
遠隔授業の 進め方	<p>遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。講義中の質問などはチャット機能などを用いて対応する。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。講義後質疑には、office365 teams やメール、電話などで対応する。</p>				

授業計画	授業時間外に必要な学修	45分以上
1. オリエンテーションと応用分析の環境設定	後期を通じて扱う応用課題のテーマを検討し、必要なデータセット（公開データ等）を探しておく。	
2. データフレームの応用操作（Pandas/Tidyverse）	課題：複数の CSV ファイルを結合し、欠損値を含む列に対して補完処理を適用する。	
3. 統計解析の実装 I：記述・推測統計	授業で扱った統計検定について、プログラミングでの実行結果と、手計算での結果を比較し、理解を深める。	
4. 統計解析の実装 II：回帰分析	課題：健康データを用いて線形回帰モデルを構築し、係数がヘルスプロモーション施策にどう活かせるか考察する。	
5. Matplotlib によるデータ可視化の応用と効果的な伝達	授業で扱った応用的なグラフを再現し、可視化がデータ解釈に与える影響について考察する。	
6. 機械学習の基礎とデータ分割	機械学習のモデル構築において、データを分割する理由と効果について整理する。	
7. 予測モデル I：ロジスティック回帰	課題：与えられたヘルスデータを用いてロジスティック回帰モデルを構築し、予測結果を解釈する。	
8. 予測モデル II：非線形モデルの初歩	ロジスティック回帰と決定木の違い（解釈性など）について調べ、まとめる。	
9. モデルの評価とチューニング	授業で扱ったモデルの評価指標について、それぞれの指標が示す意味を正確に復習する。	
10. 基礎的なデータ分析フローの実践	課題：提供されたデータを使って前処理から簡易分析までの流れを一通り実践し、分析フローを理解する。	
11. 協働実践 I：チームでのデータ分析	チームで役割分担し、データ分析のミニプロジェクトを共同で進める。さらに、メンバー同士でコードレビューを行い、分析品質の向上を図る。	
12. 協働実践 II：倫理的配慮と報告	最終課題（PBL）の分析結果と、それに基づくヘルスプロモーションへの提言をまとめる。	
13. 総合応用演習と発表準備	最終課題の発表資料を作成し、チーム内（または個人）で発表練習を行う。	
14. 総合発表会とフィードバック	定期試験または期末レポート（総合演習）の準備。	
定期試験（期末レポート）		
15. オリエンテーション① 健康産業施設訪問 説明	復習：授業のまとめ 予習：敬語	
16. オリエンテーション② 体験学習の Point、見学視点、接遇等	復習：授業のまとめ 予習：業種業務内容	
17. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査	復習：授業のまとめ	
18. 健康産業施設の提示① 業種・業務内容・役割などの調査	予習：質問内容、行動目標	
19. 健康産業施設への訪問①	復習：訪問の振り返り	
20. 健康産業施設への訪問①	予習：報告内容の整理	
21. 体験内容報告書の作成①	復習：報告書の書式	
22. 体験内容報告書の報告①	復習：報告、質疑応答の振り返り	
23. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査	復習：授業のまとめ	
24. 健康産業施設の提示② 業種・業務内容・役割などの調査	予習：質問内容、行動目標	
25. 健康産業施設への訪問②	復習：訪問の振り返り	

26. 健康産業施設への訪問②		予習：報告内容の整理			
27. 体験内容報告書の作成②		復習：報告書の書式			
28. 体験内容報告書の報告②		復習：報告、質疑応答の振返り			
29. 各健康産業施設の事業内容をまとめる、自己課題の抽出		復習：授業のまとめ			
30. 総括及びフィードバック（授業の講評・次年度への課題）					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・レポート 80%	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 20%
	基準等		前半：提出課題の内容により評価を行う。 後半：レポート内容、発表状況により評価を行う		講義中に課された課題の提出状況、内容を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	Wes McKinney	Python によるデータ分析入門 第3版 —pandas、NumPy、Jupyter を使ったデータ処理		オライリー・ジャパン	2023
参考図書		なし			
履修要件等	特になし				
オープンな教育リソース					
研究室	(川瀬) 1号館5階 第1共同研究室 (中村) 研究科棟4階 第144研究室	オフィスアワー	※検討中		